

鹿児島大学総合研究博物館年報

Annual Report of the Kagoshima University Museum

No.20

2021・2022

鹿児島大学総合研究博物館

The Kagoshima University Museum

鹿児島大学総合研究博物館年報
Annual Report of the Kagoshima University Museum

No.20

2021・2022



鹿児島大学総合研究博物館
The Kagoshima University Museum

中表紙

企画展「未整理植物標本をはさんだ新聞と大正コマーシャルアート」で紹介した画像のうち、人気投票上位のもの。

年報 No.20 目次

2021 年度

1	総合研究博物館の組織－2021 年度－	橋本達也	1
	館長 研究部 運営委員 兼務教員 学外協力研究者 専門部会		
2	2021 年度の企画事業		
	1. 市民講座		
	第 39 回市民講座 「大隅大崎 神領 10 号と古墳のまつりー5 世紀の前方 後円墳祭祀と須恵器・土師器ー」	橋本	3
	2. 公開講座		
	第 21 回自然体験ツアー 「高隈山の植物」	田金秀一郎	3
	3. 展示		
	(1) 企画展「植物標本レスキュー」	田金	3
	(2) 特別公開「パンダゲンロクダイ 世界初公開 !!」	本村浩之	4
	(3) 企画展「未整理植物標本をはさんだ新聞と大正コマーシャルアート」	橋本	4
	(4) 特別公開「鹿児島県のピグミーシーホース」	本村	5
	(5) 特別公開「ホシカゲアゴアマダイ」	本村	5
	(6) 企画展「奄美大島のトワライトゾーンの魚たち」	本村	5
	4. その他の活動		
	(1) 第 3 回バックヤードツアー 植物標本庫	田金	6
3	常設展示室	上村 文	7
	1. 入館者数 2. 利用・活用状況 3. 室内環境		
	4. 常設展示室アンケート		
	5. 常設展示室 展示品目録－2021 年度－（2020 年度からの変更点）		
	6. 常設展示室の課題		
4	教育活動		
	1. 博物館実習・博物館学関連講義	橋本・本村・田金	11
	2. 教員免許更新講習	橋本	11
	3. インターンシップ	橋本	12
5	出版・広報	橋本	12
6	ボランティア活動	田金・本村	13
7	国際交流	本村	13
8	標本管理活動		
	1. 植物標本室	田金	14
	2. 動物標本の利用状況	本村	15
	3. その他の標本等の管理・利用	橋本	17
9	2021 年度 専任教員の活動業績	各教員	18
10	2021 年度 ポスター	各教員	29
11	2021 年度 魚類ポスター	本村	31

12	総合研究博物館の組織－2022 年度－	橋本達也	33
	館長 研究部 運営委員 兼務教員 学外協力研究者 専門部会		
13	2022 年度の企画事業		
	1. 市民講座		
	第 40 回市民講座 「江戸後期薩摩藩の学問と学者たちの交流―増田直治をめぐって―」	橋本	35
	2. 公開講座		
	第 22 回自然体験ツアー 「冠岳の植物」	田金秀一郎	35
	3. 展示		
	(1) 特別公開「キモツキクサアジサイ」	田金	36
	4. その他の活動		
	(1) 第 4 回バックヤードツアー 植物標本庫	田金	36
	5. 共催・後援事業		
	(1) エデュパーク・サイエンスキャンプ 2022 in 種子島 & 桜島	本村浩之	36
	(2) モニタリングワークショップ「モニタリング調査に参加してみませんか」	田金	37
	(3) モニタリングワークショップ「地域の目が捉える外来植物の侵入」	田金	37
	(4) 企画展「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島 世界自然遺産展」	田金	37
14	常設展示室	上村 文	38
	1. 入館者数 2. 利用・活用状況 3. 室内環境		
	4. 常設展示室アンケート		
	5. 常設展示室 展示品目録－2022 年度－（2021 年度からの変更点）		
	6. 常設展示室の課題		
15	教育活動		
	1. 博物館実習・博物館学関連講義	橋本・本村・田金	42
16	出版・広報	橋本	43
17	ボランティア活動	田金・本村	43
18	国際交流	本村・田金	44
19	標本管理活動		
	1. 植物標本室	田金	44
	2. 動物標本の利用状況	本村	45
	3. その他の標本等の管理・利用	橋本	49
20	2022 年度 専任教員の活動業績	各教員	51
21	2022 年度 ポスター	田金・橋本	61

1 総合研究博物館の組織－2021 年度－

館 長 本村 浩之

研究部

資料研究系 橋本 達也 教授 考古学
 分析研究系 本村 浩之 教授 魚類分類学
 田金秀一郎 特任助教 植物分類学
 大西 佳子 助教 地球人間圏科学

事務補佐員 森田 公代

事務補佐員（常設展示室） 上村 文

技術補佐員 大西 聡子

技能補佐員 西原 茉莉

研究支援推進員 福元 しげ子

事 務 局 研究推進部研究協力課研究支援係

運営委員（総合研究博物館専任教員を除く）

法文学部 福永 善隆 准教授 教育学部 平野 拓朗 准教授
 理学部 上野 大輔 准教授 医学部 牧迫飛雄馬 教授
 歯学部 西 恭宏 准教授 工学部 加藤 龍蔵 准教授
 農学部 朴 炳宰 准教授 水産学部 中村 啓彦 教授
 共同獣医学部 小尾 岳士 准教授
 医歯学総合研究科 後藤 哲哉 教授

兼務教員（敬称略）

丹羽 謙治：法文教育学域法文系（法文学部）（日本近世文学・日本近世文化）
 渡辺 芳郎：法文教育学域法文系（法文学部）（考古学）
 石田 智子：法文教育学域法文系（法文学部）（考古学）
 小栗 有子：法文教育学域法文系（法文学部）（社会教育学・環境教育学）
 兼城 糸絵：法文教育学域法文系（法文学部）（文化人類学）
 小林 善仁：法文教育学域法文系（法文学部）（歴史地理学）
 松井 智彰：法文教育学域教育学系（教育学部）（鉱物学）
 川西 基博：法文教育学域教育学系（教育学部）（植物生態学）
 栗和田 隆：法文教育学域教育学系（教育学部）（動物生態学）
 河野 元治：理工学域理学系（理学部）（地球科学）
 上野 大輔：理工学域理学系（理学部）（水族寄生虫学、動物系統分類学）
 乙丸 孝之介：農水産獣医学域獣医学系（共同獣医学部）（臨床獣医学）
 中西 良孝：農水産獣医学域農学系（農学部）（畜産学）
 山本 雅史：農水産獣医学域農学系（農学部）（果樹園芸学）
 一谷 勝之：農水産獣医学域農学系（農学部）（植物育種学）
 鶴川 信：農水産獣医学域農学系（農学部）（森林生態学）
 坂巻 祥孝：農水産獣医学域農学系（農学部）（害虫学（昆虫学））
 大富 潤：農水産獣医学域水産学系（水産学部）（水産生物学）

佐久間 美明：農水産獣医学域水産学系（水産学部）（漁業管理学）
 寺田 竜太：農水産獣医学域水産学系（連合大学院農学研究科）（藻類学・水産植物学）
 西 隆一郎：農水産獣医学域水産学系（水産学部）（沿岸海洋学、海岸環境工学）
 山本 智子：農水産獣医学域水産学系（水産学部）（海洋生態学）
 河合 溪：総合科学域総合研究学系（国際島嶼研）（海洋生物学）
 高宮 広士：総合科学域総合研究学系（国際島嶼研）（先史人類学）
 大塚 靖：総合科学域総合研究学系（国際島嶼研）（衛生動物学）
 山本 宗立：総合科学域総合研究学系（国際島嶼研）（熱帯農学・民族植物学）
 川端 訓代：総合科学域総合教育学系（共通教育センター）（地球科学（地質学・地球化学）・統計教育）
 藤田 志歩：総合科学域総合教育学系（共通教育センター）（霊長類学・生態学・行動学）

学外協力研究者（敬称略）

石畑 清武：鹿児島大学名誉教授（熱帯園芸学）
 上野 浩子：公益財団法人かごしま環境未来財団嘱託員（魚類寄生虫学）
 浦嶋 幸世：鹿児島大学名誉教授（地質における元素の移動と濃集）
 大木 公彦：鹿児島大学名誉教授（第四紀層位学・微古生物学（底生有孔虫）、海洋質学）
 鹿野 和彦：産業技術総合研究所地質調査総合センター客員研究員（地質学）
 木下 紀正：鹿児島大学名誉教授（環境物理学、素粒子・原子核物理学）
 坂元 隼雄：鹿児島大学名誉教授（地球化学、分析化学、環境化学）
 櫻井 真：鹿児島純心女子短期大学生活学科教授（動物形態学、鹿児島県内野生生物の生態・分布調査、野生動物保存生態学）
 塚原 潤三：鹿児島大学名誉教授（発生生物学）
 土田 充義：鹿児島大学名誉教授・NPO 法人文化財保存工学研究室理事長（日本建築史）
 中村 潤平：公益財団法人鹿児島水族館公社職員ハタ科魚類の分類および生物地理学的研究、鹿児島県の魚類相
 福田 晴夫：環境省希少野生動植物種保存推進員（生物学、昆虫生態学）
 藤井 琢磨：公益財団法人鹿児島水族館公社職員動物分類、サンゴ礁生物多様性、進化系統、生物地理
 丸野 勝敏：（マメ科ハギ属カヤツリグサ科スゲ属植物の分類）
 山下 智：鹿児島大学名誉教授（魚類・両生類・ほ乳類の味覚神経情報の比較生理学）
 山根 正氣：鹿児島大学名誉教授（有剣ハチ類・アリ類の分類学および生物地理学）
 湯川 淳一：鹿児島大学名誉教授・九州大学名誉教授（タマバエ類の分類学的及び生態学的研究）

専門部会

委員長 山本 智子（水産）
 委員 石田 智子（法文） 鶴川 信（農） 栗和田 隆（教育）
 寺田 竜太（連大） 大塚 靖（島嶼研）
 総合研究博物館専任教員 4 名

2 2021 年度の企画事業

1. 市民講座

第 39 回市民講座 「大隅大崎 神領 10 号と古墳のまつりー5 世紀の前方後円墳祭祀と須恵器・土師器ー」

2021 年 8 月 7 日（土）13：30～14：30、総合研究博物館・橋本達也を講師として、オンラインによる市民講座を開催した。参加無料。

COVID-19 の拡大以降、対面での講座は実施できなくなったため、初めてのオンライン講座となった。内容は、研究報告 No.15 として刊行した大崎町神領 10 号墳の発掘調査成果のうち、土器祭祀にかかわる研究を紹介するものである。

Google フォームを利用し、事前に申し込みを受け付けたところ、北海道から沖縄まで 80 名の申し込みがあった。講演は Zoom を利用した。講演は円滑に実施でき、また質疑応答でも活発な発言があった。

初のオンライン講座という実験的な取り組みであったが、これまで当館のイベントに参加できなかったような遠隔地からの多くの参加者があり非常に有益であった。一方、WEB 対応がハードルになっている参加希望者層がある程度存在する可能性があり、今後の活動に当たってはまだまだ方法論の検討が必要である。



第 39 回 市民講座（スライド）

2. 公開講座

第 21 回自然体験ツアー 「高隈山の植物」

2021 年 11 月 6 日（土）10：00～15：00。ブナの南限として知られる高隈山系の御岳（標高 1181 m）に生育する植物を解説するイベントとして企画した。3 名の申込者があり、催行の予定で準備を進めていたものの、当日天候不順となりイベントを中止した。

3. 展示

(1) 企画展「植物標本レスキュー」

2021 年 5 月 6～29 日、鹿児島大学総合研究博物館常設展示室。令和 2 年 7 月に発生した豪雨により人吉城歴史館が収蔵する植物標本が被災したことを受け、総合研究博物館植物標本室では被災標本 1200 点あまりを受け入れ、博物館スタッフやボランティアと共にレスキュー作業（洗浄、乾燥）を行った。この一連の活動について企画展を行い、どこにでも起こりうる自然災害に対して、標本を守り、未来へ受け継いでいく意義や協力体制の構築について考える機会を提供した。



企画展「植物標本レスキュー」

(2) 特別公開「パンダゲンロクダイ 世界初公開 !!」



特別公開「パンダゲンロクダイ 世界初公開 !!」

2021年5月6日～6月1日

場所：総合研究博物館常設展示室

パンダゲンロクダイの標本を世界初公開した。パンダゲンロクダイは2020年2月に新種記載されたチョウチョウウオの仲間で、世界でも9個体しか採集されていない珍しい種である。当館が所蔵する8個体のうち、鹿児島湾から採集された1標本を展示した。

(3) 企画展「未整理植物標本をはさんだ新聞と大正コマーシャルアート」

2021年6月5日～7月3日、総合研究博物館常設展示室にて開催。

大正～昭和前半、鹿児島高等農林学校時代の未整理植物標本が大量に残されており、総合研究博物館で所蔵している。現在その整理を進めているが、植物採集時に使用され、本来は標本作製後に捨てられるはずの新聞のなかに、発行部数の少ない地方紙など稀少な新聞が残されている。その重要性や面白さの一端を紹介する企画とした。

なかでも今回は新聞に掲載されたコマーシャル図像に焦点を当て、100年前のコマーシャルアートを見比べるパネルをメインの展示とした。その上で、興味を持ったものにアンケート投票を実施した。結果、第1位は「害なく不思議に やせる ヘミー新療法」、第2位は星製薬の化粧品、第



企画展「未整理植物標本をはさんだ新聞と大正コマーシャルアート」

3位は同数票5点で、ツムラの中将湯、明色化粧品の白色美顔水、金鳥の蚊取り線香、カブトビールと味の素という結果となった。また、1920年代の台湾で発行された新聞の実物展示も行っている。

(4) 特別公開「鹿児島県のピグミーシーホース」

2021年7月1日～8月3日 場所：総合研究博物館常設展示室

鹿児島県では3種のピグミーシーホース（小さいタツノオトシゴ）が生息している。そのうちのカクレタツノコとユリタツノコの標本を公開した。両種の日本産の標本は当館のみが所蔵しており、標本の公開は日本初である。



特別公開「鹿児島県のピグミーシーホース」

(5) 特別公開「ホシカゲアゴアマダイ」

2021年11月4日～11月30日 場所：総合研究博物館常設展示室

小学校の理科教材にジョーフィッシュという名前で登場する有名な魚である。これまでに多くの水中写真が撮影されてきたが、標本は得られていなかった。当館に所蔵されている標本に基づき2018年にホシカゲアゴアマダイと命名された。国内では本種の標本を有するのは当館のみで、6標本を所蔵している。そのうちの1標本を日本で初めて公開した。



特別公開「ホシカゲアゴアマダイ」

(6) 企画展「奄美大島のトワイライトゾーンの魚たち」

2022 年 3 月 1 日～3 月 31 に総合研究博物館常設展示室で奄美大島沖の深海域で採集された魚の標本や写真展示を企画したが、新型コロナウイルス感染症拡大を受け開催を延期することとした。

4. その他の活動

(1) 第 3 回 バックヤードツアー 植物標本庫

2021 年 12 月 25 日（土）10：00～12：00、総合研究博物館植物標本室にて。5 歳から 70 歳代からなる 8 名の一般参加者があり、催行した。イベントでは植物標本や博物館の解説、標本作成手順や収蔵庫における管理などについての学習機会を提供し、参加者からは植物標本の存在意義、そして普段見ることのできない博物館のバックヤードについても理解が深まったと好評であった。



第 3 回 バックヤードツアー 植物標本庫

3 常設展示室

1. 入館者数

常設展示室 月別入館者数 2021 年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
総入館者数	137	98	78	141	43	0	91	76	54	42	36	90	886
団体	0	6	6	51	8	0	16	0	25	0	0	0	112
一般	137	92	72	90	35	0	75	76	29	42	36	90	774
開館日数	22	18	22	21	6	0	22	18	18	21	17	23	208

曜日別入館者数 2021 年度

	火	火	水	水	木	木	金	金	土	土	日	日	月	月	合計		
	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	総計
4 月	0	17	0	35	0	11	0	47	0	27	0	0	0	0	0	137	137
5 月	0	13	6	10	0	40	0	9	0	20	0	0	0	0	6	92	98
6 月	0	20	0	11	0	12	6	9	0	15	0	0	0	5	6	72	78
7 月	0	10	6	10	0	32	15	15	30	23	0	0	0	0	51	90	141
8 月	8	8	0	4	0	4	0	8	0	11	0	0	0	0	8	35	43
9 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10 月	0	17	0	8	0	12	0	17	16	21	0	0	0	0	16	75	91
11 月	0	12	0	5	0	10	0	32	0	17	0	0	0	0	0	76	76
12 月	10	6	10	6	0	6	5	10	0	1	0	0	0	0	25	29	54
1 月	0	8	0	12	0	10	0	3	0	9	0	0	0	0	0	42	42
2 月	0	6	0	6	0	11	0	3	0	8	0	0	0	2	0	36	36
3 月	0	15	0	26	0	18	0	17	0	14	0	0	0	0	0	90	90
合計	18	132	22	133	0	166	26	170	46	166	0	0	0	7	112	774	886
	150		155		166		196		212		0		7		886		

今年度の総入館者数は 886 名で、昨年度に比べ 47 名増加している。団体が 38 名、一般が 9 名の増加だった。年間の開館日数は 208 日で、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置期間における臨時休館が 8 月中旬から 9 月末までの 32 日間あった。

2. 利用・活用状況

今年度の団体利用は以下のとおりである。

大学関係

- ・農学部 理科教材研究Ⅱ
- ・法文学部 ポピュラーカルチャー論演習Ⅱ
- ・教員免許状更新講習見学（総合研究博物館担当・その他）

学外

- ・桜島ジオサルク
- ・鹿児島県高等学校教育研究会地理分科会
- ・錦江湾高校

3. 室内環境

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
1 階ケース温度 (℃)	19.2	20.7	23.0	24.3	25.5	25.7	24.1	18.2	13.6	14.2	14.0	16.5	19.9
1 階ケース湿度 (%)	66.0	66.1	72.0	70.9	79.4	75.8	71.0	64.5	60.6	53.8	46.5	63.0	65.8
2 階ケース温度 (℃)	20.3	21.0	22.7	24.7	25.3	25.9	22.9	17.8	13.7	15.1	15.2	17.6	20.2
2 階ケース湿度 (%)	57.6	62.2	64.6	61.0	66.0	67.3	66.0	65.0	62.7	56.2	46.3	59.0	61.2

4. 常設展示室アンケート

アンケート集計結果

1) 性別

男 45名 女 43名 無回答 3名 合計 91名

2) 年齢

小学生以下 2名 中学生 1名 高校生 6名 大学生・大学院生 27名
上記以外の10代 0名 20歳代 11名 30歳代 3名 40歳代 9名
50歳代 15名 60歳代 12名 70歳以上 5名 無回答 0名

3) 居住地

鹿児島市内 42名 鹿児島県内 11名 鹿児島県外 18名
大学関係者(学生・教職員) 19名 無回答 1名

4) 常設展示室を知った理由

立て看板 23名 ホームページ 9名 ポスター 5名
授業・講座等 10名 人にすすめられて 17名 その他 27名 無回答 0名

5) 感想

大変よい 51名 よい 39名 どちらともいえない 1名
つまらない 0名 大変つまらない 0名 無回答 2名

6) 感想・意見・要望等

アンケート 91 件中 89 件に自由記述欄の記入があった。

内容を見てみると全般的な感想としては、「1階は年代ごとに土器の展示がされており見やすく、2階は植物標本について詳しく説明されていて勉強になった」「鹿児島特有の自然、とくに地質や岩石についてより深く知ることができた。大学で使用されていた器具はデザイン自体も面白く、歴史が感じられた」などがあった。

展示内容については、「大学の構内を流れていた川の堆積を示す土層剥ぎ取り標本が興味深かった。地形的に昔、川が流れていたであろうことは予想していたが、もっと昔に埋まったものだと思っていた。金鉱石の展示も地元の特色が出ていてよかった」「昔の高等農林学校時代の写真が印象的だった。鹿大やその周辺がこの100年の間に大きく様変わりしているのがよくわかった」などがあった。

来館のきっかけとしては「構内を歩いていて」「博物館のホームページを見て」のほかに、「グーグルマップを見て」「知人のSNSで知った」などがあった。また、ニュースや新聞で企画展・特別公開のことが紹介されているのを見て来館した、という声も多かった。

その他に意見・要望として、「金鉱床など鹿児島が鉱物資源に恵まれていることを知ることができた。錦江湾ジオパークなどとのタイアップ、ジオサイトとしての位置づけをもっと明確にアピールしてほしい」「博物館を利用して、身近な事象から地域の歴史や地理、地学などについて生徒たちに学ばせたい。常設展や企画展、イベントの情報を中学校・高校にも積極的に広報してほしい」「魚類に関する研究論文を読んで来館した。文献だけでなく、標本展示も見てみたかった」「鹿児島市街地の縄文海進と平野の出現が興味深かった。動画があるともっとわかりやすいと思う。充実した貴重な資料が展示してあることをもっと発信したほうがいいと思う」などがあった。

5. 常設展示室 展示品目録－2021年度－(2020年度からの変更点)

展示追加

- ・常設展示 植物コーナー(展示解説パネル4点・植物目録)(4/8)
- ・企画展 植物標本レスキュー (5/6～5/29)

- ・特別公開 パンダゲンロックダイ (5/6～6/1)
- ・企画展 未整理植物標本をはさんだ新聞と大正コマーシャルアート (6/5～7/3)
- ・特別公開 鹿児島のピグミーシーホース (7/1～8/3)
- ・特別公開 ホシカゲアゴアマダイ (11/4～11/30)

6. 常設展示室の課題

今年度も、新型コロナウイルス感染症対策として、消毒および換気の徹底、入館人数の制限など対策を講じた上で、まん延防止等重点措置期間における臨時休館 32 日をのぞく、208 日間で通常開館を行った。

年間の入館者数は 886 名で、コロナ禍となる一昨年度以前に比べると半数以下にとどまっているが、昨年度からは 47 名増加している。人数を制限した団体見学の受け入れは 38 名増加した。

企画展（植物標本レスキュー・未整理植物標本をはさんだ新聞と大正コマーシャルアート）および特別公開（パンダゲンロックダイ・鹿児島のピグミーシーホース・ホシカゲアゴアマダイ）開催期間中の 5 月・6 月・7 月・11 月を中心に学内外から見学があり、問い合わせも多く寄せられた。「実物の標本（魚類）を間近で見られ、細部まで観察できたり、大きさを実感できるのがよかった」「100 年前の植物標本が、それをはさんでいた新聞ごと保存されていたことが貴重だと思った」「テレビで企画展（植物標本レスキュー）のことを知って来館した。鹿大の博物館にはいつか行ってみたいと思っていたので実現できてよかった」など、大学ならではの企画展示や、常時展示できない標本類の期間限定での公開が広く一般の関心と呼び、常設展示室に足を運んでいただく大きなきっかけとなった。

一方で、「SNS で話題になっていた展示を目当てに来たが、すでに終了していて残念だった」「イベントの開催情報をもっと早く知りたかった」などの意見・要望も寄せられており、より多くの利用者に向けていち早く情報が届けられるよう、取り組みが必要である。

設備について 常設展示室も 2004 年 5 月の開館から 17 年が経ち、施設・設備の老朽化がみられる。2021 年はエアコンの故障が発生し、結果的に展示室内の 4 点のエアコンをすべて交換することとなった。今後も電灯等各種の設備更新が必要になると見込まれる。

新型コロナ感染症対策について 常設展示室ではこれまで、新型コロナ感染症対策として次のような取り組みを行ってきた。

まず、感染拡大が急増した 2020 年度の 4 月から 5 月にかけての 19 日間、および 2021 年度の 8 月中旬から 9 月末までの 32 日間で臨時休館とし、学内外ともに見学利用を停止した。

開館時は、館内では常時エアコンによる換気を行い、清掃・消毒を励行し、来館者に対しては入館時の検温・手指の消毒、マスクの着用、会話を控え距離を取っての見学への協力を要請している。具体的には、自動検温・手指消毒器（受付）、自動手指消毒器（2 階）、手指消毒スプレー・ジェル（トイレほか）を設置し、スリッパ・ドアノブ・手すり・ガラスケース等の清拭を頻繁に行い、対面接遇時にはフェイスシールドを使用するなど、飛沫や接触による感染を防ぐ対策を取っている。

また、団体見学については現在、見学時に同時に入室できるのはワンフロア 10 名までに制限し、館内での会話や展示解説を行わない形での受け入れを行っている。

展示については、土器や化石などのハンズオン展示を撤去し、展示物やガラスケースに接触しないよう注意を促している。

アシジロヒラフシアリの大発生による被害 近年、常設展示室ではアシジロヒラフシアリの大発生による被害が深刻になってきている。

例年 4 月～10 月の時期にアシジロヒラフシアリが大量発生し、以前はおもにトイレや階段下の水回り、2 階踊り場の窓周辺などに多く出現していた。ここ数年その数が増加し、展示フロア・展示ケース内部・玄関・階段などいたるところに出現し、ひどいときには床に散乱したアリの死骸でスリッ

パの裏が真っ黒になることもある。

アシジロヒラフシアリは外来種で繁殖力が強く、隣接する植物園に大量に生息しているとみられ、真夏には連日、植物園から大量に列をなして侵入するのが確認される。侵入したアリは展示室建物内外の隙間に巣を作る。さらには越冬して、気温 20 度を超えると活動を始め、4 月ごろにはすでに展示室内での大発生が始まる。

アシジロヒラフシアリは樹上性のため、地面から直接外壁を上ったり、樹木の枝伝いに侵入したり、さまざまな経路から展示室の 1 階部分だけでなく 2 階部分にも大量に侵入する。多くは窓や非常扉などの隙間に巣を作り、そこから室内に侵入して展示ケースの裏や配電盤、配線カバー、蛍光灯レールなど人目につかない場所に常時潜んでいる。閉館時（夜間・休館日）に活発に活動し、業務開始時には展示室 1 階・2 階の床・壁・天井の広範囲にアリが歩き回り、死骸が散乱する状態で、夏期のとくに休館日明けはこれらを始末するために開館時間を遅らせることも常態化している。

アシジロヒラフシアリは、展示室周囲にある構造物の内部（掲示板支柱・金鉱石覆屋支柱・掃除用具入れなど）にも大きな巣を作っているの、これらの場所は定期的にチェックし、巣ができていれば、殺虫スプレーや散水によって駆除している。また、樹上性であることから、展示室に近接する樹木（バクチノキ・スタジイ）の枝を伝って外壁の高い場所から侵入したり、雑草がはびこっているとこれらを伝って大量に侵入して来たり、落ち葉がたまっているとその下に巣を作ってしまったので、敷地の周囲、とくに植物園に面した側の樹木の枝の伐採や雑草・落ち葉の除去を徹底し、アシジロヒラフシアリが容易に建物内部に侵入して来ないように環境を整備し、防除に努めている。

屋内ではおもに、壁や設備の隙間にできているとみられる巣のアリに対し、置き型の駆除剤を用いて対策をとっている。

アシジロヒラフシアリによる被害については、今のところ展示資料への影響は確認されないが、展示ケースの内部に侵入したり、展示フロアの床や壁、トイレなどに大発生し、時期によっては防除・駆除が追い付かず、見学者から「不快に感じられる」との指摘を受けるまでになってきている。また、配電盤に入り込んで接触不良の原因となったり、エアコンの室内機に入り込んで動作不良の原因となるなど、電気設備の障害も発生しており、看過できない状況である。



バクチノキ 伐採前



バクチノキ 伐採後



展示室裏 除草前



展示室裏 除草後



はめ込み窓のすき間から侵入するアリ



配電盤に侵入したアリ

4 教育活動

1. 博物館実習・博物館学関連講義

博物館実習 総合研究博物館では、博物館実習の学内実習を分担で担当している。実習受講登録学生は法文学部9名、教育学部2名、理学部6名、水産学部9名、計26名であった。

本村は4月24日に水産学部・教育学部、5月8日に理学部、15日に法文学部を担当し、博物館標本作成室で魚類の液浸標本の作製、登録、撮影作業を行い、およそ200点の標本を新規登録した（本村）。

田金は5月8日に水産学部・教育学部、5月15日に理学部、5月22日に法文学部を担当し、植物標本室にて植物のさく葉標本の作成・データベース化（台紙への貼り付け、ラベル情報の入力、標本のスキャンによるデジタル画像化）を行い、54点の植物標本の情報をデータベースに登録した（田金）。

橋本は5月8日に法文学部、5月22日に水産学部・教育学部、5月29日に理学部を担当し、博物館に関わる全分野において基本技術である写真に関する実習を行った。まずは、カメラ・写真に関する基礎知識について説明を行い、理解を深めた後に撮影台の設営から、考古資料の撮影まで行った。全員が一眼レフカメラで撮影するまでを行っている。またあわせて、近年急速に進展しているフォトグラメトリによる3Dデータ作成の解説を行い、そのための資料撮影を行った。また日誌作成中に解析を進め、実習終了時にプロジェクターで確認を行った。（橋本）。

博物館学関連講義 学芸員資格取得のための講義は、資格の取得可能な法文学部・教育学部・理学部・水産学部が受講する科目として共通教育において開講されているが、総合研究博物館の教員も分担して担当している。橋本は、博物館教育論・博物館展示論の責任教員として担当、各2名の非常勤講師の調整を行いつつ講義を実施している。本村・田金は、博物館資料論を分担で実施している（橋本）。



考古資料撮影実習作品



魚類標本作製実習

2. 教員免許更新講習

2009年4月1日から教員免許更新制が導入され、鹿児島大学でも教員免許状更新講習が開設された。総合研究博物館では同講習の選択科目の開設を行っている。

2021 年度は当初、7 月 31 日（金）に橋本が、「郷土の歴史の学び方～考古学と博物館～」を開講する予定であったが COVID-19 拡大を受けて、10 月 23 日（土）に変更した。参加者は 17 名、小学校・中学校（社会）・高等学校（地歴）を主な対象者として実施した。実講義は考古学という学問の概要から、遺跡の調べ方、考古資料の見方について説明し、また博物館の役割とその活用方法の解説をとおして、各地域の郷土の歴史を学ぶ方法を考えるものである。講義と実習は 8:50 から 16:30 まで行われ、プログラムには博物館見学・発掘調査見学・拓本実習を含んでいる。なお、教員免許更新講習は 21 年度をもって終了となった（橋本）。

3. インターンシップ

COVID-19 によって本年度もインターンシップは実施しなかった。

5 出版・広報

2021 年度の出版物は下記のとおりである。

ニューズレター 総合研究博物館にかかわる情報を掲載した通常号を 1 冊刊行した。ニューズレター No.47 は、総合研究博物館スタッフおよび学外協力研究者、大学院生の研究紹介からなる 5 件の記事を掲載した。著者とタイトルは下記のとおりである。全 16 ページ。

オウムガイ海外学術調査を終えて 大木 公彦

植物調査のフィールド紹介（1）：ラオス南部の Bolaven 台地 田金 秀一郎

総合研究博物館での研究を振り返って 和田 英敏

多様性 大西 佳子

神領 10 号墳と初期須恵器—研究報告 No.15 から— 橋本 達也

その他出版物 総合研究博物館関連出版物として下記の 3 冊を刊行した。

Bulletin No.16 An annotated checklist of marine and freshwater fishes of five islands of Mishima in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 109 new records Jeong, B. and H. Motomura 2021 (October)

研究報告 No.17 『鹿児島県の維管束植物分布図集—全県版—』鈴木英治・丸野勝敏・田金秀一郎・寺田竜太・久保紘史郎・平城達哉・大西亘 2022.02

研究報告 No.18 『鹿児島県の維管束植物分布図集—奄美群島版—』鈴木英治・丸野勝敏・田金秀一郎・寺田竜太・久保紘史郎・平城達哉・大西亘 2022.02



2021 年度研究報告

年報 毎年1冊、前年度分の年報を刊行している。2019年度とあわせて、2020年度の2ヶ年分をNo.19として刊行した。2020年度はCOVID-19のため企画事業等が少なかったため、2019年度と合冊にすることとした。

Ichthy, Natural History of Fishes of Japan 魚類学の基礎的知見の蓄積を目的とし、日本産魚類の分類や分布、生態などの自然史に関するあらゆる分野の論文を和文で掲載する、2020年10月に創刊した査読付きオンラインジャーナル。総合研究博物館が発行。2021年度は105論文が出版された。論文は当館ホームページ (<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/ichthy/articles.html>)、J-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/ichthy/list/-char/ja>) で公開している。

ポスター・チラシ COVID-19のため、特別展を実施していないので広く広報するための印刷チラシの作成は行わなかった。企画展示などのチラシは担当教員が作成し、プリンターでプリントして掲示、配布した。

「奄美群島トワイライトゾーンの魚たち」の魚類ポスターを作成した。本来企画展に合わせて製作したものであったが、ポスターを先に配布している。

その他広報 ホームページ、ブログ、Twitter を継続的に更新している。ホームページは橋本、ブログは上村、Twitter は教員3人（橋本・本村・田金）で担当している。

6 ボランティア活動

植物標本の登録・データベース化・標本レスキュー作業 植物標本室では、本学の学生3名が博物館ボランティアとして植物標本の管理に関わる活動に従事することを希望し、毎週火曜日の午後未整理標本のデータベース登録やマウント（台紙への貼り付け）、収蔵室への配架作業を行った。また令和2年豪雨により被災した人吉城歴史館所蔵の植物標本のレスキュー作業（洗浄と乾燥）についても本活動の一環として取り組み、当館が引き受けた1209点の植物標本についてレスキュー作業を終え、人吉城歴史館に返送した。

魚類標本の作製・登録・データベース化 総合研究博物館では2006年度から魚類標本の受け入れおよび標本の作製を積極的に行っている。ボランティアは本学学生、一般市民、漁業従事者、水族館職員など多彩な構成である。ボランティアの活動は、大きく分けると魚類の採集、学習会、標本の作製と保存、および教育普及活動の4つの要素から成る（詳しくは『総合研究博物館ニューズレター No. 16』と総合研究博物館出版『魚類標本の作製と管理マニュアル』を参照）。本年度は本学水産学部と鹿児島県環境技術協会から移管された標本と鹿児島県産の標本を中心に約10000標本の登録を行い、標本データのデータベースと、約50000件の画像データベースを作成した。

7 国際交流

本年度はCOVID-19のため招聘や派遣を伴う国際交流はなかったが、魚類分野では中国海洋大学、浙江海洋大学、フィリピン大学、ベトナム海洋環境資源研究所、タイ国立科学博物館、マレーシア・トレンガヌ大学、マレーシア・サバ大学、マレーシア・サインズ大学、インドネシア科学院、ミャンマー水産局、テキサス A&M 大学、ワシントン大学、国連食糧農業機関と共同研究を実施し、17論文を出版し、国際会議で1件の発表を行った。また、国連総会の決議を経て出版された World Ocean Assessment の魚類の章では、10カ国の研究者と分担執筆した。植物分野ではラオス国立大学、カンボジア森林局、ダラット大学、ベトナム科学アカデミー（ミントゥン学術研究所）、フエ医科大学、サラワク森林局、シバジ大学、中国医薬大学、浙江大学、ロシア科学アカデミー、モスクワ大学、アメリカ農業研究事業団、キュー植物園と共同研究を実施し、植物に関する25論文を出版した。

8 標本管理活動

1. 植物標本室

植物標本のデータベース化 植物標本室では収蔵する植物標本の全容把握、および管理・利便性向上のため、植物標本のデータベース化を2003年から継続して実施している。2021年度も継続し、鈴木英治氏（前館長、現国際島嶼教育研究センター）、および一般財団法人沖縄美ら島財団との共同研究「西表植物誌編纂事業のためのデータベース」の遂行に伴って雇用した技術補佐員1名（西原茉莉氏）と共に、標本整理・データベース化作業を進めた。

2021年度は17,177点の植物標本をKAGデータベースに登録した。登録した標本情報は植物標本室のwebsite (<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/hyouhonsitu.html>) にて公開を行っている。また、これらの標本情報のうち12,000件をサイエンスミュージアムネット (S-Net <http://science-net.kahaku.go.jp>) に提供し、そちらでも公開を行うようにした。

学外研究者等による研究活動 学外研究者の丸野勝敏氏は、2020年度に引き続き、ご自身が採集された植物標本約2万点を整理するため、ほぼ毎日標本室に来館し、標本ラベル作成などの作業に従事された。福元しげ子氏には通年を通してマウント作業（標本貼り）にご協力いただいた。

新規植物標本の受け入れ・寄贈状況 2021年度は田金が鹿児島県内を中心とする野外調査を通して741点の植物標本をDNA解析用試料と共に収集し、これらをKAGデータベースに登録した。外部の方からの標本寄贈として、藤井伸二氏、森脇大樹氏、清水加耶氏、中西弘樹氏、立花寛奈氏から日本各地の植物標本をそれぞれ150点、36点、13点、2点、1点、塚原一颯氏、立久井昭雄氏、石貫泰三氏、大西佳子氏から鹿児島県の植物をそれぞれ9点、5点、4点、1点、Bui Hong Quang氏（ベトナム科学アカデミーIEBR）からベトナムの植物標本を2点（Quang氏と共同で新種記載し、寄贈標本はアイソタイプとなった）、ご寄贈いただいた。埼玉県の有馬氏からはご遺族が残された数百

2021年度の植物標本の利用状況

利用年月	貸し出し・利用者の所属先	分類群	点数	利用目的
2021年4月	Yale University, USA	Lonicera	7	研究
2021年6月	東北大学	Desmodium	2	研究
2021年6月	神戸大学	Lecanorchis	4	研究
2021年8月	神奈川県立 生命の星・地球博物館	神奈川県産植物標本	787	研究
2021年9月	国立科学博物館	Thelypteris	8	研究
2021年10月	神戸大学	Taeniophyllum	1	研究
2021年10月	東京都立大学	Anaphalis	2	研究
2021年10月	National Herbarium of Ireland	Syzygium	3	研究
2021年11月	東北大学	Astillbe, Chrysosplenium, Viburnum	3	研究
2021年11月	Singapore Botanical Garden	Timonius	7	研究
2021年12月	東北大学	Astillbe	1	研究
2021年12月	徳島県立博物館	Poaceae	2	研究
2022年1月	Royal Botanic Gardens, Kew, UK	Asarum	14	研究
2022年2月	京都大学	Viola	10	研究
2022年2月	京都大学（5名）	単子用植物	500	研究
2022年2月	琉球大学（2名）	Aquifoliaceae, Lamiaceae, Asteraceae etc.	500	研究
2022年2月	東北大学	Cardamine, Elatostema, Eupatorium, Hypericum, Rosa, Stellaria	68	研究
2022年3月	自然環境研究センター	Acanthaceae	60	研究
2022年3月	神奈川県立 生命の星・地球博物館	神奈川県産植物標本	300	研究
2022年3月	岡山理科大学	Rosaceae	1100	研究
通年	日本シダの会	シダ類	21000	図鑑執筆資料

点の植物標本をご寄贈いただき、整理を進めている。

KAG 標本の整理の過程で出てきた重複標本について、国立科学博物館（TNS）に 12 点、徳島県立博物館に 1 点、東北大学植物園（TUSG）に 1 点を寄贈した。

植物標本の利用状況 今年度は昨年度に続いて新型コロナウイルスに伴う県外移動の自粛要請が時折生じ、植物標本室を利用する外部からの訪問者は少ないままであった。一方で、標本の貸出や DNA 分析を行うための試料提供の依頼が微増した。インターネット上に公開している植物標本室のデータベースには 1588 件の閲覧者があった。

2. 動物標本の利用状況

2021 年度の総合研究博物館所蔵動物標本・資料の利用状況を報告する（学内での利用数は膨大であるため除く）。

2021 年度の動物標本の利用状況

貸出・利用年月	分類群	標本・資料	点数	貸出・利用先	目的
2021 年 4 月	魚類	標本画像	4	味の素冷凍	研究
2021 年 4 月	魚類	標本画像	2	海遊館	研究
2021 年 4 月	魚類	液浸標本	1	海遊館	研究
2021 年 4 月	魚類	標本画像	1	フジテレビ	番組
2021 年 4 月	魚類	標本画像	13	東京海洋大学	研究
2021 年 4 月	魚類	標本画像	8	長崎県立長崎北陽台高校	研究
2021 年 4 月	魚類	液浸標本	9	近畿大学	研究
2021 年 4 月	魚類	筋肉組織	57	名古屋市立大学	研究
2021 年 4 月	魚類	標本画像	30	水産技術研究所	研究
2021 年 4 月	魚類	液浸標本	7	水産技術研究所	研究
2021 年 4 月	魚類	標本画像	60	FM かがしま	企画
2021 年 4 月	魚類	液浸標本	2	近畿大学	研究
2021 年 5 月	魚類	標本画像	50	水産研究・教育機構 開発調査センター	研究
2021 年 5 月	魚類	液浸標本	14	水産研究・教育機構 開発調査センター	研究
2021 年 5 月	魚類	標本画像	5	香川県立高松桜井高等学校	研究
2021 年 5 月	魚類	液浸標本	20	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2021 年 5 月	魚類	筋肉組織	24	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2021 年 5 月	魚類	標本画像	2	朝日新聞	新聞
2021 年 5 月	魚類	標本画像	1	南日本新聞	新聞
2021 年 5 月	魚類	標本画像	1	NHK 鹿児島	番組
2021 年 5 月	魚類	標本画像	3	北海道大学	研究
2021 年 5 月	魚類	標本画像	1	魚水会	冊子
2021 年 5 月	魚類	標本画像	1	共同通信	新聞
2021 年 5 月	魚類	標本画像	4	かがしま水族館	冊子
2021 年 5 月	魚類	液浸標本	29	Pukyong National University, Korea	研究
2021 年 5 月	魚類	筋肉組織	26	Pukyong National University, Korea	研究
2021 年 6 月	魚類	標本画像	1044	東京大学総合博物館	研究
2021 年 6 月	魚類	標本画像	1	南日本新聞	新聞
2021 年 6 月	魚類	液浸標本	8	福岡市	研究
2021 年 6 月	魚類	液浸標本	15	近畿大学	研究
2021 年 6 月	魚類	液浸標本	33	三重大学	研究
2021 年 6 月	魚類	標本画像	3	MBC 南日本放送	番組
2021 年 6 月	魚類	標本画像	1	南日本新聞	新聞
2021 年 7 月	魚類	筋肉組織	5	三重大学	研究
2021 年 7 月	魚類	標本画像	1	CSIRO Marine and Atmospheric Research, Australia	研究
2021 年 7 月	魚類	液浸標本	6	Texas A&M University, USA	研究
2021 年 7 月	魚類	標本画像	2	Texas A&M University, USA	研究
2021 年 7 月	サンゴ	液浸標本	2	かがしま水族館	展示
2021 年 7 月	魚類	標本画像	11	FishBase, Philippines	Database

2021 年 7 月	魚類	液浸標本	25	東京大学	研究
2021 年 7 月	魚類	筋肉組織	4	東京大学	研究
2021 年 8 月	魚類	液浸標本	9	近畿大学	研究
2021 年 8 月	魚類	筋肉組織	35	University of Washington, USA	研究
2021 年 8 月	魚類	標本画像	3	学研プラス	図鑑
2021 年 8 月	魚類	液浸標本	10	Royal Ontario Museum, Canada	研究
2021 年 8 月	魚類	筋肉組織	10	Royal Ontario Museum, Canada	研究
2021 年 8 月	魚類	液浸標本	8	Royal Ontario Museum, Canada	研究
2021 年 8 月	魚類	筋肉組織	8	Royal Ontario Museum, Canada	研究
2021 年 8 月	魚類	標本画像	3	Royal Ontario Museum, Canada	研究
2021 年 8 月	魚類	標本画像	1	University of Sydney, Australia	研究
2021 年 8 月	魚類	標本画像	3	近畿大学	研究
2021 年 8 月	魚類	液浸標本	3	近畿大学	研究
2021 年 8 月	魚類	筋肉組織	3	近畿大学	研究
2021 年 8 月	魚類	標本画像	18	与論町教育委員会	冊子
2021 年 9 月	魚類	液浸標本	10	水産研究・教育機構 開発調査センター	研究
2021 年 9 月	魚類	液浸標本	22	National Sun Yat-sen University, Taiwan	研究
2021 年 9 月	魚類	筋肉組織	22	National Sun Yat-sen University, Taiwan	研究
2021 年 9 月	魚類	液浸標本	9	Bochum, Germany	研究
2021 年 9 月	魚類	標本画像	2	NHK エンタープライズ	研究
2021 年 9 月	甲殻類	液浸標本	7	千葉県立中央博物館	研究
2021 年 10 月	魚類	標本画像	1	国立科学博物館	研究
2021 年 10 月	魚類	液浸標本	15	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2021 年 10 月	魚類	液浸標本	1	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2021 年 10 月	魚類	液浸標本	32	高知大学	研究
2021 年 10 月	魚類	液浸標本	1	沖縄美ら島財団	研究
2021 年 10 月	魚類	標本画像	6	沖縄美ら島財団	研究
2021 年 10 月	魚類	筋肉組織	19	東海大学	研究
2021 年 11 月	魚類	筋肉組織	3	千葉県立中央博物館	研究
2021 年 11 月	魚類	液浸標本	19	国立科学博物館	研究
2021 年 11 月	魚類	標本画像	449	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2021 年 11 月	魚類	液浸標本	64	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2021 年 11 月	魚類	標本画像	40	Institute of Marine Research, Norway	研究
2021 年 11 月	魚類	液浸標本	5	かごしま水族館	展示
2021 年 11 月	魚類	標本画像	1	かごしま水族館	展示
2021 年 11 月	魚類	液浸標本	25	Institute of Marine Research, Norway	研究
2021 年 11 月	魚類	標本画像	94	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2021 年 11 月	魚類	標本画像	8	海響館	研究
2021 年 11 月	魚類	標本画像	107	医歯薬出版株式会社	事典
2021 年 11 月	魚類	標本画像	57	宮崎大学	研究
2021 年 12 月	魚類	標本画像	3	かごしま水族館	広報
2021 年 12 月	魚類	液浸標本	4	海響館	研究
2021 年 12 月	魚類	液浸標本	2	高知大学	研究
2021 年 12 月	魚類	液浸標本	2	北九州市立自然史・歴史博物館	研究
2021 年 12 月	魚類	筋肉組織	29	北九州市立自然史・歴史博物館	研究
2022 年 1 月	魚類	液浸標本	8	National Sun Yat-sen University, Taiwan	研究
2022 年 1 月	魚類	筋肉組織	8	National Sun Yat-sen University, Taiwan	研究
2022 年 1 月	魚類	標本画像	54	National Sun Yat-sen University, Taiwan	研究
2022 年 1 月	魚類	液浸標本	5	北九州市立自然史・歴史博物館	研究
2022 年 1 月	魚類	筋肉組織	1	北九州市立自然史・歴史博物館	研究
2022 年 1 月	魚類	標本画像	20	北九州市立自然史・歴史博物館	研究
2022 年 1 月	魚類	液浸標本	2	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2022 年 1 月	魚類	筋肉組織	1	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2022 年 1 月	魚類	標本画像	4	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2022 年 1 月	魚類	標本画像	2	フジテレビ	番組
2022 年 1 月	魚類	標本画像	27	Pukyong National University, Korea	研究
2022 年 1 月	魚類	標本画像	1	出水市観光交流課	広報
2022 年 2 月	魚類	標本画像	3	朝日新聞	新聞
2022 年 2 月	魚類	標本画像	3	福岡市保健環境研究所	展示

2022 年 2 月	魚類	標本画像	2	小学館	図鑑
2022 年 3 月	魚類	液浸標本	12	高知大学	研究
2022 年 3 月	魚類	液浸標本	3	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2022 年 3 月	魚類	標本画像	2	南日本新聞	新聞
2022 年 3 月	魚類	標本画像	2	MBC 南日本放送	番組
2022 年 3 月	魚類	標本画像	2	奄美新聞	新聞
2022 年 3 月	魚類	標本画像	3	高知大学	研究
2022 年 3 月	魚類	標本画像	3	水産研究・教育機構 開発調査センター	研究
2022 年 3 月	魚類	標本画像	96	北海道大学	研究
2022 年 3 月	甲殻類	液浸標本	2	千葉県立中央博物館	研究
2022 年 3 月	魚類	液浸標本	398	国立科学博物館	研究
2022 年 3 月	魚類	筋肉組織	28	University of Hong Kong	研究
2022 年 3 月	魚類	液浸標本	1	Australian Museum, Australia	研究
2022 年 3 月	魚類	液浸標本	1	University of Sydney, Australia	研究
2022 年 3 月	魚類	液浸標本	22	Smithsonian Institute, USA	研究
2022 年 3 月	魚類	標本画像	24	Smithsonian Institute, USA	研究
2022 年 3 月	魚類	筋肉組織	7	Smithsonian Institute, USA	研究

合計 115 件 3456 点

3. その他の標本等の管理・利用

資料の登録 鹿児島高等農林学校の植物採集において、新聞には含まれたまま保管された予備標本が大量に存在しており、その標本および新聞の整理・登録を継続している。とくに新聞は稀少資料を含む可能性があるため、新聞名・年月日等の基本情報に加えて、記載記事見出しのテキストデータの登録を行っている。2021 年度は約 380 件の登録を行った。

鹿児島高等農林学校の得業論文等の資料データの登録、整理を継続して行っている。

理学部地球環境科学科（旧地学科）から移管された化石標本について、標本収蔵状態に問題があり、資料情報も不明なものが多いため、整理・再収納を継続的に行っている。21 年度は約 33 件の標本箱の整理を行った。1 箱には平均で 20 ～ 30 点の標本が入っており、多いものでは 60 点を超える。

資料の受け入れ 教育学部事務を通じて、千葉在住の個人から『紀元二千六百年記念 鹿児島県女子師範学校学校要覧』の寄贈があった。同校に関する資料はこれまで当館では所蔵しておらず貴重である。

農学部農業生産科学科・香西直子講師を介して、唐湊果樹園で使用していた 1913 年 Leitz 製の顕微鏡 1 点の寄贈があった。

天の川研究センターからアナログ型の電波分光計、音響光学型電波分光計（Acousto-optical spectrometer = AOS）の寄贈があった。1993 ～ 2005 まで錦江湾公園 6 m 宇宙電波望遠鏡にて使われていたものである。電波天文学における技術史資料として貴重である。

資料の利用 以下の表のとおり利用があった。

2021 年度のその他標本の利用状況

利用年月	標本・資料	利用形態	点数	利用先	目的
2021 年 5 月	神領 10 号墳盾持人埴輪	掲載	1	筑摩書房	書籍
2021 年 6 月	企画展示	撮影		南日本新聞文化生活部	南日本新聞
2021 年 7 月	石炭・炭化木	借用・展示	2	鹿児島県立博物館	企画展
2021 年 7 月	企画展示	撮影		鹿児島大学・学生	鹿児島大学新聞
2021 年 11 月	志布志市原田 3 号地下式横穴墓空撮写真	掲載	1	志布志市教育委員会	看板
2022 年 2 月	錫山鉾山錫鉾石	掲載	1	鹿大名誉教授	著書
2022 年 2 月	鹿児島高等農林学校文書資料	掲載	1	名城大学・個人	論文
2022 年 3 月	神領 10 号墳出土土器	借用（継続）	5	国立歴史民俗博物館	常設展示

9 2021 年度 専任教員の活動業績

橋本 達也 [教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育

共通教育科目「古代東アジアの王陵」担当

共通教育科目「博物館展示論」担当

共通教育科目「博物館教育論」担当

2) その他

「博物館実習」担当

教員免許状更新講習

(2) 研究活動

1) 論文等 (査読無)

橋本達也 2022.03 「原田 3 号地下式横穴墓副葬品の評価と被葬者像」『原田古墳群』志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書 15 志布志市教育委員会 pp. 73-82

橋本達也 2022.03 「『明治五年大仙陵絵図』の研究」『堺市博物館研究報告』41 号 堺市博物館 pp. 25-40

橋本達也 2021.12 「古墳時代における甲冑副葬の意義」『古墳文化基礎論集』古墳文化基礎論集刊行会 pp. 253-262

橋本達也 2021.11 「三の丸尚蔵館所蔵金銅装束角付冑とそれに関わる推論—水野忠央と橋本市陵山古墳をめぐる—」『技と慧眼—塚本敏夫さん還暦記念論集—』塚本敏夫さん還暦記念論集事務局 pp. 125-136

2) 調査報告

相美伊久雄・橋本達也ほか 4 名 2022.03 「原田 2 号・3 号地下式横穴墓」志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書 15 志布志市教育委員会

3) その他

橋本達也 2022.03 「文化財としての「陵墓」と世界遺産—『陵墓限定公開』40 周年記念シンポジウム—」『古代学研究』231 号 pp. 37-40

橋本達也 2022.02 「古墳社会と南島社会の併行関係と相互関係」『考古学から見た沖縄と南九州の地域間交流』第 8 回鹿児島県考古学会・沖縄考古学会合同学会研究発表資料集 鹿児島県考古学会・沖縄考古学会 pp. 35-42

橋本達也 2021.08 「神領 10 号墳と初期須恵器—研究報告 No.15 から—」『鹿児島大学総合研究博物館 Newsletter』No.47 鹿児島大学総合研究博物館 pp. 14-16

4) 学会・研究会発表

橋本達也 2022 年 2 月 13 日 「古墳社会と南島社会の併行関係と相互関係」第 8 回鹿児島県考古学会・沖縄考古学会合同学会「考古学から見た沖縄と南九州の地域間交流」(オンライン)

橋本達也 2022 年 1 月 9 日 「古墳時代の武装にみる共通性とコンフリクト」新学術領域研究(研究領域提案型) 2019 年度～2023 年度「出ユーラシアの統合的人類史学: 文明創出メカニズムの解明」第 6 回全体会議(岡山コンベンションセンター)

橋本達也 2021 年 12 月 11 日 「古墳時代の甲冑・軍事組織・戦争」第 17 回古代武器研究会 武器・武具研究の最前線(公財・元興寺文化財研究所)

橋本達也 2021 年 8 月 7 日 鹿児島大学総合研究博物館第 39 回市民講座「大隅大崎 神領 10 号と古墳のまつり—5 世紀の前方後円墳祭祀と須恵器・土師器—」(オンライン)

(3) 外部資金

研究分担者

新学術領域研究(研究領域提案型) 2021～2023 年度「集団の複合化と戦争」(松木武彦・国立歴史民俗博物館教授ほか 6 名との共同研究)

(4) 社会貢献

1) 学会・公的機関などの役職・委員会委員等

文化財保存全国協議会全国委員

鹿児島県考古学会幹事

九州前方後円墳研究会幹事

古代武器研究会幹事

東串良町唐仁古墳群保存活用検討委員会委員(鹿児島県肝属郡東串良町)

鹿屋市岡崎古墳群検討委員会委員

2) 調査指導・協力

2022 年 3 月 2 日 島内 139 号地下式横穴墓出土資料調査指導

2021 年 12 月 10 日 島内 139 号地下式横穴墓出土資料調査指導

2021 年 9 月 17 日 さつま町供養原 B 遺跡・上原遺跡整理事業指導

2021 年 7 月 29～30 日 志布志市教育委員会原田 3 号地下式横穴墓整理事業指導

2021 年 6 月 14 日 島内 139 号地下式横穴墓出土資料調査指導

2021 年 6 月 8 日 志布志市教育委員会原田 3 号地下式横穴墓整理事業指導

2021 年 4 月 10 日 島内 178 号地下式横穴墓調査指導

(5) 学内委員

放射線安全管理委員会委員

学芸員資格科目委員会委員

総合研究博物館 第 39 回市民講座 担当

総合研究博物館 企画展「未整理植物標本をはさんだ新聞と大正コマーシャルアート」担当

(6) 調査研究

大崎町神領 10 号墳の研究
えびの市島内 139 号地下式横穴墓出土資料調査

(7) 報道関係

2021 年 12 月 21 日 「胃が語る船原古墳の被葬者像」西日本新聞 コメント
2021 年 6 月 22 日 企画展「未整理植物標本をはさんだ新聞と大正コマーシャルアート」NHK ニュース
コメント
その他取材対応：南日本新聞・朝日新聞

本村 浩之 [教授]

(1) 教育活動

1) 専門教育

農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学倫理特論」
農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学特別研究Ⅰ」
農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学特別研究Ⅱ」
農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学特別研究Ⅲ」
農林水産学研究科専門科目「生物環境科学特別講義」
大学院連合農学研究科専門科目「農水圏資源環境科学基礎特論（英語）」（前期）
大学院連合農学研究科専門科目「農水圏資源環境科学特論（英語）」（後期）
大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別演習」（前期・後期）
大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別研究」（前期・後期）

2) その他

博物館資料論（前期）
博物館実習（前期）
博物館実習（理系学部合同）事後指導（後期）

3) 研究教育

主査：博士課程 4 人，修士課程 7 人，学部 4 人
副査：博士課程 2 人，修士課程 3 人

(2) 研究活動

1) 研究論文（査読付）

古橋龍星・今村 央・本村浩之. 2021 (Apr.). 種子島から得られた北限記録のコチ科魚類 *Platycephalus indicus*, および本種の和名に関する経緯と標準化. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 7: 1-6. Doi: 10.34583/ichthy.7.0_1 (1 Apr. 2021)

Matsunuma, M., T. Sado and H. Motomura. 2021 (Apr.). *Cocotropus aurantius*, a new velvetfish (Aploactinidae) from Japan. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-021-00811-8 (5 Apr. 2021), 69 (1): 60-74 (10 Jan. 2022).

和田英敏・古橋龍星・山田守彦・藤井琢磨・吉田朋弘・Kunto Wibowo・荒木萌里・伊藤大介・赤池貴大・中川龍一・渋谷駿太・是枝伶旺・出羽優風・餅田 樹・本村浩之. 2021 (Apr.). 徳之島初記録の魚類 122 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 7: 35-52. Doi: 10.34583/ichthy.7.0_35 (22 Apr. 2021)

望月健太郎・山田守彦・本村浩之. 2021 (Apr.). 甌島列島と鹿児島県本土から得られた九州南部初記録のチゴダラ科魚類ヒメダラ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 7: 53-57. Doi: 10.34583/ichthy.7.0_53 (23 Apr. 2021)

渋谷駿太・三木涼平・本村浩之. 2021 (Apr.). 宮崎県から得られた日向灘初記録のフエフキダイ科魚類オオフエフキ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 7: 66-69. Doi: 10.34583/ichthy.7.0_66 (27 Apr. 2021)

古橋龍星・上野大輔・原崎 森・本村浩之. 2021 (Apr.). 標本に基づく屋久島初記録のアゴアマダイ科魚類シシダマオオクチアマダイ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 7: 70-73. Doi: 10.34583/ichthy.7.0_70 (27 Apr. 2021)

中村潤平・本村浩之. 2021 (Apr.). ニホンイトヨリ *Nemipterus japonicus* の日本からの初めての確かな記録. 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.21-001 (30 Apr. 2021), 68 (2): 81-85 (5 Nov. 2021)

出羽優風・前川隆則・本村浩之. 2021 (May). 奄美大島から得られた国内 2 個体目のベラ科魚類ヒロモチノウオ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 8: 5-7. Doi: 10.34583/ichthy.8.0_5 (10 May 2021)

古橋龍星・前川隆則・本村浩之. 2021 (May). 奄美大島から得られた鹿児島県初記録ならびに北限記録のマシリアイゴ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 8: 8-10. Doi: 10.34583/ichthy.8.0_8 (10 May 2021)

Fujiwara, K., K. W. Conway and H. Motomura. 2021 (May). First record of the Kermadec Clingfish, *Flexor incus* Conway, Stewart & Summers, 2018 (Gobiesocidae), from New Caledonia and Australia. CheckList, 17 (3): 769-773. Doi: 10.15560/17.3.769 (14 May 2021)

中村潤平・本村浩之. 2021 (May). 鹿児島県甌島列島近海から得られた国内 2 例目のオオソコアマダイ（アカタチ科）. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 8: 15-18. Doi: 10.34583/ichthy.8.0_15 (17 May 2021)

和田英敏・大富 潤・本村浩之. 2021 (May). 駿河湾と薩摩半島近海から得られた北限記録かつ日本 2 例目のツバサナカムラギンメ（ナカムラギンメ科）と同半島近海から得られた鹿児島県初記録のシチゴイワシ（ソトオリイワシ科）. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 8: 24-30. Doi: 10.34583/ichthy.8.0_24 (17 May 2021)

Hata, H. and H. Motomura. 2021 (May). *Sardinella ventura* n. sp. (Actinopterygii: Clupeiformes: Clupeidae), a new sardine from Mauritius. Zootaxa, 4975 (2): 389-396. Doi: 10.11646/zootaxa.4975.2.10 (25 May 2021)

Hata, H. and H. Motomura. 2021 (May; dated as Mar.). First record of the grouper *Triso dermopteris*

- (Perciformes: Serranidae) from the Tokara Islands, northern Ryukyu Archipelago, Japan. Biological Magazine Okinawa, 59: 37–43 (25 May 2021)
- 橋本慎太郎・伊東正英・本村浩之. 2021 (May). 薩摩半島西岸から得られた鹿児島県本土初記録のキントキダイ科魚類ウスベニキントキ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 8: 60–63. Doi: 10.34583/ichthy.8.0_60 (28 May 2021)
- 飯野友香・前川隆則・本村浩之. 2021 (June). 奄美大島からの初記録を含むトンガリサカタザメ (シノノメサカタザメ科) の国内における分布状況. および本種の標徴に関する再評価. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 9: 6–10. Doi: 10.34583/ichthy.9.0_06 (4 June 2021)
- Hoshino, K. and H. Motomura. 2021 (June). Redescriptions of the Indo-Pacific scorpionfishes *Scorpaenodes kelloggi* (Jenkins 1903) and *Scorpaenodes hirsutus* (Smith 1957) (Scorpaenidae). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-021-00818-1 (7 June 2021), 69 (1): 111–124 (10 Jan. 2022).
- 飯野友香・本村浩之. 2021 (June). ペラ科魚類 *Pteragogus enneacanthus* キツネオハグロペラ (新称) の標本に基づく日本からの初記録. および国内における分布状況. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 9: 21–26. Doi: 10.34583/ichthy.9.0_21 (23 June 2021)
- Matsunuma, M. and H. Motomura. 2021 (June). Redescriptions of *Dampierosa daruma* Whitley 1932 and *Erosa erosa* (Cuvier in Cuvier and Valenciennes 1829) (Teleostei: Synanceiidae). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-021-00828-z (25 June 2021), 69 (1): 149–168 (10 Jan. 2022).
- Matsunuma, M., B. M. Manjaji-Matsumoto and H. Motomura. 2021 (July). *Synanceia quinque*, a new species of stonefish (Synanceiidae) from Borneo and Flores. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-021-00829-y (5 July 2021), 69 (1): 169–175 (10 Jan. 2022).
- 古橋龍星・本村浩之. 2021 (July). スズメダイ科魚類の高次分類群に対応する標準和名. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 10: 60–74. Doi: 10.34583/ichthy.10.0_60 (18 July 2021)
- Yu, Z., N. Song, H. Motomura and T. Gao. 2021 (July). Taxonomic revision of the cardinalfish genus *Jaydia* in China. Biodiversity Science, 29 (7): 971–979. [俞正森・宋娜・本村浩之・高天翔. 2021. 中国银口天竺鯛属鱼类的分类厘定. 生物多样性, 29: 971–979. Doi: 10.17520/biods.2020320 (20 July 2021).]
- Hata, H. and H. Motomura. 2021 (July). *Stolephorus grandis*, a new anchovy (Teleostei: Clupeiformes: Engraulidae) from New Guinea and Australia. Zootaxa, 5004 (3): 481–489. Doi: 10.11646/zootaxa.5004.3.5 (21 July 2021)
- Hata, H. and H. Motomura. 2021 (July). First record of the grouper *Epinephelus rivulatus* (Teleostei: Serranidae) from the Tokara Islands, northern Ryukyu Archipelago, Japan. Fauna Ryukyana, 61: 9–13 (25 July 2021).
- 是枝伶旺・本村浩之. 2021 (July). コガネチワラスボ (新称) とチワラスボ (ハゼ科チワラスボ属) の鹿児島県における分布状況. および両種の標徴の再評価と生態学的新知見. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 10: 75–104. Doi: 10.34583/ichthy.10.0_75 (26 July 2021)
- 和田英敏・福地伊美映・立原一憲・本村浩之. 2021 (July). イトヒキコハクハナダイ (ハタ科) の沖縄諸島からの初記録. および近縁種 *Pseudanthias georgei* との形態比較. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 10: 105–113. Doi: 10.34583/ichthy.10.0_105 (26 July 2021)
- 橋本慎太郎・大富 潤・本村浩之. 2021 (Aug.). 標本に基づく鹿児島県本土初記録のヒメハナダイ (ハタ科: ハナダイ亜科). Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 11: 6–11. Doi: 10.34583/ichthy.11.0_6 (9 Aug. 2021)
- 古橋龍星・大富 潤・本村浩之. 2021 (Aug.). 甌島列島近海から得られた九州初記録のマメオニガシラ (オニガシラ科). Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 11: 12–16. Doi: 10.34583/ichthy.11.0_12 (10 Aug. 2021)
- Wibowo, K. and H. Motomura. 2021 (Aug.). Review of Indo-Pacific species of the scorpionfish genus *Scorpaena* (Teleostei: Scorpaenidae), with descriptions of two new species from the west coast of Australia. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-021-00827-0 (10 Aug. 2021), 69 (2): 199–235 (17 Apr. 2022)
- 中村潤平・山田守彦・本村浩之. 2021 (Aug.). 奄美大島から得られた薩南諸島初記録および太平洋における北限記録のトガリメザメ (メジロザメ科). Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 11: 17–20. Doi: 10.34583/ichthy.11.0_17 (12 Aug. 2021)
- 出羽優風・中村潤平・本村浩之. 2021 (Aug.). 草垣群島から得られた標本に基づく鹿児島県初記録のヘリシロウツボ (ウツボ科). および同群島からの既報の魚類リスト. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 11: 21–26. Doi: 10.34583/ichthy.11.0_21 (15 Aug. 2021)
- 是枝伶旺・本村浩之. 2021 (Aug.). 下甌島から得られた温帯・亜熱帯性ミミズハゼ属魚類7種の記録. およびミミズハゼ属において初めて確認された交雑の可能性. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 11: 27–52. Doi: 10.34583/ichthy.11.0_27 (20 Aug. 2021)
- 松本達也・前川隆則・本村浩之. 2021 (Sept.). 薩南諸島初記録のカワハギ科ウマヅラハギ属3種 (アズキウマヅラハギ・センウマヅラハギ・ゴイシウマヅラハギ). および *Cantherhines* に対する標準和名ハクセイハギ属 (新称) の提唱. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 12: 12–19. Doi: 10.34583/ichthy.12.0_12 (6 Sept. 2021)
- Delloro, E. S. Jr., R. P. Babaran, A. C. Gaje, P. T. Cambroner, U. B. Alama and H. Motomura. 2021 (Sept.). First records of slender red scad, *Decapterus smithvanizi* (Actinopterygii: Perciformes: Carangidae), from the Philippines. Acta Ichthyologica et Piscatoria, 51 (3): 233–239. Doi: 10.3897/aiep.51.63117 (9 Sept. 2021)
- Hata, H. and H. Motomura. 2021 (Sept.). First Japanese specimen-based records of *Sardinella gibbosa* (Teleostei: Clupeiformes: Clupeidae) from Okinawa Island. Species Diversity, 26: 197–204. Doi: 10.12782/specdiv.26.197 (10 Sept. 2021)
- Fujiwara, K., K. W. Conway and H. Motomura. 2021 (Sept.). Description of a new genus and two new species of Indo-Pacific clingfishes (Gobiesocidae: Diademichthyinae) with redescription and reassignment of two species previously assigned to *Lepadichthys* Waite, 1904. Ichthyology & Herpetology, 109 (3): 753–784 (10 Sept. 2021), doi: 10.1643/i2020132
- 出羽優風・寺井俊二・本村浩之. 2021 (Sept.). 沖縄諸島の久米島から得られたヘビギンボ科 *Ceratobregma heleneae* ミカンヘビギンボ (新称) の北限記録および本種の日本国内における分布状況. 魚類学雑誌,

- doi:10.11369/jji.21-020 (17 Sept. 2021)
- Hata, H. and H. Motomura. 2021 (Sept.). Records of *Sphyraena iburiensis* (Teleostei: Perciformes: Sphyracnidae) from Taiwan. Biogeography, 23: 37–39 (20 Sept. 2021).
- 中村潤平・前川隆則・本村浩之. 2021 (Oct.). 奄美大島から得られた奄美群島初記録のアカマダラハタ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 13: 1–3. Doi: 10.34583/ichthy.13.0_1 (2 Oct. 2021)
- 望月健太郎・樋之口蓉子・本村浩之. 2021 (Oct.). 鹿児島県から得られた国内における分布の南限記録となるタテガミギンボ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 13: 4–8. Doi: 10.34583/ichthy.13.0_4 (5 Oct. 2021)
- Fujiwara, K., T. Suzuki and H. Motomura. 2021 (Oct.). *Callogobius falx*, a new species of goby from southern Japan. Zootaxa, 5048 (2): 253–264. Doi: 10.11646/zootaxa.5048.2.6 (6 Oct. 2021)
- 橋本慎太郎・前川隆則・本村浩之. 2021 (Oct.). 奄美大島から得られた奄美群島初記録のイッテンサクラダイ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 13: 9–12. Doi: 10.34583/ichthy.13.0_9 (6 Oct. 2021)
- Mochizuki, K., Y. Kai, H. Endo and H. Motomura. 2021 (Oct.). Revised diagnosis and first Japanese records of the waspfish *Ocosia spinosa* (Teleostei: Tetrarogidae). Species Diversity, 26: 281–287. Doi: 10.12782/specdiv.26.281 (7 Oct. 2021)
- 赤池貴大・藤原恭司・上原航知・松岡 翠・藤井琢磨・ジョン ビョル・松本達也・中川龍一・緒方僚輝・是枝伶旺・古橋龍星・望月健太郎・飯野友香・出羽優風・石原祥太郎・本村浩之. 2021 (Oct.). 標本に基づく琉球列島初記録を含む沖永良部島初記録の魚類 66 種、およびサザンブラティフィッシュの島内における新産地とカワアナゴ属の一種の形態学的特徴. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 13: 18–35. Doi: 10.34583/ichthy.13.0_18 (11 Oct. 2021)
- Muto, N., R. Kakioka, M. A. Ghaffar, N. V. Quan, V. Vilasri, R. F. M. Traifalgar, R. P. Babaran, F. Muto, H. Takeshima, H. Motomura and S. Ishikawa. 2021 (Oct.). Fine-scale phylogeography of coastal fishes in the South China Sea: possible roles of biological traits and geography. Journal of Biogeography, 00, 1–16. Doi: 10.1111/jbi.14239 (11 Oct. 2021)
- Conway, K. W., K. Fujiwara, H. Motomura and A. P. Summers. 2021 (Oct.). *Erdmannichthys*, a new genus of Gobiesocidae (Teleostei: Gobiesociformes), and notes on the rare clingfish *E. aloreensis* (Allen & Erdmann, 2012), new combination. Raffles Bulletin of Zoology, 69: 428–437. Doi: 10.26107/RBZ-2021-0062 (13 Oct. 2021)
- 赤池貴大・前川隆則・本村浩之. 2021 (Oct.). 奄美大島と沖縄島におけるハチビキ科トゲナシチビキの確かな記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 13: 36–39. Doi: 10.34583/ichthy.13.0_36 (15 Oct. 2021)
- 和田英敏・伊東正英・本村浩之. 2021 (Oct.). 薩摩半島南西沖から得られた鹿児島県初記録のイトヒキカガミダイ、および近縁種であるカガミダイの標徴の再評価. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 13: 43–49. Doi: 10.34583/ichthy.13.0_43 (18 Oct. 2021)
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2021 (Oct.). Review of the *Lepadichthys lineatus* complex (Gobiesocidae: Diademichthyinae) with descriptions of three new species. Journal of Fish Biology, doi: 10.1111/jfb.14919 (21 Oct. 2021), 100 (1): 62–81 (20 Jan. 2022)
- Hata, H., S. Lavoué and H. Motomura. 2021 (Oct.). New rainbow sardine species of *Dussumieria* (Teleostei: Clupeiformes: Dussumieriidae) from the east African coast. Ichthyology & Herpetology, 109 (4): 991–997. Doi: 10.1643/i2020159 (26 Oct. 2021)
- Hata, H. and H. Motomura. 2021 (Oct.). A new species of the anchovy genus *Stolephorus* Lacepède 1803 from North Sumatra, Indonesia, and redescription of *Stolephorus pacificus* Baldwin 1984 and *Stolephorus teguhi* Kimura, Hori and Shibukawa 2009 (Teleostei: Clupeiformes: Engraulidae). Zoological Studies, 60: 65 (doi: 10.6620/ZS.2021.60-65; 13 pp.) (29 Oct. 2021).
- 是枝伶旺・日比野友亮・本村浩之. 2021 (Nov.). 鹿児島湾から得られた九州初記録のゴマホタテウミヘビ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 14: 5–9. Doi: 10.34583/ichthy.14.0_5 (1 Nov. 2021)
- 中村潤平・大富 潤・本村浩之. 2021 (Nov.). 奄美群島喜界島から得られた標本に基づく琉球列島初記録のヒラスズキ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 14: 13–16. Doi: 10.34583/ichthy.14.0_13 (8 Nov. 2021)
- 渋谷駿太・中村潤平・伊藤大介・本村浩之. 2021 (Nov.). 奄美群島北部から得られたフエフキダイ科魚類 4 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 14: 21–25. Doi: 10.34583/ichthy.14.0_21 (16 Nov. 2021)
- 橋本慎太郎・伊東正英・大富 潤・本村浩之. 2021 (Nov.). 標本に基づく鹿児島県初記録のアカグツ科魚類アミメフウリウウオ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 14: 26–30. Doi: 10.34583/ichthy.14.0_26 (17 Nov. 2021)
- 石原祥太郎・本村浩之. 2021 (Nov.). 薩摩半島南岸から得られた鹿児島県本土初記録のナミフエダイ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 14: 31–34. Doi: 10.34583/ichthy.14.0_31 (20 Nov. 2021)
- 中村潤平・藤井琢磨・船川賢治・広瀬 純・池端博文・本村浩之. 2021 (Nov.). 薩摩半島南西沖から得られた鹿児島県初記録のナンヨウキホウボウ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 14: 39–42. Doi: 10.34583/ichthy.14.0_39 (25 Nov. 2021)
- 松沼瑞樹・高久 至・本村浩之. 2021 (Nov.). 屋久島で撮影された日本および琉球列島初記録を含む大隅諸島初記録の魚類 8 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 14: 43–47. Doi: 10.34583/ichthy.14.0_43 (27 Nov. 2021)
- 望月健太郎・ジョン ビョル・本村浩之. 2021 (Nov.). 大隅諸島竹島から得られた初記録の魚類 23 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 14: 48–53. Doi: 10.34583/ichthy.14.0_48 (28 Nov. 2021)
- 渋谷駿太・本村浩之. 2021 (Nov.). 鹿児島県本土初記録のフエフキダイ科 2 種：イソフエフキとハナフエフキ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 14: 54–58. Doi: 10.34583/ichthy.14.0_54 (29 Nov. 2021)
- Matsunuma, M. and H. Motomura. 2021 (Dec.). Revision of the genus *Parapterois* (Scorpaenidae: Pteroinae) and resurrection of *Parapterois nigripinna* (Gilchrist 1904). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-021-00845-y (3 Dec. 2021)
- Fujiwara, K., P. N. Psomadakis, T. Y. Y. Swe and H. Motomura. 2021 (Dec.). Description of a new species of *Obliquogobius* (Teleostei: Gobiidae) from the Andaman Sea (northeastern Indian Ocean). Raffles Bulletin of Zoology, 69: 541–547. Doi: 10.26107/RBZ-2021-0070 (17 Dec. 2021)
- 望月健太郎・大富 潤・松浦啓一・本村浩之. 2021 (Dec.). 草垣群島から得られたウチワフグの色彩変異個体と本種のトカラ列島における標本に基づく初記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 15: 27–32.

- Doi: 10.34583/ichthy.15.0_27 (23 Dec. 2021)
- 渋谷駿太・本村浩之. 2021 (Dec.). 東シナ海北部から得られたフエフキダイ科 2 種：シロダイとアマミフエフキ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 15: 22–26. Doi: 10.34583/ichthy.15.0_22 (21 Dec. 2021)
- Nakagawa, R., Y. Sakurai and H. Motomura. 2022 (Jan.). Distributional range extension of the Pale Ornate Jobfish (Teleostei: Perciformes: Lutjanidae) *Pristipomoides amoenus* in the western Pacific Ocean, with notes on newly recognized diagnostic coloration. Species Diversity, 27: 15–23. Doi: 10.12782/specdiv.27.15 (1 Jan. 2022)
- 古橋龍星・三木涼平・本村浩之. 2022 (Jan.). 宮崎県沖から得られた九州沿岸初記録のコバンザメ科オオコバン, および本種の分散と宿主の生態に関する考察. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 16: 11–17. Doi: 10.34583/ichthy.16.0_11 (5 Jan. 2022)
- Wibowo, K. and H. Motomura. 2022 (Jan.). *Phenacoscorpius longicaudalis*, a new species of scorpionfish (Teleostei: Scorpaenidae) from Western Australia, with first records of *Phenacoscorpius adenensis* from the southeastern Indian Ocean. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-021-00849-8 (7 Jan. 2022)
- Akaike, T., S. Chungthanawong and H. Motomura. 2022 (Jan.). First records of the seamothe *Pegasus nanhaiensis* (Actinopterygii, Syngnathiformes, Pegasidae) from the southern South China Sea, with notes on fresh coloration. Acta Ichthyologica et Piscatoria, 52 (1): 1–8. Doi: 10.3897/aiep.52.78260 (11 Jan. 2022).
- Chungthanawong, S. and H. Motomura. 2022 (Jan.). A new species of the waspfish genus *Ocosia* (Teleostei: Tetraogidae) from the Coral Sea, with a key to species in the genus. Zootaxa, 5091 (3): 429–442. Doi: 10.11646/zootaxa.5091.3.3 (14 Jan. 2022).
- Matsunuma, M. and H. Motomura. 2022 (Jan.). Two new species of butterflyfish genus *Roa* (Perciformes: Chaetodontidae). Journal of Fish Biology, doi: 10.1111/jfb.14993 (17 Jan. 2022), 100 (3): 758–774 (26 Mar. 2022)
- Fujiwara, K., K. W. Conway, A. P. Summers and H. Motomura. 2022 (Jan.). Rediagnosis of the monotypic genus *Lepadicyathus* Prokofiev 2005 (Gobiesocidae: Diademichthyinae) and redescription of *Lepadicyathus minor* (Briggs 1955), new combination. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-021-00851-0 (16 pages; 22 Jan. 2022)
- 橋本慎太郎・和田英敏・伊東正英・大富 潤・本村浩之. 2022 (Jan.). 薩摩半島西方から得られた鹿児島県における確かなヘリキホウボウの記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 16: 29–32. Doi: 10.34583/ichthy.16.0_29 (25 Jan. 2022).
- 古橋龍星・前川隆則・本村浩之. 2022 (Feb.). 奄美大島から得られた鹿児島県初記録ならびに北限記録のイレズミゴンベ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 17: 1–4. Doi: 10.34583/ichthy.17.0_1 (2 Feb. 2022).
- 飯野友香・本村浩之. 2022 (Feb.). ベラ科魚類 *Pteragogus flagellifer* イトヒキオハグロベラ (新称) の標本に基づく日本からの初記録, および国内における分布状況. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 17: 5–10. Doi: 10.34583/ichthy.17.0_5 (2 Feb. 2022).
- Hata, H., S. Lavoué and H. Motomura. 2022 (Feb.). *Thrissina katana* sp. nov., a new thrissa from the western Pacific Ocean, and redescription of *Thrissina hamiltonii* (Gray, 1835) (Teleostei: Clupeiformes: Engraulidae). Marine Biodiversity, doi: 10.1007/s12526-021-01228-2 (3 Feb. 2022).
- 是枝伶旺・古橋龍星・久木田直斗・本村浩之. 2022 (Feb.). 薩摩半島から得られた九州初記録 10 種を含む, 鹿児島県本土初記録の暖水性魚類 16 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 17: 20–38. Doi: 10.34583/ichthy.17.0_20 (9 Feb. 2022).
- Wada, H. and H. Motomura. 2022 (Feb.). Two new species of the deepwater scorpionfish genus *Lioscorpius* (Setarchidae) from the southwestern Pacific Ocean. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-022-00860-7 (9 Feb. 2022)
- Matsunuma, M., S. Chungthanawong and H. Motomura. 2022 (Feb.). Taxonomic status of two nominal species of *Tetraroge* (Perciformes: Tetraogidae): *Tetraroge albitrons* Duncker and Mohr 1929 and *Tetraroge bellona* De Vis 1884. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-022-00859-0 (9 Feb. 2022)
- 飯野友香・本村浩之. 2022 (Feb.). オハグロベラの小笠原諸島からの初記録, および本種の国内における分布状況. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 17: 39–45. Doi: 10.34583/ichthy.17.0_39 (14 Feb. 2022).
- 渋谷駿太・前川隆則・桜井 雄・本村浩之. 2022 (Feb.). フエフキダイ科 *Lethrinus olivaceus* Valenciennes, 1830 キツネフエフキの新参異名とされていた *Lethrinus longirostris* Playfair, 1867 タチガミフエフキ (新称) の有効性と再記載. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 17: 50–66. Doi: 10.34583/ichthy.17.0_50 (21 Feb. 2022).
- Harada, A., R. Shiota, R. Okubo, M. Yorifuji, A. Sogabe, H. Motomura, J. Hiroi, S. Yasumasu and M. Kawaguchi. 2022 (Feb.). Brood pouch evolution in pipefish and seahorse based on histological observation. Placenta, 120: 88–96. Doi: 10.1016/j.placenta.2022.02.014 (23 Feb. 2022)
- 津野義大・幸大二郎・本村浩之・遠藤広光. 2022 (Feb.). 標本に基づく高知県初記録のフサカサゴ科魚類 5 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 17: 79–87. Doi: 10.34583/ichthy.17.0_79 (26 Feb. 2022).
- 藤原恭司・ジョン ビョル・松岡 翠・本村浩之. 2022 (Feb.). 奄美群島喜界島から得られた初記録の魚類 28 種および同島から確認された魚類の総種数. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 17: 88–94. Doi: 10.34583/ichthy.17.0_88 (26 Feb. 2022).
- 古橋龍星・萩原清司・本村浩之. 2022 (Feb.). 奄美大島から得られた日本初記録のユカタハゼ属魚類モンロユカタハゼ (新称). タクサ, 52: 32–36. Doi: 10.19004/taxa.52.0_32 (28 Feb. 2022)
- Hata, H. and H. Motomura. 2022 (Mar.). Redescription of *Stolephorus ronquilloi* Wongratana, 1983 and description of *Stolephorus hindustanensis*, a new anchovy from the western coast of India (Teleostei: Clupeiformes: Engraulidae). Taxonomy, 2: 124–135. Doi: 10.3390/taxonomy2010010 (6 Mar. 2022)
- 佐藤智水・ジョン ビョル・伊東正英・本村浩之. 2022 (Mar.). 大隅諸島黒島沖から得られた九州沿岸初記録のオロシザメ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 18: 1–5. Doi: 10.34583/ichthy.18.0_1 (7 Mar. 2022).
- Shibuya, S., Y. Sakurai and H. Motomura. 2022 (Mar.). First specimen-based records of Redfin Emperor *Monotaxis heterodon* (Perciformes: Lethrinidae) from Japan, with new diagnostic characters applicable to identification of preserved specimens. Species Diversity, 27: 45–51. Doi: 10.12782/specdiv.27.45 (10

- Mar. 2022)
- Fujiwara, K., P. N. Psomadakis, T. Y. Y. Swe and H. Motomura. 2022 (Mar.). First records of the two gobies, *Cryptocentrus shigensis* and *Priolepis profunda* (Actinopterygii: Gobiiformes: Gobiidae), from the Andaman Sea. *Acta Ichthyologica et Piscatoria*, 52 (1): 21–27. Doi: 10.3897/aiep.52.71241 (14 Mar. 2022)
- 飯野友香・本村浩之. 2022 (Mar.). 南西諸島4島から得られた標本に基づく日本2例目のキツネオハグロベラ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 18: 19–24. Doi: 10.34583/ichthy.18.0_19 (16 Mar. 2022).
- 2) 研究論文 (査読なし)
- 古橋龍星・原崎 森・本村浩之. 2021 (Aug.). 水中写真に基づくイッポンテグリ (ネズブコ科: イッポンテグリ属) の屋久島からの初記録. *Nature of Kagoshima*, 48: 67–68. (19 Aug. 2021)
- Jeong, B. and H. Motomura. 2021 (Oct.). An annotated checklist of marine and freshwater fishes of five islands of Mishima in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 109 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 16: 1–116 (1 Oct. 2021).
- 3) 書籍
- 本村浩之 (監). 2021 (Apr.). ポップアップ深海生物. 鈴木出版, 東京. 16 pp. (1 Apr. 2021)
- Webb, T. J., M. J. Juan-Jordá, H. Motomura, F. Navarrete-Mier, H. Ojaveer, H. Oxenford, C. Park, C. Roberts, M. D. Santos, T. Sutton and M. Thorndyke. 2021 (Apr.). Chapter 6C: Trends in the biodiversity of main taxa of marine biota: Fishes. pp. 161–175. In Group of Experts of the Regular Process (ed.). *The Second World Ocean Assessment. Vol. 1. United Nations, New York*. xxiii + 543 pp. (21 Apr. 2021)
- 本村浩之 (監). 2021 (June). 川田一輝 (著) おもしろすぎる! 海の仲間たち ツッコミたくなる おさかな図鑑. ワニブックス, 東京. 192 pp. (1 June 2021)
- 本村浩之・武田正倫 (監). 2021 (July). なぜ? どうして? はじめてのこども図鑑 さかな・みずのいきもの. 学研プラス, 東京. 116 pp.
- Motomura, H. 2021 (Dec.). Scorpaenidae, scorpionfishes, pp.44–45; Synanceiidae, stonefishes, pp. 45–46. In Seah, Y. G., M. Sharol Ali, M. A. Ghaffar and T. N. A. M. Jaffar (eds.) *Marine fishes of Kuantan. Malaysia biodiversity information system. Penerbit UMT, Universiti Malaysia Terengganu, Kuala Nerus*. xi + 172 pp.
- Kai, Y., H. Motomura and K. Matsuura (eds.). 2022 (Jan.). *Fish diversity of Japan. Evolution, zoogeography, and conservation. Springer Nature Singapore Pte Ltd., Singapore*. vi + 454 pp. Doi: 10.1007/978-981-16-7427-3 (23 Jan. 2022)
- Matsuura, K. and H. Motomura. 2022 (Feb.). Identification guide to pufferfishes (Tetraodontidae, Tetraodontiformes) of the South China Sea. *The Kagoshima University Museum, Kagoshima*. 40 pp., 70 figs. (1 Feb. 2022)
- 岩坪洸樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編). 2022 (Feb.). 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎市・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市. 329 pp., 1833 figs. (22 Feb. 2022)
- 本村浩之 (編). 2022 (Feb.). *ICHTHY, Natural History of Fishes of Japan. Vols. 1–12 (2020.10–2021.9)*. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市. 614 pp. (25 Feb. 2022)
- 4) その他の出版物
- 本村浩之. 2021 (June). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 21 ヨコヅナマルコバン. さくらじまの海, 25 (1): 8.
- 本村浩之. 2021 (Sept.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 22 キツネオハグロベラ. さくらじまの海, 25 (2): 8.
- 本村浩之. 2021 (Oct.). 未知の魚の宝庫. Pp. 67–70. 山本宗立・高宮広土 (編) 魅惑の島々、奄美群島—自然編—. 鹿児島大学島嶼研ブックレット No. 18.
- Chunghthanawong, S. and H. Motomura. 2021 (Nov.). Correction to: Review of the waspfish genus *Neocentropogon* (Tetrarogidae), with a key to genera in the family. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-021-00846-x (15 Nov. 2021), 69 (1): 194–196 (10 Jan. 2022).
- 本村浩之. 2021 (Dec.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 23 ウスハナフエダイ. さくらじまの海, 25 (3): 8.
- 本村浩之・是枝伶旺・古橋龍星. 2022 (Mar.). 1–4–18. 奄美群島3島 (奄美大島・喜界島・沖永良部島) における魚類相調査. Pp. 60–62. 鈴木英治・河合 溪・松田忠大・藤内哲也 (編) 平成2年度～令和3年度 文部科学省特別経費 (プロジェクト) 世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点 形成. 南太平洋海域調査研究報告 No 63.
- 本村浩之. 2022 (Mar.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 24 アマツミウバウオ. さくらじまの海, 25 (4): 8.
- 5) 学会・シンポジウム等発表
- 本村浩之. 2021 (4 Sept.). 奄美群島の魚たち. 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター「奄美群島 島めぐり 講演会 第13回 奄美大島住用町」. 住用総合支所, 住用町.
- 畑 晴陵・S. Lavoué・本村浩之. 2021 (18–20 Sept.). ウルメイワシ科ギンイワシ属の分類学的再検討. 2021年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会) Oral
- 望月健太郎・本村浩之. 2021 (18–20 Sept.). ネットイフサカサゴ属 *Parascorpaena mossambica* (Peter, 1855) の新参異名とされていた *Parascorpaena armata* (Sauvage, 1873) の有効性. 2021年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会) Poster
- 松本達也・武藤望生・荒田優輝・松尾一輝・本村浩之. 2021 (18–20 Sept.). フサカサゴ科魚類ヤブサメカサゴ *Neomerinthe erostris* 類似種群の分類学的再検討. 2021年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会) Poster
- 和田英敏・瀬能 宏・本村浩之. 2021 (18–20 Sept.). 南西太平洋から得られたシロカサゴ科ヤセアカカサゴ属の2未記載種. 2021年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会) Poster
- 出羽優風・本村浩之. 2021 (18–20 Sept.). *Enneapterygius rubicauda* Shen, 1994 の新参異名とされていた *Enneapterygius erythrosoma* Shen, 1994 の有効性 (ヘビギンボ科). 2021年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会) Poster
- 是枝伶旺・本村浩之. 2021 (18–20 Sept.). 薩南諸島に分布する亜熱帯性の海産ミミズハゼ属魚類の形態と近似種との比較. 2021年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会) Poster
- 中村潤平・柏木伸幸・西田和記・堀江 諒・本村浩之. 2021 (18–20 Sept.). 鹿児島湾の鹿児島港に位置する水族館の屋外生物展示水域「イルカ水路」の魚類相. 2021年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会) Poster

古橋龍星・本村浩之. 2021 (18-20 Sept.). アカエソとミナミアカエソ (エソ科: アカエソ属) の標徴の再検討、および両種の国内における分布状況. 2021 年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会) Poster

中川龍一・本村浩之. 2021 (18-20 Sept.). 琉球列島から得られたタナバタウオ属の 1 未記載種. 2021 年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会) Poster

石原祥太郎・本村浩之. 2021 (18-20 Sept.). ヒトスジタマガシラ *Scolopsis monogramma* (Cuvier, 1830) の新参異名とされていた *Scolopsis regina* Whitley, 1937 の有効性 (イトヨリダイ科ヨコシマタマガシラ属). 2021 年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会) Poster

飯野友香・本村浩之. 2021 (18-20 Sept.). 日本産オハグロベラ属魚類の分類学的再検討. 2021 年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会) Poster

藤原恭司・本村浩之. 2021 (18-20 Sept.). 日本産ウバウオ科魚類の分類学的再検討. 2021 年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会) Poster

小川奈津・藤原恭司・本村浩之. 2021 (18-20 Sept.). 琉球列島から得られたイソハゼ属の 1 未記載種. 2021 年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会) Poster

赤池貴大・本村浩之. 2021 (18-20 Sept.). 沖縄島とロンボク島から得られたスナハゼ属の 1 未記載種. 2021 年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会) Poster

渋谷駿太・本村浩之. 2021 (18-20 Sept.). フエフキダイ科ヨコシマクロダイ属魚類 *Monotaxis heterodon* の日本における記録、および本種の標徴に関する新知見と適用すべき標準和名の検討. 2021 年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会) Poster

ジョン・ビョル・本村浩之. 2021 (18-20 Sept.). 大隅諸島三島村の魚類相. 2021 年度日本魚類学会年会 (ウェブ大会) Poster

Chungthanawong, S. and H. Motomura. 2021 (4-5 Nov.). An undescribed species of the waspfish genus *Ocasia* (Teleostei: Tetraodonidae) from the Coral Sea. International Symposium of Science Museums 2021. National Science Museum, Daejeon.

和田英敏・是枝伶旺・古橋龍星・中川龍一・本村浩之. 2021 (4 Dec.). 九州・大淀川水系萩原川のコウライオヤニラミ外来個体群における体サイズ組成の経年的変化. 第 1 回若手魚類研究発表会, オンライン大会

津野義大・幸大二郎・本村浩之・遠藤広光. 2021 (11 Dec.). 標本に基づく高知県初記録のフサカサゴ科魚類 3 種の記録. 2021 年度土佐生物学会大会, オンライン大会

幸大二郎・中江雅典・本村浩之・瀬能 宏・遠藤広光. 2021 (11 Dec.). 高知県未記録のヨウジウオ科魚類 6 種. 2021 年度土佐生物学会大会, オンライン大会

(3) 外部資金

日本学術振興会 科研費基盤研究 (A)「鹿児島湾海底火山活動によって放出される水銀及びセレンの環境動態」(分担)

日本学術振興会 科研費基盤研究 (B)「渡瀬線に代わる海洋生物における新たな生物地理境界線「大隅線」の検証」(代表)

日本学術振興会 科研費基盤研究 (B)「島嶼海岸生物の地理的分布に分散ネットワークが果たす役割: 温暖化に伴う北上は容易か」(分担)

日本学術振興会 研究拠点形成事業-B. アジア・アフリカ学術基盤形成型-「持続的な東南アジア海洋生態系利用のための研究教育プロジェクト」(分担)

文部科学省 特別経費-地域貢献機能の充実-「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」(分担)

(4) 社会貢献・学外活動

日本魚類学会 代議員

日本魚類学会 標準和名検討委員会 委員

日本魚類学会 ABS 対策チーム 委員

日本動物分類学会 学会賞および奨励賞受賞候補者選考委員会 委員長

日本生物地理学会 評議員

日本博物科学会 理事

かごしま水族館 評議員

鹿児島県自然環境保全協会 理事

桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会 委員

出水ツルの越冬地生物多様性協議会 副会長

西之表市史自然部会 委員

和泊町の歩み編さん委員会 委員

国際自然保護連合 種の保存委員

オーストラリア博物館 客員研究員

Philippine Journal of Systematic Biology 誌 編集顧問

Taxonomy 誌 編集顧問

マレーシア・トレンガヌ大学 教授 / 准教授昇進外部人事評価委員

(5) 学内委員等

総合研究博物館 館長

総合研究博物館 Ichthy, Natural History of Fishes of Japan 編集委員長

総合研究博物館 特別公開「パンダゲンロクダイ」企画・担当

総合研究博物館 特別公開「鹿児島島のピグミーシーホース」企画・担当

総合研究博物館 特別公開「ホシカゲアゴアマダイ」企画・担当

大学改革検討会議 (機構・学内共同教育研究施設関連) 委員

ABS 推進室 委員

企画・評価委員会 委員

男女共同参画推進センター 委員

グローバルセンター 兼務教員

国際島嶼教育研究センター 兼務教員
大学院農林水産学研究科 入試委員会 委員
大学院連合農学研究科 入試委員会 委員
大学院連合農学研究科 学位論文審査委員会 委員

(6) 報道関係

世界さまぁ〜リゾート。世界ビーチウォーカー in サイパン SP. TBS, 2021 年 4 月 3 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
2 種のカサゴを命名した鹿児島大学院修了生 和田英敏さん。南日本新聞, 2021 年 4 月 19 日
「ニホンイトヨリ」日本初確認 国内採集ないのに「ニホン」名 西之表港 鹿大チームが発表。南日本新聞, 2021 年 5 月 12 日
これまで国内で未発見の「ニホンイトヨリ」種子島で確認。NHK 鹿児島, 2021 年 5 月 13 日 12:15 ~ (鹿児島), 13:30 ~ (全国), 18:10 ~ (再放送), 14 日 7:00 ~ (全国)
「外国人の疑問を解決する第三弾! 今回はスーパーで気になる名前」日本人のおなまえっ! NHK, 2021 年 5 月 13 日 19:57 ~
坂上どうぶつ動物王国。フジテレビ, 2021 年 5 月 14 日, 19:00 ~ 20:00
ニホンイトヨリ 日本にいた! 230 年前 学者が日本産と誤認して命名 国内初確認 種子島で男性が釣る。朝日新聞 (九州), 2021 年 5 月 16 日
ニホンイトヨリ 日本にいた 誤認され命名「幻の魚」のはずが・・・朝日新聞 (名古屋), 2021 年 5 月 18 日
230 年前「日本産」と誤認 ニホンイトヨリ 国内で初の確認。朝日新聞 (大阪・西日本), 2021 年 5 月 18 日
ニホンイトヨリ 日本にいたのだ 名前についているのに未発見だった魚。朝日小学生新聞, 2021 年 5 月 18 日
ニホンイトヨリ国内初確認 種子島、日本産と誤り命名。共同通信, 2021 年 5 月 19 日
ニホンイトヨリ 種子島で釣れた 日本にもいた!! 230 年前「ジャワ」と「ジャパン」を誤認? 東京新聞, 2021 年 5 月 28 日
「大隅市場魚類図鑑」寄贈。広報きもつき Kimotsuki, 192: 5 (2021 年 5 月 31 日)
奄美群島 島の魚と料理。鹿児島県大島支庁林務水産課, 2021 年 6 月 4 日
鹿児島でとれる海の魚 お名前いくつ読めるかな? 食育ハンドブック 2021 いただきますの本。エフエム鹿児島, 2021 年 6 月, P. 36
フサカサゴの新種 鹿大チーム、国内初確認。南日本新聞, 2021 年 6 月 20 日
「キツネオハグロベラ」初確認 鹿大 4 年飯野さん 県内で採集の標本調査。南日本新聞, 2021 年 7 月 2 日
世界さまぁ〜リゾート。世界ビーチウォーカー in タヒチ ボラボラ島。TBS, 2021 年 7 月 10 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
世界さまぁ〜リゾート。世界ビーチウォーカー in タヒチ モーレア島。TBS, 2021 年 7 月 17 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
新種の魚を次々に発見する鹿児島大学教授。かお。南日本新聞, 2021 年 7 月 30 日
鹿大島嶼研究めぐり講演会 種の多様性紹介 海の生きものへの理解深める。奄美新聞, 2021 年 9 月 5 日
宮城金華山 ニホンザル 超過密な島を生き抜け。ワイルドライフ。NHK BS プレミアム, 2021 年 9 月 6 日, 20:00 ~ 20:59
飼育員ニュース「新種のエイ発見!」。NHK, 2021 年 9 月 25 日 ~ (14 日間), 11:20 ~
奄美アドベンチャージャーニー。NHK BS プレミアム, 2021 年 9 月 25 日, 18:00 ~ 19:29
世界さまぁ〜リゾート。世界ビーチウォーカー in メキシコ ロスカボス。TBS, 2021 年 10 月 16 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
世界さまぁ〜リゾート。世界ビーチウォーカー in メキシコ ロスカボス 2。TBS, 2021 年 10 月 23 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
一撃解明バラエティーひと目でわかる!! 日本テレビ, 2021 年 11 月 30 日, 21:00-22:54 (魚の解説)
世界さまぁ〜リゾート。沖縄おすすめスポット SP。TBS, 2021 年 12 月 4 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
珍しい深海魚 かごしま水族館の体験講座で発見。MBC ニュースナウ, 2021 年 12 月 13 日, 18:15 ~
「ナンヨウキボウボウ」が鹿児島県沿岸で初めて見つかった。消しゴム。南日本新聞, 2021 年 12 月 29 日
世界さまぁ〜リゾート。コーディネーターに聞いたハワイおすすめスポットベスト 10。TBS, 2022 年 1 月 22 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
超無敵クラス。日本テレビ, 2022 年 1 月 25 日, 23:59-24:54
与論島で国内初確認の魚類 星の神ちなみ命名「アマツミウバウオ」 鹿児島大学総合研究博物館。南海日日新聞, 2022 年 2 月 6 日
ウバウオ科の魚 国内初確認。鹿児島大学大学院藤原さんら。南日本新聞, 2022 年 2 月 10 日
世界さまぁ〜リゾート。カンクン移住ガールおすすめスポットベスト 3。TBS, 2022 年 2 月 19 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
155 年勘違い 奄美に分布の魚「実は別種」。MBC ニュースナウ, 2022 年 3 月 7 日, 18:15 ~
奄美大島近海で釣れた魚が日本初記録「タチガミフエフキ」と命名 鹿大総合研究博物館の研究チーム。奄美新聞, 2022 年 3 月 11 日
薩摩半島の魚紹介 水圏生物博物館と鹿大博物館が図鑑。南日本新聞, 2022 年 3 月 12 日
命名「モンロユカタハゼ」 99 年採集の標本 実は日本初記録。神奈川新聞, 2022 年 3 月 17 日
情報 WAVE 鹿児島。NHK, 2022 年 3 月 18 日, 18:10-19:00 (魚類ボランティア活動の紹介)
99 年に奄美で採集されたハゼ 名無しの標本「新種」でした。朝日新聞, 2022 年 3 月 29 日

大西 佳子 [助教]

出版物

大西 佳子 2021 「多様性」『鹿児島大学総合研究博物館 NewsLetter』No.47 p11-14

田金 秀一郎 [特任助教]

(1) 教育活動

1) 全学共通教育

集中講義「屋久島の環境文化Ⅰー植生ー」(後期) [新型コロナ感染症により中止]

2) その他

博物館資料論 (前期)

博物館実習事前事後指導 (前期)

理学部地域自然環境実習 (前期) [新型コロナ感染症により中止]

(2) 研究活動

1) 研究論文 (査読付)

Toyama H., Tagane S., Dang V.-S., Chhang P., Nagamasu H., Yahara T. 2022. Taxonomic reevaluation of *Garcinia bonii* Pit. (Clusiaceae). *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 73: 73–76.

Komada N., Itioka T., Nakanishi A., Tagane S., Shimizu-kaya U., Nakagawa M., Meleng P., Pungga R.A.S., Kanzaki M. 2022. Effects of host tree size on the species richness and abundance of epiphyte assemblages in a Bornean lowland tropical forest. *Tropics* 30(4): 53–61.

Noyori K., Komada N., Souladeth P., Tagane S. 2022. *Camchaya bolavenensis* (Asteraceae: Vernonieae), a new species from Bolaven Plateau, southern Laos. *Phytotaxa* 536: 1–6.

Nuraliev M., Schori M., Tagane S., Kuznetsov A.N., Kunznetsova S.P., Utteridge T.M.A. 2022. *Citronella suaveolens*, a new generic record for Vietnam, with a key to Vietnamese Cardiopteridaceae. *Phytotaxa* 532(1): 67–77.

Hirota S.K., Yahara T., Fuse K., Sato H., Tagane S., Fujii S., Minamitani T., Suyama Y. 2022. Molecular phylogeny and taxonomy of the *Hydrangea serrata* complex (Hydrangeaceae) in western Japan, including a new subspecies of *H. acuminata* from Yakushima. *PhytoKeys* 188: 49–71.

Yahara T., Hirota S.K., Fuse K., Sato H., Tagane S., Suyama Y. 2021. A new subspecies of *Stellaria alsine* (Caryophyllaceae) from Yakushima, Japan. *PhytoKeys* 187: 177–188.

Ito Y., Yadav S.R., Chang Y.S., Tagane S., Li P., Ohi-Toma T. 2021. Molecular species delimitation reveals underestimated diversity in the tree genus *Nothapodytes* (Icacinaeae) *Plant Systematics and Evolution* (2021) 308: 3.

Souvannakhommane K., Lanorsavanh S., Tagane S., Souladeth P., Phonpaseuth P., Ponagamornkul W., Lamxay V. 2021. Six new species and eight new distribution records of Gesneriaceae from Laos. *Gardens' Bulletin Singapore* 73(2): 427–456.

Ngoc V.N., Binh H.T., Nagahama A., Tagane S., Toyama H., Matsuo A., Suyama Y., Yahara T. 2021. Morphological and molecular evidence reveals three new species of *Lithocarpus* (Fagaceae) from Bidoup-Nui Ba National Park, Vietnam. *PhytoKeys* 186: 73–92.

Quang B.H., Tagane H., Viet H.N., Canh T.T. 2021. *Beilschmiedia danhkyii* (Lauraceae), a new species from Vu Quang National Park, Vietnam. *Phytotaxa* 527: 215–220.

Tagane S., Souladeth P., Yahara T. 2021. Two new species and seven new records of Lauraceae for the flora of Laos. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 72: 265–264.

Nagahama A., Tagane S., Zhang M., Ngoc N.V., Binh H.T., Cuong T.Q., Nagamasu H., Toyama H., Tsuchiya K., Yahara T. 2021. *Claoxylon langbianense* (Euphorbiaceae), a new species from Bidoup-Nui Ba National Park, southern Vietnam. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 72: 275–280.

Phonpaseuth P., Souladeth P., Lanorsavanh S., Tagane S., Vongthavone T., Souvannakhommane K. 2021. New distribution records of *Begonia* L., *Begonia murina* Craib and *B. poilanei* Kiew (Begoniaceae: Cucurbitales) for Laos. *Journal of Threatened Taxa* 13(12): 19849–19854.

Ohashi H., Ohashi K., Nata K., Souladeth P., Tagane S. 2021. A new species and a new combination of *Grona* with a list of *Desmodium* s.l. (Leguminosae) of Indochina. *Journal of Japanese Botany* 96(5): 264–278.

Vongthavone T., Tagane S., Phonpaseuth P., Souvannakhommane K., Souladeth P. 2021. Twelve new records of pteridophytes from Bolaven Plateau, southern Laos. *Thai Forest Bulletin, Botany* 49: 182–190.

Yahara T., Hirota S., Fuse K., Sato H., Tagane S., Suyama H. 2021. Molecular phylogeny and taxonomy of *Hosta* (Asparagaceae), including an undescribed species *Hosta alata*, on Kyushu island, Japan. *PhytoKeys* 181: 79–93.

Yano O., Maruno K., Fujii S., Tagane S. 2021. A new record of *Fimbristylis aestivalis* (Retz.) Vahl (Cyperaceae) from Kagoshima Prefecture, Japan. *Journal of Japanese Cyperology* 23: 7–12. (in Japanese)

Tamura Y., Tagane S., Yano O. 2021. *Fimbristylis ovata* (Burm. f.) J. Kern (Cyperaceae) from the mainland and Shimo-koshiki-jima Island in Kagoshima Prefecture, Japan. *Journal of Japanese Cyperology* 23: 3–5. (in Japanese)

Binh H.T., Ngoc N.V., Son H.T., Tagane S., Yahara T. 2021. *Quercus ngochoaensis* (Fagaceae), a new species from Ba Vi National Park, northern Vietnam. *Phytotaxa* 516: 283–288.

Yamazaki K., Souladeth P., Tagane S. 2021. *Strobilanthes bolavenensis*, a new species of Acanthaceae from Bolaven Plateau, southern Laos. *Phytotaxa* 513: 152–158.

Severova E.E., Polevova S.V., Yudina S.V., Truong B.V., Do T.X., Chantanaorrapint S., Suetsugu K., Tagane S., Guo X., Schelkunov M.I., Nuraliev M.S. 2021. Palynological study of Asian *Thismia* (Thismiaceae: Dioscoreales) reveals an unusual pollen type. *Plant Systematics and Evolution* 54: 307.

Le T.A., Dinh D., Doan Q.T., Nguyen Q.H.A., Tagane S. 2021. *Thottea aroangensis*, a new species of Aristolochiaceae from central Vietnam. *Phytotaxa* 513: 69–74.

Yamazaki K., Tagane S., Souladeth P., Miyamoto J. 2021. A new variety of *Justicia vagabunda* (Acanthaceae), var. *laxiflora*, from Bolaven Plateau, southern Laos. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 72(2): 161–166.

Tagane S., Nagamasu H., Chhang P., Son H.T., Toyama H., Yahara T. 2021. Flora of Bokor National Park VIII : A new species of *Cleyera* (Pentaphragmataceae), *C. bokorensis*. *Acta Phytotaxonomica et*

- Geobotanica 72(2): 145–151.
- Phonpaseuth P., Souladeh P., Souvannakhoummane K., Vongthavone T., Tagane S. 2021. Two new species of *Sonerila* Roxb. (Melastomataceae) from Laos. European Journal of Taxonomy 755(1): 136–148.
- Tagane S., Nakanishi H. 2021. *Matsumurella chinensis* (Lamiaceae), new to the flora of Japan. The Journal of Japanese Botany 96(3): 175–179.
- Julius A., Gutiérrez-Ortega J.S., Sabran S., Tagane S., Naiki A., Darnaedi D., Aung M.M., Dang V.S., Ngoc N.V., Binh H.T., Watano Y., Utteridge T.M.A., Kajita T. 2021. Phylogenetic Relationship of Tropical Asian *Ardisia* and Relatives (Primulaceae) Shows Non-monophyly of Recognized Genera and Subgenera. Journal of Japanese Botany 96(3): 149–165.
- Phonpaseuth P., Souvannakhoummane K., Tagane S., Souladeh P., Yahara T. 2021. A new species of *Paraboea* and a new species record of *Middletonia* (Gesneriaceae) from a limestone karst of Central Laos. Thai Forest Bulletin, Botany 49: 135–141.
- Julius A., Tagane S., Kajita T., Jerani N.S.B., Mohamad M.B., Utteridge T.M.A. 2021. *Ardisia pyrotechnica* (Primulaceae-Myrsinoideae), a new species from Borneo. Phytotaxa 507: 205–210.
- Tagane S., Souladeh P., Kongxaysavath D., Rueangreua S., Suddee S., Suyama Y., Suzuki E., Yahara T. 2021. Two new species and 18 new records for the flora of Lao. Thai Forest Bulletin, Botany 49(1): 111–126.
- Souladeh P., Tagane S., Suddee S., Kongxaysavath, D., Rueangreua, S. 2021. *Sonerila bolavenensis*, a new species of Melastomataceae from Laos. Thai Forest Bulletin, Botany 49(1): 106–110. Article [accepted 26 April 2021, published 10 May 2021]
- Ogura-Tsujita Y., Tetsuka K., Tagane S., Kubota M., Anan S., Yamashita Y., Tone K., Yukawa T. 2021. Differing life-history strategies of two mycoheterotrophic orchid species associated with leaf litter- and wood-decaying fungi. Diversity 2021, 13(4): 161.
- Souladeh P., Tagane S., Suyama Y., Ishii N., Nagahama, A., Souvannakhoummane K. 2021. *Impatiens subfalcata* (Balsaminaceae), a new species from Laos. Edinburgh Journal of Botany 78: Article 358, 1–10.
- 2) 研究論文 (査読無)
- 山崎海都・伊藤嵩将・迫田光弘・柳原康希・田金秀一郎. 2022. 鹿児島県の外来植物Ⅻ：ブラジルハシカグサモドキ *Richardia brasiliensis* Gomes (Rubiaceae) を長島町で記録する. Nature of Kagoshima 48: 219–222.
- 川西基樹・田金秀一郎・大西亘. 2021. 鹿児島県の外来植物Ⅺ：ヒメミクリガヤツリ，ハイクサネム，ホウキムカキビ を奄美大島で確認. Nature of Kagoshima 48: 73–77.
- 宮本旬子・美延睦美・鈴木英治・田金秀一郎・池村茂. 2021. 鹿児島県の外来植物Ⅹ：アメリカネナシカズラ *Cuscuta campestris* Yunc. (ヒルガオ科) の徳之島における分布状況. 鹿児島植物研究会誌 11: 8–10.
- 伊藤嵩将・田金秀一郎・石貫泰三・鈴木英治. 2021. 鹿児島県の外来植物Ⅷ：キバナニワゼキショウ *Sisyrinchium exile* (アヤメ科). 鹿児島植物研究会誌 11: 4–5.
- 宮本旬子・美延睦美・寛山一郎・常加奈子・田金秀一郎. 2021. 鹿児島県の外来植物Ⅶ：メリケントキンソウ *Soliva sessilis* Ruiz.et Pav. (キク科) の徳之島における分布状況. 鹿児島植物研究会誌 11: 1–3.
- 3) 書籍
- 鈴木英治・丸野勝敏・田金秀一郎・久保紘史郎・大西亘. 2021. 鹿児島県の維管束植物分布図集－全県版－. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告 No. 17, 526 pp.
- 鈴木英治・丸野勝敏・田金秀一郎・久保紘史郎・大西亘. 2021. 鹿児島県の維管束植物分布図集－奄美群島版－. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告 No. 18, 252 pp.
- 4) 学会・シンポジウム等発表
- 永濱藍, 田金秀一郎, 陶山佳久, 北村俊平, 矢原徹一. 東南アジアの開花・結実フェノロジーの緯度勾配. 第69回日本生態学会大会. 2022年3月14–19日. 福岡+ Online. Oral.
- 野依航, 井鷲裕司, 田金秀一郎, 中村直人, 北島薫. マンリョウはどうやって侵略的外来種になったか? 集団遺伝学的解析からの新たな仮説. 第69回日本生態学会大会. 2021年3月14–19日. 福岡+ Online. Poster.
- 松葉史紗子, 深澤圭太, 石濱史子, 青木聡志, 赤坂宗光, 田金秀一郎, 小川みふゆ. 系統情報を活用した多種・広域でのレッドリスト維管束植物の個体数変動推定. 第69回日本生態学会大会. 2021年3月14–19日. 福岡+ Online. Poster.
- 石濱史子, Kim Jiyeon, 小出大, 赤坂宗光, 田金秀一郎, 小川みふゆ, 西廣淳. 太陽光発電導入促進が絶滅危惧植物に及ぼす影響の評価. 第69回日本生態学会大会. 2021年3月14–19日. 福岡+ Online. Poster.
- 新宅和憲, 布施静香, 田金秀一郎, 矢原徹一, Poopath Manop, Sirimongkol Sukontip, Yooprasert Sawita, Pooma Rachun, Yang Yong-Ping, Pu Fading, 田村実. ジャノヒゲ属 (クサスギカズラ科) の系統と分布変遷. 日本植物分類学会第21回大会. 2022年3月4–6日. Online. Oral.
- 佐藤広行, 布施健吾, 田金秀一郎, 廣田峻, 藤井伸二, 陶山佳久, 矢原徹一. 全国全種サンプリングと MIG-seq による日本の野生植物の分類学的再検討 トダシバ属を例に. 日本植物分類学会第21回大会. 2022年3月4–6日. Online. Oral.
- 田金秀一郎, Souladeh Pehlasy. ラオスの Bolaven 台地の植物多様性について. 日本植物分類学会第21回大会. 2022年3月4–6日. Online. Oral.
- 山崎海都, 田金秀一郎, Souladeh Pehlasy. ラオスの南部 Bolaven 台地のイセハナビ属の分類学的研究. 日本植物分類学会第21回大会. 2022年3月4–6日. Online. Oral.
- 秋廣高志, 白井匡人, 高野温子, 黒沢高秀, 井上雅仁, 田金秀一郎, 谷本朋也, 小金山透, 佐藤平行, 寺澤知彦, 堀江岳人, 萬代功. AI 画像認識技術を使って約 2200 種の植物の名前を高精度 (96%) に判定するシステムの開発. 日本植物分類学会第21回大会. 2022年3月4–6日. Online. Oral.
- 村上将希, 伊東拓朗, 浅川彬, 山田孝幸, 田金秀一郎, 藤井伸二, 松尾歩, 陶山佳久, 牧雅之. フシノハアワヅキ (広義) の隔離分布形成過程の検証. 日本植物分類学会第21回大会. 2022年3月4–6日. Online. Oral.
- 杉山由佳, 伊東拓朗, 柿嶋聡, 軒原開, 織田二郎, 田金秀一郎, 山城考, 藤井伸二, 牧雅之. ユキノシタ科ネコノメソウ属の分子系統解析を用いた分類学的再検討. 日本植物分類学会第21回大会. 2022年3月4–6日. Online. Poster.

石濱史子, Kim Ji Yoon, 小出大, 赤坂宗光, 田金秀一郎, 小川みふゆ, 西廣淳. 太陽光発電導入促進が絶滅危惧植物に及ぼす影響の評価. 第53回種生物学大会. 2021年12月3-5日. オンライン・東北. Poster.

(3) 外部資金

環境研究総合推進費「次世代DNAバーコードによる絶滅危惧植物の種同定技術の開発と分類学的改訂(4-2001)」(分担)
日本学術振興会 科研費基盤研究(C)「鹿児島県の植物相解明に向けた維管束植物標本のデータベース整備と活用」(代表)
日本学術振興会 科研費基盤研究(C)「次世代シーケンサー導入による植物相調査の迅速化～ベトナム中部高原地帯を事例として」(分担)
日本学術振興会 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「熱帯の植物多様性の総点検:生物学的概念に基づいてタイ産単子葉植物の種を捉え直す」(分担)
一般財団法人沖縄美ら島財団 共同研究「西表島植物誌編纂に係る植物標本データベースの作成」
長尾自然環境財団 研究者育成支援プログラム(CGF)「Floristic inventory and plant diversity assessment of Bolaven Plateau, southern Laos」(プロジェクトコーディネーター)
長尾自然環境財団 研究者育成支援プログラム(CGF)「Species diversity and conservation status assessment of the dye-yielding plants used by the indigenous people in Lam Dong Province, Vietnam」(プロジェクトコーディネーター)
鹿児島県三島村「令和3年度 三島村ジオパーク学術研究等奨励補助金」(代表)
公益財団法人かぎん文化財団「助成事業 文化施設部門」

(4) 社会貢献・学外活動

日本植物分類学会 標本問題対応委員会 委員
日本植物分類学会 普及推進委員会委員 委員
一般財団法人 沖縄美ら島財団 西表植物誌編纂事業 協力委員
鹿児島植物研究会 会誌編集委員
屋久島照葉樹林ネットワーク 会員
首都大学東京 客員研究員
Thai Forest Bulletin, Botany 編集委員

(5) 学内委員等

鹿児島大学理学部地球環境学科 非常勤講師
総合研究博物館 企画展「人吉標本レスキュー」 企画・担当
総合研究博物館 第3回バックヤードツアー「植物標本室」(サイエンスカフェかごしまと共同開催) 企画・担当
総合研究博物館 第21回自然観察ツアー「高隈山の植物」企画・担当(天候不順により中止)

(6) 主な調査研究(学会や会議は除く)

2022年3月18-27日 沖縄県:西表島
2022年2月23日 宮崎県:都城市(霧島山麓)
2021年12月12-18日 沖縄県:西表島
2021年12月2-4日 鹿児島県:大隅半島
2021年11月23-26日 鹿児島県:屋久島
2021年11月9-13日 鹿児島県:北薩、甕島列島
2021年10月31日 鹿児島県:野間岳
2021年10月22-26日 鹿児島県:黒島
2021年9月18日 鹿児島県:薩摩半島
2021年9月5日 鹿児島県:さつま町
2021年8月29日 鹿児島県:大隅半島
2021年8月22日 鹿児島県:金峰山
2021年8月9日 鹿児島県:大隅半島
2021年8月8日 鹿児島県:湧水町
2021年7月29日-8月3日 長崎県:平戸、多良岳、雲仙普賢岳、佐賀県:伊万里
2021年7月22日 鹿児島県:北薩
2021年7月10日 鹿児島県:稲尾岳
2021年6月30日-7月8日 鹿児島県:奄美大島
2021年6月4-6日 鹿児島県:黒島
2021年5月30日 鹿児島県:日置市鷹ノ子岳
2021年5月21日 鹿児島県:北薩鶴田ダム周辺
2021年5月9日 鹿児島県:高隈演習林
2021年4月22-26日 長崎県:西彼杵郡、多良岳、雲仙普賢岳、熊本県:阿蘇
2021年4月18日 鹿児島県:鹿児島市西ノ谷ダム
2020年4月12日 鹿児島県:薩摩半島(加世田、荒岳)

(7) 報道関係

植物標本レスキュー. NHK 鹿児島. 2021年5月18日
地域の植物相の解明をめざして. 鹿児島大学新聞. 2021年6月11日
大陸系植物 五島列島で確認. 長崎新聞. 2021年7月1日

10 2021 年度 ポスター



博物館資料を未来に継承していくために

企画展 **植物標本レスキュー**

2021 年 5/6 (木) ~ 29 (土)

令和2年7月豪雨により被災した入吉城歴史館の植物標本
当館が実施したレスキュー活動の取り組みについて紹介します

場所：鹿児島大学総合研究博物館 常設展示室2階（入館無料）
10:00 ~ 16:00 (12:00 ~ 13:00、および日・月曜日休館)
※新型コロナウイルス感染症対策にご協力下さい

鹿児島大学総合研究博物館
Tel 099-285-8141 WEBSITE <https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp>

鹿児島大学総合研究博物館 特別公開

パンダゲンロクダイ



海のパンダ!?

世界初公開!!

入館無料

鹿児島大学総合研究博物館 常設展示室2階
2021年 5月6日(木) ▶ 5月29日(土)
10:00 ▶ 16:30 (日・月曜日 休館)
☎: 099-285-7259 <https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp>

コロナウイルス
感染対策に
ご協力ください

鹿児島大学総合研究博物館 企画展

新聞と大正コンマールアート

未整理植物標本をはさんだ

2021.06.05 ~ 07.03 (日・月休館)

場所 鹿児島大学
総合研究博物館
常設展示室2F

10:00 ~ 16:30
(12:00 ~ 13:00 時間休館)

植物採集時に使用され、本来は標本作製後に捨てられるはずの新聞。館大には、大正～昭和前半の未整理植物標本とともに大量に残されていました。現在、整理作業継続中ですが、その重要性や面白さの一端を紹介したいと思います。

鹿児島大学総合研究博物館
099-285-8141
<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

コロナ対策にご協力下さい

特別公開

鹿児島島のピグミーシーホース



オオウミウマ 35センチ

2センチ

カクレタツノコ・ユリタツノコ

日本一小さいタツノオトシゴ

日本初展示

鹿児島大学総合研究博物館 常設展示室2階
2021年7月1日 ~ 31日 (日・月休館) 10:00 ~ 16:30
Tel: 099-285-7259 <https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

鹿児島大学総合研究博物館
第39回市民講座

鹿児島大学総合研究博物館では、2006～2008年に、鹿児島県曾根郡大崎町にある前方後円墳・神領10号墳の発掘調査を行いました。

この調査では古墳で行われた1500年前の祭りのあとが全国的に見ても屈指の良好な状態で見つかりました。長い時間がかかりましたが、今、その調査報告書をまとめることができましたので、あらためて調査成果を紹介を行います。

大隅大崎 神領10号墳と古墳のまつり
—5世紀の前方後円墳祭祀と須恵器・土師器—
講師：橋本達也
(鹿児島大学総合研究博物館 教授)

2021年8月7日(土) 13:30～14:30 (13:00から場内できます)
オンライン・Zoomにて開催
申し込み：下記URLもしくはQRコードからアクセス
<https://forms.gle/wyCbXe6QMAH8UqaS6>
フォームにアンケート入力・送信後に、Zoomの参加情報が表示されますのでメモを保存して下さい。

・メールアドレス等不要です。
・接続可能人数：300人まで(推奨値)。
・Zoomの使用法の案内・説明は当方では行いません。
・お一人ずつアンケートに答え、Zoom情報は転載しないようお願いいたします。

鹿児島大学総合研究博物館
099-285-8141 <https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

特別公開
世界初展示

ジョーフィッシュ ホシカゲアゴアマダイ

入場無料

小学校の理科教材にジョーフィッシュという名前で登場する有名な魚です。これまでに多くの水中写真が撮影されてきましたが、標本は得られていませんでした。当館に所蔵されている標本に基づき2018年にホシカゲアゴアマダイと命名されました。国内では本種の標本を有するのは当館のみ(出版データに基づく)で、6標本が所蔵されています。そのうちの1標本を世界で初めて公開します。

鹿児島大学総合研究博物館 常設展示室2階
2021年11月4日(日・月休館) 10:00～16:30
Tel: 099-285-7259 <https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

鹿児島大学総合研究博物館 2021年度イベント
自然体験ツアー&バックヤードツアー

1) 第21回自然体験ツアー
高隈山の植物
日時：2021年11月6日(土) 10:00～15:00
場所：鹿児島県鹿屋市高隈山御岳
※現地集合・解散
案内者：田金秀一郎(鹿児島大学総合博物館)
参加費：無料
持参物：飲み物、観察道具(ルーペなど)
※小雨決行、大雨の場合は中止
※ハイキングのできる服装でご参加ください
高隈山にはどんな植物が生えている？
往復約4kmの登山をしながら高隈山系の御岳に生育する植物を観察します(健脚の方)

2) 第3回バックヤードツアー(サイエンスカフェかごしま共催)
植物標本庫
日時：2021年12月25日(土) 10:00～12:00
場所：鹿児島大学総合研究博物館
共同利用棟2階
案内者：田金秀一郎(鹿児島大学総合博物館)
参加費：無料
持参物：基本的にありませんが、マスク着用等、コロナ対策にご協力をお願いします

植物標本庫はどんなところ？ 何のために存在するの？
書入れることのできない鹿児島大学総合研究博物館の植物標本室にて、「研究資料」としての植物標本の意義や、身近な植物の名前の調べ方、博物館での収蔵管理や利用について解説します

申込方法：次の事項をハガキ、FAX、またはemailに明記し、下記までお送りください。
個人情報はこの企画の目的以外には使用致しません。参加決定者には後日詳しいプログラムをお送りします。

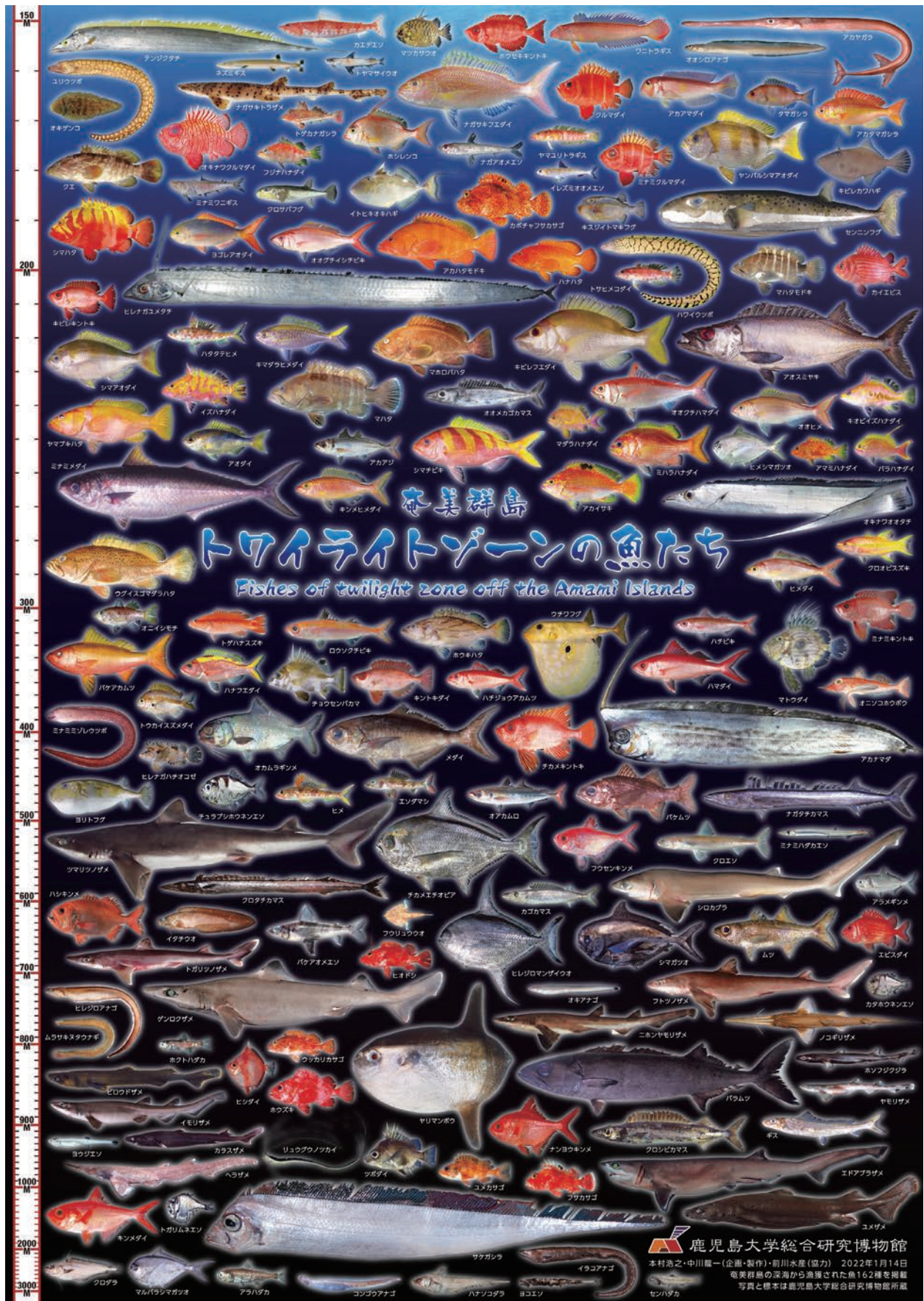
① 参加を希望するイベント名
② 参加希望者全員の氏名・年齢
③ 住所
④ 電話番号、FAXまたはemailアドレス

応募締切：1) 自然体験ツアー 2021年10月31日(日) 16:00必着
2) バックヤードツアー 2021年12月17日(金) 16:00必着

定員：各7名(どちらも希望者が定員を超えた場合は抽選となります)

応募先：鹿児島大学総合研究博物館
〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30
Tel: 099-285-8141 Fax: 099-285-7267 email: info@kaum.kagoshima-u.ac.jp

11 2021 年度 魚類ポスター



12 総合研究博物館の組織－2022 年度－

館 長 本村 浩之

研究部

資料研究系 橋本 達也 教授 考古学
 分析研究系 本村 浩之 教授 魚類分類学
 田金秀一郎 特任助教 植物分類学
 大西 佳子 助教 地球人間圏科学

事務補佐員 森田 公代

事務補佐員（常設展示室） 上村 文

技術補佐員 大西 聡子

技能補佐員 西原 茉莉

研究支援推進員 福元 しげ子

事務局 研究推進部研究協力課研究支援係

運営委員（総合研究博物館専任教員を除く）

法文学部 北村 浩一 教授 教育学部 日隈 正守 教授
 理学部 礼満 ハフィーズ 准教授 医学部 築瀬 誠 教授
 歯学部 比地岡 浩志 講師 工学部 石川 岳志 教授
 農学部 朴 炳宰 准教授 水産学部 中村 啓彦 教授
 共同獣医学部 小尾 岳士 准教授 理工学研究科 石川 岳志 教授
 医歯学総合研究科（歯学） 後藤 哲哉 教授

兼務教員（敬称略）

丹羽 謙治：法文教育学域法文系（法文学部）（日本近世文学・日本近世文化）
 渡辺 芳郎：法文教育学域法文系（法文学部）（考古学）
 石田 智子：法文教育学域法文系（法文学部）（考古学）
 小栗 有子：法文教育学域法文系（法文学部）（社会教育学・環境教育学）
 兼城 糸絵：法文教育学域法文系（法文学部）（文化人類学）
 小林 善仁：法文教育学域法文系（法文学部）（歴史地理学）
 松井 智彰：法文教育学域教育学系（教育学部）（鉱物学）
 川西 基博：法文教育学域教育学系（教育学部）（植物生態学）
 栗和田 隆：法文教育学域教育学系（教育学部）（動物生態学）
 河野 元治：理工学域理学系（理学部）（地球科学）
 上野 大輔：理工学域理学系（理学部）（水族寄生虫学、動物系統分類学）
 乙丸 孝之介：農水産獣医学域獣医学系（共同獣医学部）（臨床獣医学）
 中西 良孝：農水産獣医学域農学系（農学部）（畜産学）
 山本 雅史：農水産獣医学域農学系（農学部）（果樹園芸学）
 一谷 勝之：農水産獣医学域農学系（農学部）（植物育種学）
 鶴川 信：農水産獣医学域農学系（農学部）（森林生態学）
 坂巻 祥孝：農水産獣医学域農学系（農学部）（害虫学（昆虫学））
 大富 潤：農水産獣医学域水産学系（水産学部）（水産生物学）

佐久間 美明：農水産獣医学域水産学系（水産学部）（漁業管理学）
 寺田 竜太：農水産獣医学域水産学系（連合大学院農学研究科）（藻類学・水産植物学）
 西 隆一郎：農水産獣医学域水産学系（水産学部）（沿岸海洋学、海岸環境工学）
 山本 智子：農水産獣医学域水産学系（水産学部）（海洋生態学）
 河合 溪：総合科学域総合研究学系（国際島嶼研）（海洋生物学）
 高宮 広士：総合科学域総合研究学系（国際島嶼研）（先史人類学）
 大塚 靖：総合科学域総合研究学系（国際島嶼研）（衛生動物学）
 山本 宗立：総合科学域総合研究学系（国際島嶼研）（熱帯農学・民族植物学）
 川端 訓代：総合科学域総合教育学系（共通教育センター）（地球科学（地質学・地球化学）・統計教育）
 藤田 志歩：総合科学域総合教育学系（共通教育センター）（霊長類学・生態学・行動学）

学外協力研究者（敬称略）

石畑 清武：鹿児島大学名誉教授（熱帯園芸学）
 上野 浩子：公益財団法人かごしま環境未来財団嘱託員（魚類寄生虫学）
 大木 公彦：鹿児島大学名誉教授（第四紀層位学・微古生物学（底生有孔虫）、海洋質学）
 鹿野 和彦：産業技術総合研究所地質調査総合センター客員研究員（地質学）
 木下 紀正：鹿児島大学名誉教授（環境物理学、素粒子・原子核物理学）
 坂元 隼雄：鹿児島大学名誉教授（地球化学、分析化学、環境化学）
 櫻井 真：鹿児島純心女子短期大学生活学科教授（動物形態学、鹿児島県内野生生物の生態・分布調査、野生動物保存生態学）
 塚原 潤三：鹿児島大学名誉教授（発生生物学）
 土田 充義：鹿児島大学名誉教授・NPO 法人文化財保存工学研究室理事長（日本建築史）
 中村 潤平：公益財団法人鹿児島水族館公社職員ハタ科魚類の分類および生物地理学的研究、鹿児島県の魚類相
 福田 晴夫：環境省希少野生動植物種保存推進員（生物学、昆虫生態学）
 藤井 琢磨：公益財団法人鹿児島水族館公社職員動物分類、サンゴ礁生物多様性、進化系統、生物地理
 丸野 勝敏：（マメ科ハギ属とカヤツリグサ科スゲ属植物の分類）
 山下 智：鹿児島大学名誉教授（魚類・両生類・ほ乳類の味覚神経情報の比較生理学）
 山根 正氣：鹿児島大学名誉教授（有剣ハチ類・アリ類の分類学および生物地理学）
 湯川 淳一：鹿児島大学名誉教授・九州大学名誉教授（タマバエ類の分類学的及び生態学的研究）

専門部会

委員長 山本 智子（水産）
 委員 石田 智子（法文） 鶴川 信（農） 栗和田 隆（教育）
 寺田 竜太（連大） 大塚 靖（島嶼研）
 総合研究博物館専任教員 4 名

13 2022 年度の企画事業

1. 市民講座

第 40 回市民講座「江戸後期薩摩藩の学問と学者たちの交流―増田直治をめぐって―」

2022 年 12 月 17 日、13:30～15:00 に永山修一氏（ラ・サール学園、鹿児島大学非常勤講師）を講師として、オンラインによる市民講座を開催した。参加無料。

COVID-19 の拡大以降、対面で多くの人を集めた講座は実施できなくなったため前年度に続いて市民講座はオンラインで実施した。

内容は、永山氏の仲介によって 2022 年度、総合研究博物館に寄贈された増田直治墓誌にかかわる江戸後期の薩摩の学問・学者たちに関する紹介である。なお、永山修一氏の本来の専門は古代史であるが、増田直治を調べるきっかけは、寛政元年（1789）に宮崎県国富町で発見された 5 世紀の地下式横穴墓出土品の研究である。この出土品は島津重豪に献上され、直治は重豪から修理を依頼されている。さらにその後、出土品は江戸に送られ学者達の目に触れ、各種の記録も残された。増田直治の人物像とともに、この辺のいきさつについても詳しい解説が行われた。

開催に当たっては Google フォームを利用し、事前に申し込みを受け付けたところ、京都から沖縄九州各地までの 37 名の申し込みがあった。講演は Zoom を利用し、円滑に実施することができた。

一方、WEB 対応がハードルになっている参加希望者層がある程度存在する可能性があることにも、今後の活動に当たっては注意、検討が必要であろう。



第 40 回 市民講座

2. 公開講座

第 22 回自然体験ツアー「冠岳の植物」

2022 年 10 月 22 日（土）9:00～12:00。いちき串木野市と薩摩川内市の境界に位置する冠岳（標高 516 m）でみられる植物を観察するイベントとして開催した。新型コロナウイルスの感染状況を見極めつつ、少人数限定で実施した。20 代から 70 代の計 5 名の参加者があり、約 4 km のコースを散策しながら植物の観察を行った。98 種類の植物を観察することができ、植物談義はもちろん、林縁や林床、そして鎖場のある岩場のコースもあり、鹿児島の自然環境を大いに体験できたと好評であった。

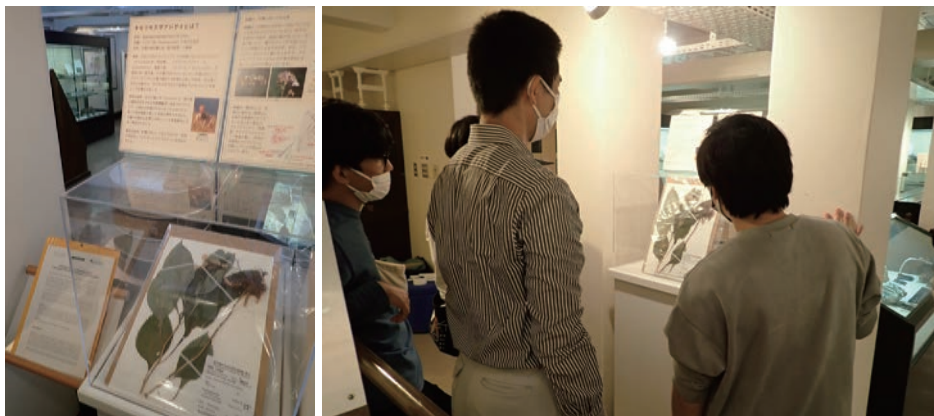


第 22 回 自然体験ツアー

3. 展示

(1) 特別公開「キモツククサアジサイ」

2022年10月20日-11月30日、鹿児島大学総合研究博物館常設展示室にて。2022年10月に、当館の田金らが大隅半島の肝属山地にのみ生育するクサアジサイの仲間を、新種『キモツククサアジサイ』として記載した。その標本を特別に公開し、特徴について解説した。

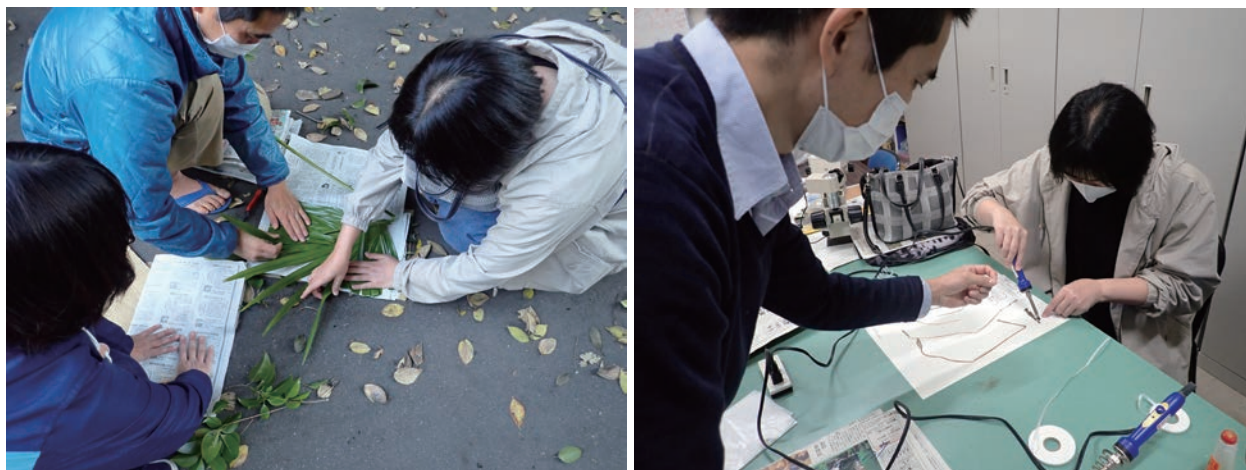


特別公開「キモツククサアジサイ」

4. その他の活動

(1) 第4回 バックヤードツアー 植物標本庫

2022年12月10日(土) 10:00～12:00、総合研究博物館植物標本室にて。コロナ禍もあって参加者は1名だけであったが、植物標本の作成を体得してもらいつつ、博物館における植物標本資料の意義やその利用、および収蔵庫における管理等の解説を行った。



第4回 バックヤードツアー 植物標本庫

5. 共催・後援事業

(1) エデュパーク・サイエンスキャンプ 2022 in 種子島 & 桜島

2022年7月26日に、広島県の小学1～6年生40名が「サイエンスキャンプ 2022 in 種子島 & 桜島」の一環として、総合研究博物館魚類標本庫を訪問した。3班に分けて共同利用棟1Fの魚類標本庫を案内し、同棟屋外では大型標本を触れて魚の形態を学ぶ講座を開催した。総合研



エデュパーク・サイエンスキャンプ 2022 in 種子島 & 桜島

究博物館訪問後、サイエンスキャンプの参加者たちは種子島に渡り、総合研究博物館で研究している大学院生の指導のもとダイビングやシュノーケリングを体験した。

(2) モニタリングワークショップ「モニタリング調査に参加してみませんか」

主催：鹿児島大学鹿児島環境学研究会、共催：環境省奄美群島国立公園管理事務所、後援：奄美市、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター、鹿児島大学総合研究博物館

2022年10月23日（日）9:00～15:30、奄美市役所住用総合支庁および三太郎峠にて。奄美大島は2021年に世界自然遺産に登録された一方で、外来植物の侵入が地域固有の生態系を脅かす問題となっている。地域住民の関心を高め、市民参加型の外来植物のモニタリング体制の構築を目的として、外来植物の観察とその分布情報収集に関する講習会（午前）と現地エクスカージョン（午後）を行った。当館からは田金が参加し、現地エクスカージョンで外来植物の解説などサポートを行った。

(3) モニタリングワークショップ「地域の目が捉える外来植物の侵入」

主催：鹿児島大学鹿児島環境学研究会、共催：環境省奄美群島国立公園管理事務所、後援：奄美市、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター、鹿児島大学総合研究博物館

2023年2月4日（土）13:00～16:00、奄美市市民交流センター（大多目的室）にて。横田昌嗣（琉球大学名誉教授）、山本武能（琉球大学熱帯生物圏研究センター）、政武文・美延睦美（NPO法人徳之島虹の会）、鈴木英治（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）の4名を講師として、奄美大島と同じく世界遺産地域として登録された沖縄島・西表島・徳之島に関する外来植物の侵入状況やその防除の取り組みについての紹介、および上述のワークショップ以降に奄美大島の市民が取得した外来植物の種類や位置情報についての報告が行われた。聴衆者の関心も高く、総合討論では時間もやや延長して積極的な意見交換や議論が交わされた。

(4) 企画展「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島 世界自然遺産展」

主催：一般財団法人沖縄美ら島財団、世界自然遺産推進共同企業体、共催：国立科学博物館、琉球大学博物館（風樹館）、沖縄県立博物館・美術館、鹿児島大学総合研究博物館、鹿児島県教育委員会、奄美市立奄美博物館ほか

2023年3月4日（土）～3月19日（日）沖縄県立博物館・美術館 県民ギャラリー1・2・3にて。世界自然遺産に登録された奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島について、その登録に至った経緯や保有する生物の多様性について、写真、剥製標本、パネルなどを用いて解説が行われた。当館からは「まだまだ見つかる絶滅危惧種！」という企画のうちホソバナキミズの展示について特に協力を行った。展示では世界自然遺産を守るための活動として、世界自然遺産沖縄基金や国立自然史博物館設立に向けた取り組み、企業による自然保護活動などについても紹介があった。

14 常設展示室

1. 入館者数

常設展示室 月別入館者数 2022 年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
総入館者数	94	57	107	105	92	68	110	168	98	88	93	184	1264
団体	0	11	18	0	0	30	12	74	0	13	0	13	171
一般	94	46	89	105	92	38	98	94	98	75	93	171	1093
開館日数	20	17	22	22	19	19	19	19	15	20	16	22	230

曜日別入館者数 2022 年度

	火	火	水	水	木	木	金	金	土	土	日	日	月	月	合計		
	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	総計
4 月	0	12	0	16	0	13	0	19	0	30	0	0	0	4	0	94	94
5 月	0	5	11	9	0	4	0	14	0	14	0	0	0	0	11	46	57
6 月	0	14	18	21	0	16	0	29	0	9	0	0	0	0	18	89	107
7 月	0	15	0	22	0	24	0	30	0	14	0	0	0	0	0	105	105
8 月	0	26	0	11	0	9	0	3	0	41	0	0	0	2	0	92	92
9 月	30	4	0	8	0	2	0	24	0	0	0	0	0	0	30	38	68
10 月	12	13	0	29	0	32	0	22	0	2	0	0	0	0	12	98	110
11 月	0	24	0	14	0	15	40	21	34	20	0	0	0	0	74	94	168
12 月	0	15	0	12	0	18	0	25	0	24	0	0	0	4	0	98	98
1 月	13	6	0	12	0	28	0	12	0	0	0	0	0	17	13	75	88
2 月	0	22	0	28	0	23	0	16	0	4	0	0	0	0	0	93	93
3 月	0	12	0	28	13	34	0	42	0	55	0	0	0	0	13	171	184
合計	55	168	29	210	13	218	40	257	34	213	0	0	0	27	171	1093	1264
	223		239		231		297		247		0		27		1264		

今年度の総入館者数は 1264 名で、昨年度に比べ 378 名増加している。団体が 59 名、一般が 319 名の増加だった。年間の開館日数は 230 日で、新型コロナウイルス感染症対策としての臨時休館はなく、12 月に展示ケース内の電気設備交換のため 5 日間休館した。

2. 利用・活用状況

今年度の団体利用は以下のとおりである。

大学関係

- ・農学部 理科教材研究法Ⅱ
- ・中高・大学連携講座（玉龍中・高／鹿児島大学農学部）
- ・台湾国立中央大学（学生・教員／鹿児島大学グローバルセンター PSEG プログラム海外研修）

学外

- ・志布志高校 P T A ・玉龍中学校 P T A ・串木野高校 P T A
- ・鴨池校区コミュニティ協議会 親子見学会
- ・三田国際学園高校研修旅行（一般社団法人 Glocal Academy 主催）
- ・ソウル大学人文大学最高位課程

取材

MBC 南日本放送取材：12 月 7 日放送「てげてげ」マニアックミュージアム探訪コーナー

3. 室内環境

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1階ケース温度(℃)	19.4	22.7	26.3	27.9	28.2	26.2	24.2	18.9	15.8	19.3	18.8	18.4	22.2
1階ケース湿度(%)	66.8	71.7	79.1	68.0	64.9	68.0	65.6	66.0	50.8	37.8	37.6	51.3	60.6
2階ケース温度(℃)	19.4	23.1	22.5	25.5	25.7	25.6	23.3	18.5	16.7	19.0	19.2	18.9	21.4
2階ケース湿度(%)	65.8	71.2	64.3	62.7	67.0	67.0	65.3	65.2	55.5	46.1	47.4	54.9	61.0

4. 常設展示室アンケート

アンケート集計結果

1) 性別

男 84名 女 70名 無回答 3名 合計 157名

2) 年齢

小学生以下 5名 中学生 5名 高校生 13名 大学生・大学院生 45名
 上記以外の10代 0名 20歳代 9名 30歳代 10名 40歳代 24名
 50歳代 26名 60歳代 14名 70歳以上 5名 無回答 1名

3) 居住地

鹿児島市内 44名 鹿児島県内 21名 鹿児島県外 45名
 大学関係者(学生・教職員) 47名 無回答 0名

4) 常設展示室を知った理由

立て看板 51名 ホームページ 22名 ポスター 3名
 授業・講座等 27名 人にすすめられて 22名 その他 32名 無回答 0名

5) 感想

大変よい 73名 よい 77名 どちらともいえない 5名
 つまらない 0名 大変つまらない 0名 無回答 2名

6) 感想・意見・要望等

アンケート 157件中 126件に自由記述欄の記入があった。

内容を見てみると全般的な感想としては、「須恵器や火山灰、堆積した地層など、社会や理科の授業で習ったものがたくさんあった。見学したことを思い出して受験勉強にも活かしたい(市内・中学生)」「鹿児島という土地の特徴がとても分かりやすく展示されており感銘を受けた(東京都・50代)」「創立当時の写真や、構内から出土した資料、鉱物の展示・説明などが興味深かった。見学してあらためて大学に親しみが感じられた(学内・教職員)」などがあった。

展示内容については、「鹿大構内から出土した多くの遺物が展示されており、昔からこの周辺で人が生活していたという実感がわいた(鹿大生)」「玄武岩・安山岩・流紋岩など地学の教科書で見えるものを実際に目にすることができ、有意義な時間を過ごせた。解説は、高校生の私でも十分わかりやすくとてもよかった(鹿屋市・高校生)」「高等農林学校時代の動物学講義で使用された生物の発生模型が興味深かった。昔実際に使われていた教材など、大学内の資料が大切に保管されているのがわかってよかった(鹿大生)」「5歳の孫はウシの骨や魚・貝・カニの化石に興味津々で、私は昔教養で生物学を教えてもらった恩師の名前を展示パネルに見つけて懐かしかった(市内・60代)」「通りがかりにキモツクサアジサイ特別公開のポスターを見て、特に知識もなく入ったが、どういう意味で重要な標本なのかまでわかりやすく解説されていてよかった(鹿大生)」

その他に意見・要望として、「魚類・植物標本などの生物展示をもっと見てみたい」「シラスブロックについてもう少し説明がほしかった」「鹿大の卒業生で、子供の受験の付き添いで卒業後初めて大学を訪れた。建物に見覚えがあり懐かしかった。大学構内がどう変遷してきたのかがわかるように、

2～30年前の学内図や写真などの展示もあるとうれしい」「鹿児島大学の公式ホームページから博物館のホームページを探したがわかりにくかった。博物館のホームページのデザインも見づかった」などがあった。

5. 常設展示室 展示品目録－2022年度－（2021年度からの変更点）

展示追加

・特別公開 キモツキクサアジサイ（10/20～11/30）

展示終了

なし

6. 常設展示室の課題

今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度までと同様に、来館者に対しては検温・消毒・マスク着用などの協力を要請し、施設内の清掃・消毒および換気の徹底、入館人数の制限などの対策を講じたうえで、230日間の通常開館を行った。

年間の入館者数は1264名で、昨年度からは378名増加し、コロナ禍前の2019年度以前と比べるとおよそ6割から7割の入館者があった。一般の入館者は319名増加し、団体の入館者はとくに学外からの利用が増えて59名増加した。

一昨年から、九州・沖縄・山口にある美術館・博物館などの文化施設（2022年度は188施設）が参加する「ミュージアム周遊パス」や、「桜島・錦江湾ジオパークスタンプラリー」といった自治体等が主催する誘客促進事業に対象施設として参加している。来館者からは、「観光案内所でもらったミュージアム周遊パスの冊子を見て、大学の博物館がどんどこなのか興味がわいて来てみた」「スタンプラリーをやっていなければ来館の機会はなかったと思うが、桜島のことなどよくわかって、来てみてよかった。もう少し一般の人にアピールしてもよいと思う」といった声が寄せられている。これまであまり関心がもたれていなかったり、情報が届いていなかったような利用者に対する認知度を上げ、来館者増につながる取り組みとして効果が期待できる。

新型コロナ感染症対策について 常設展示室においては昨年度同様の感染対策を行い、感染拡大防止のための臨時休館は実施しなかった。

アシジロヒラフシアリの侵入防除対策について 昨年度年報にて報告の通り、近年常設展示室ではアシジロヒラフシアリの大発生による被害が深刻になってきている。防除については従来、市販の置き型駆除剤を用いてきたが効果が薄く、夏場は展示室内に大量に侵入したアリを駆除するため、1時間ほど閉館することもしばしばだった。



図1. アシジロヒラフシアリの侵入状況

今年度は、アシジロヒラフシアリの防除策として、東京都立大学研究チームが開発し、八丈島における散布試験で効果が確認されたハイドロジェルベイト剤を試験的に導入した。ベイト剤は7月～10月にかけて、当館敷地内および展示室内のアリが頻繁に発生する箇所に設置し、定期的に個体数のカウントを行い、発生・侵入・駆除の箇所や回数について記録した。ベイト剤は従来の置き型駆除剤に比べて誘引性が高く、大量発生・侵入による殺虫スプレー等を使用した駆除の回数も減少し、設置による防除の効果は高いと考えられる。



図 2. ハイドロジェルベイト剤設置
(室内)



図 3. ハイドロジェルベイト剤設置
(屋外)



図 4. アリ個体数調査

2022.06.24 外来家屋害虫アシジロヒラフシアリに対するハイドロジェルベイト剤の新規開発と住民参加型防除プログラムの効果の評価について（東京都立大学大学院 理学研究科 生命科学専攻 江口 克之 准教授）
<https://www.tmu.ac.jp/news/topics/34709.html>

設備について 公益財団法人かぎん文化財団からの 2022 年度事業助成（文化施設部門）において展示環境整備に関する助成を得た。これによって展示ケース内の照明をすべて高演色 LED（博物館・美術館用）に交換した。

これによって、展示ケース内が明るく、自然な色合いでムラなく見やすくなった。また資料への光・熱による劣化を抑制。長期安定的な維持が可能となった。

工事のため 12 月 20 日～ 24 日までの 5 日間を臨時休館とした。



展示ケース内 LED ライト交換状況

15 教育活動

1. 博物館実習・博物館学関連講義

博物館実習 総合研究博物館では、博物館実習の学内実習を分担で担当している。実習受講登録学生は法文学部12名、教育学部8名、理学部6名、水産学部4名、計30名であった。

本村は4月23日教育学部・理学部、5月21日法文学部・水産学部を担当し、博物館標本作成室で魚類の液浸標本の作製、登録、撮影作業を行い、およそ200点の標本を新規登録した（本村）。

田金は5月7日教育学部・理学部、14日法文学部・水産学部を担当し、植物標本室にて植物のさく葉標本の作成・データベース化（台紙への貼り付け、ラベル情報の入力、標本のスキャンによるデジタル画像化）を行い、68点のラベル情報をデータベースに登録した（田金）。

橋本は5月7日法文学部・水産学部、14日教育学部・理学部を担当し、博物館に関わる全分野において基本技術である写真に関する実習を行った。まずは、カメラ・写真に関する基礎知識について説明を行い、理解を深めた後に撮影台の設営から、考古資料の撮影まで行った。全員が一眼レフカメラで撮影するまでを行っている。またあわせて、近年急速に進展しているフォトグラメトリによる3Dデータ作成の解説を行い、そのための資料撮影を行った。また日誌作成中に解析を進め、実習終了時にプロジェクターで確認を行った。（橋本）。

博物館学関連講義 学芸員資格取得のための講義は、資格の取得可能な法文学部・教育学部・理学部・水産学部が受講する科目として共通教育において開講されているが、総合研究博物館の教員も分担して担当している。橋本は、博物館教育論・博物館展示論の責任教員として担当、各2名の非常勤講師の調整を行いつつ講義を実施している。本村・田金は、博物館資料論を分担で実施している（橋本）。



魚類標本作製実習



植物標本作製実習



考古資料撮影実習作品

16 出版・広報

2028 年度の出版物は下記のとおりである。

ニューズレター 総合研究博物館にかかわる情報を掲載した通常号を 1 冊刊行した。ニューズレター No.48 は、総合研究博物館スタッフおよび大学院生の研究紹介からなる 3 件の記事を掲載した。著者とタイトルは下記のとおりである。全 16 ページ。

身近な未知を解き明かす「ヤビーポンプ」 是枝 伶旺

鹿児島県植物分布図集を出版しました 田金秀一郎

ペンとノートのある風景—『鹿児島高等農林学校 文書資料目録 2』収載資料より— 上村 文
その他出版物 総合研究博物館関連出版物として下記の 1 冊を刊行した。

研究報告 No.19 『大隅大崎 神領 10 号墳の研究』橋本達也ほか 2023.03

年報 毎年 1 冊、前年度分の年報を刊行しているが、2021 年度は COVID-19 のため企画事業等が少なかったため、2022 年度と合冊にすることとしたため刊行しなかった。

Ichthy, Natural History of Fishes of Japan 魚類学の基礎的知見の蓄積を目的とし、日本産魚類の分類や分布、生態などの自然史に関するあらゆる分野の論文を和文で掲載する、2020 年 10 月に創刊した査読付きオンラインジャーナル。総合研究博物館が発行。2022 年度は 91 論文が出版された。論文は当館 HP (<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>) や J-Stage (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/ichthy/list/-char/ja>) で公開されている。



2022 年度研究報告

されている。

ポスター・チラシ COVID-19 のため、特別展を実施していないので広く広報するための印刷チラシの作成は行わなかった。企画展示などのチラシは担当教員が作成し、プリンターでプリントして掲示、配布した。

その他広報 ホームページ、ブログ、Twitter を継続的に更新している。ホームページは橋本、ブログは上村、Twitter は教員 3 人（橋本・本村・田金）で担当している。

17 ボランティア活動

植物標本の登録・データベース化 植物標本室では、本学の学生 4 名が毎週水曜日の午後に博物館ボランティア活動として、未整理標本のデータベース登録や台紙への貼り付け、収蔵室への配架作業を行った。また、学外の 1 名にはマウント作業（標本貼り）を中心に標本整理にご協力いただいた。

魚類標本の作製・登録・データベース化 総合研究博物館では 2006 年度から魚類標本の受け入れおよび標本の作製を積極的に行っている。ボランティアは本学学生、一般市民、漁業従事者、水族館職員など多彩な構成である。ボランティアの活動は、大きく分けると魚類の採集、学習会、標本の作製と保存、および教育普及活動の 4 つの要素から成る（詳しくは『総合研究博物館ニューズレター No. 16』と総合研究博物館出版『魚類標本の作製と管理マニュアル』を参照）。本年度は本学水産学部と鹿児島県環境技術協会から移管された標本と鹿児島県産の標本を中心に約 10,000 標本の登録を行い、標本データのデータベースと、約 30,000 件の画像データベースを作成した。

18 国際交流

魚類分野ではインドネシア・ハッサヌディン大学の教授2名を2022年10月1日から12月10日まで約2か月間、受け入れて共同研究を実施した。また、フィリピン大学ビサヤス校の大学院生を2022年12月12日から6か月間受け入れ、修士論文研究の指導を行った。台湾国立海洋生物博物館、マレーシア・トレンガヌ大学、マレーシア・サインズ大学、フィリピン大学、スミソニアン自然史博物館、オーストラリア・ノーザンテリトリー博物館などと共同研究を実施し、10論文を出版した。2022年9月に南アフリカ共和国から出版された3000頁の大著『西インド洋の魚類（5巻セット）』の分担執筆に参画した。

植物分野ではラオス国立大学、ベトナム科学技術アカデミー生態学生物資源研究所、ベトナム国立大学ホーチミン校、ベトナム森林総合研究所、ダラット大学、タイ王立森林局、サラワク森林局、レディング大学、キュー植物園、アンタナナリボ大学の研究者と共同研究を実施し、東南アジアの植物に関する11本の論文を出版し、国際会議で1件の発表を行った。また、サントゥボン国立公園（マレーシア）、アンカラファンツィカンツィカ国立公園（マダガスカル）、コンカーキン国立公園・コンチュラン自然保護区・ビドゥップヌイバ国立公園（いずれもベトナム）にて野外調査を行い、現地の研究者と交流を図った。

19 標本管理活動

1. 植物標本室

植物標本のデータベース化 植物標本室では収蔵する植物標本の全容把握、および管理・利便性向上のため、植物標本のデータベース化を2003年から継続して実施している。2022年度も継続し、鈴木英治氏（前館長、現国際島嶼教育研究センター）、および一般財団法人沖縄美ら島財団との共同研究「西表植物誌編纂事業のためのデータベース」と科研費「鹿児島県の植物相解明に向けた維管束植物標本のデータベース整備と活用」の遂行に伴って雇用した技術補佐員1名（西原茉莉氏）と

2022年度の植物標本の利用状況

利用年月	貸し出し・利用者の所属先	分類群	点数	利用目的
2022年4月	徳島県立博物館	Poaceae	2	研究
2022年6月	東北大学	Fagaceae, Juniperus, Morus, Pleioblastus	200	研究
2023年6月	神戸大学	Gentiana	3	研究
2023年7月	大阪公立大学	Clinopodium, Eupatorium, Hypericum ほか	70	研究
2023年7月	沖縄美ら島財団	Gentiana	44	研究
2023年8月	京都大学	Viola	15	研究
2023年8月	大阪公立大学	Phryma	7	研究
2022年9月	東京大学	Plagiogyria	9	研究
2022年10月	国立科学博物館	Annonaceae	16	研究
2022年11月	大阪市立自然史博物館	Lindsaea	2	研究
2022年11月	東京都立大学	Microlepia	3	研究
2022年10月	桜美林大学	Poa	240	研究
2022年12月	Royal Botanic Gardens, Kew	Asarum	20	見学
2023年1月	東北大学	Cyperus	20	研究
2023年1月	神戸大学	Epipactis	1	研究
2023年2月	摂南大学	Sparganium	80	研究
2023年2月	大阪公立大学	Elatostema, Hydrangea, Lophatherum ほか	40	研究
通年	日本シダの会	シダ類	21000	図鑑執筆資料

共に、標本整理・データベース化作業を進めた。

2022年度は15,935点の植物標本をKAGデータベースに登録した。登録した標本情報は植物標本室のウェブサイト (<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/hyohonsitu.html>) および島根大学生物資源科学部デジタル標本館 (<http://tayousei.life.shimane-u.ac.jp/harbarium/>) にて公開を行っている。また、これらの標本情報のうち7,000件をサイエンスミュージアムネット (S-Net <http://science-net.kahaku.go.jp>) に提供し、公開を進めた。

今年度からの新しい試みとして、世界規模での植物標本館ネットワークであるJSTOR Global Plants (<https://plants.jstor.org/>) に参画する。これは当館が所蔵する植物のタイプ標本をデジタル化し、そのラベル情報や画像をJSTOR Global Plantsに提供して広く公開することで、より国際的な学術研究の推進に貢献し、標本資料や標本室の付加価値を高めることに繋がるものである。本年度はJSTOR Global Plantsとのパートナー契約の手続きを完了させ、次年度から実際のデータ提供を実施していく。

学外研究者等による研究活動 学外研究者の丸野勝敏氏は、2021年度に引き続き、ご自身が採集された植物標本約2万点を整理するため、標本室に来館し、標本ラベル作成などの作業に従事された。福元しげ子氏にはマウント作業（標本貼り）を中心に標本整理にご協力いただいた。

新規植物標本の受け入れ・寄贈状況 2022年度は田金が鹿児島県内を中心とする野外調査を通して678点の植物標本をDNA解析用試料と共に収集し、これらをKAGデータベースに登録した。学外の方から次の点数の標本を寄贈標本として賜った：井上康彦氏（377点）、鍋木紘一氏（272点）、中西弘樹氏（176点）、藤井伸二氏（94点）、上本裕子氏（31点 + α ）、久保紘四郎（4点）、渡邊将人氏（1点）。加えて、埼玉県在住の有馬氏、および鹿児島大学理学部を卒業した山崎海都氏からも、それぞれ数百点のご寄贈いただき、現在整理・登録作業を進めている。

大西佳子氏からはイヌカタヒバの植物体をご恵与いただき、標本にして収蔵した。

植物標本の利用状況 植物標本資料と写真や遺伝子解析用のサンプルなどのそれに付随する資料の活用状況を以下の表に記す。インターネット上で公開しているKAGデータベースには昨年の1588件を大きく上回る3022件の閲覧者があった。オンラインで標本画像を公開していることにより、当館の直接的な利用者（訪問者）は少なくなり、それを上回る海外を含む多くの方に広く利用されている傾向が窺える。直接的な閲覧利用者の減少は、長期的な視点でみると、植物標本を破損から守ることができ、利点がある。

2. 動物標本の利用状況

2022年度の総合研究博物館所蔵動物標本・資料の利用状況を報告する（学内での利用数は膨大であるため除く）。

2022年度の動物標本の利用状況

貸出・利用年月	分類群	標本・資料	点数	貸出・利用先	目的
2022年4月	魚類	液浸標本	1	高知大学	研究
2022年4月	魚類	標本画像	375	北九州市立自然史・歴史博物館	研究
2022年4月	腸鰓類	液浸標本	2	東京都	研究
2022年4月	魚類	液浸標本	2	北九州市立自然史・歴史博物館	研究
2022年4月	魚類	筋肉組織	2	北九州市立自然史・歴史博物館	研究
2022年4月	魚類	液浸標本	2	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2022年4月	魚類	標本画像	8	日本テレビ	番組
2022年5月	魚類	液浸標本	7	CSIRO Marine and Atmospheric Research, Australia	研究
2022年5月	魚類	筋肉組織	17	千葉県立中央博物館	研究
2022年5月	魚類	液浸標本	120	国立科学博物館	研究
2022年5月	魚類	筋肉組織	157	国立科学博物館	研究

2022 年 5 月	魚類	標本画像	255	北九州市立自然史・歴史博物館	研究
2022 年 5 月	魚類	筋肉組織	2	広島大学	研究
2022 年 5 月	魚類	標本画像	2	共同通信	新聞
2022 年 5 月	魚類	標本画像	3	南海日日新聞	新聞
2022 年 5 月	魚類	標本画像	48	名古屋市立大学	研究
2022 年 5 月	魚類	筋肉組織	2	三重大学	研究
2022 年 5 月	魚類	液浸標本	12	三重大学	研究
2022 年 6 月	魚類	筋肉組織	2	名古屋市立大学	研究
2022 年 6 月	魚類	液浸標本	5	名古屋市立大学	研究
2022 年 6 月	魚類	標本画像	88	学研プラス	図鑑
2022 年 6 月	魚類	標本画像	4	南日本新聞	新聞
2022 年 6 月	魚類	液浸標本	23	名古屋市立大学	研究
2022 年 6 月	魚類	筋肉組織	2	名古屋市立大学	研究
2022 年 6 月	魚類	標本画像	77	海響館	研究
2022 年 6 月	魚類	標本画像	27	Marine Wildlife Watch, Philippines	図鑑
2022 年 6 月	魚類	液浸標本	23	海響館	研究
2022 年 6 月	魚類	液浸標本	38	北海道大学総合博物館	研究
2022 年 6 月	魚類	標本画像	4	NHK 鹿児島	番組
2022 年 6 月	魚類	筋肉組織	5	千葉県立中央博物館	研究
2022 年 6 月	魚類	標本画像	1	Welt der fische, Germany	Web
2022 年 7 月	魚類	標本画像	7	琉球大学	研究
2022 年 7 月	魚類	液浸標本	9	国立科学博物館	研究
2022 年 7 月	魚類	標本画像	71	京都大学	研究
2022 年 7 月	魚類	標本画像	3	かごしま水族館	展示
2022 年 7 月	魚類	液浸標本	2	宮崎大学	研究
2022 年 7 月	魚類	標本画像	2191	宮崎大学	研究
2022 年 7 月	魚類	筋肉組織	3	宮崎大学	研究
2022 年 7 月	魚類	標本画像	2	MRT 宮崎放送	番組
2022 年 8 月	魚類	液浸標本	4	国立科学博物館	研究
2022 年 8 月	魚類	標本画像	2	日本テレビ	番組
2022 年 8 月	魚類	液浸標本	48	京都大学	研究
2022 年 8 月	魚類	筋肉組織	32	京都大学	研究
2022 年 8 月	魚類	筋肉組織	2	近畿大学	研究
2022 年 8 月	魚類	筋肉組織	19	宮崎大学	研究
2022 年 8 月	魚類	液浸標本	20	宮崎大学	研究
2022 年 8 月	魚類	標本画像	152	北九州市立自然史・歴史博物館	研究
2022 年 8 月	魚類	筋肉組織	5	東海大学	研究
2022 年 9 月	魚類	標本画像	26	三重大学	研究
2022 年 9 月	魚類	標本画像	3	北九州市立自然史・歴史博物館	研究
2022 年 9 月	魚類	標本画像	2	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2022 年 9 月	魚類	液浸標本	2	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2022 年 9 月	魚類	液浸標本	1	海響館	研究
2022 年 9 月	魚類	標本画像	189	Senckenberg Research Institute and Natural History Museum, Germany	研究
2022 年 10 月	魚類	標本画像	2	Rice University, USA	研究
2022 年 10 月	魚類	標本画像	172	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2022 年 10 月	魚類	液浸標本	1	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2022 年 10 月	魚類	液浸標本	16	水産研究・教育機構 開発調査センター	研究
2022 年 10 月	魚類	標本画像	18	北海道大学	研究
2022 年 10 月	魚類	液浸標本	10	北海道大学	研究
2022 年 10 月	魚類	筋肉組織	14	宮崎大学	研究
2022 年 10 月	魚類	標本画像	161	日本大学	研究
2022 年 10 月	魚類	標本画像	2	水産研究・教育機構 開発調査センター	研究
2022 年 10 月	魚類	標本画像	93	Pukyong National University, Korea	研究
2022 年 10 月	魚類	標本画像	2	National Sun Yat-sen University, Taiwan	研究
2022 年 11 月	魚類	液浸標本	7	Pukyong National University, Korea	研究
2022 年 11 月	魚類	筋肉組織	3	Pukyong National University, Korea	研究
2022 年 11 月	魚類	標本画像	7	日本テレビ	番組

2022 年 11 月	魚類	筋肉組織	34	名古屋市立大学	研究
2022 年 11 月	魚類	標本画像	27	名古屋市立大学	研究
2022 年 11 月	魚類	標本画像	3	国立科学博物館	研究
2022 年 11 月	魚類	液浸標本	1	国立科学博物館	研究
2022 年 11 月	魚類	液浸標本	159	京都大学	研究
2022 年 11 月	魚類	標本画像	23	かごしま水族館	研究
2022 年 11 月	魚類	標本画像	6	宮崎県南那珂農林振興局	広報
2022 年 11 月	魚類	標本画像	2	国立科学博物館	研究
2022 年 11 月	魚類	液浸標本	1	国立科学博物館	研究
2022 年 11 月	魚類	液浸標本	1	Smithsonian Institute, USA	研究
2022 年 11 月	魚類	液浸標本	26	高知大学	研究
2022 年 11 月	魚類	液浸標本	31	高知大学	研究
2022 年 12 月	魚類	標本画像	3	Natural History Museum of Denmark, Denmark	研究
2022 年 12 月	魚類	液浸標本	1	Natural History Museum of Denmark, Denmark	研究
2022 年 12 月	魚類	液浸標本	1	国立科学博物館	研究
2022 年 12 月	魚類	液浸標本	8	National Sun Yat-sen University, Taiwan	研究
2022 年 12 月	魚類	液浸標本	3	三重大学	研究
2022 年 12 月	魚類	標本画像	150	国立科学博物館	研究
2022 年 12 月	魚類	液浸標本	75	国立科学博物館	研究
2023 年 1 月	魚類	液浸標本	4	北九州市立自然史・歴史博物館	研究
2023 年 1 月	魚類	液浸標本	1	沖縄科学技術大学院大学	研究
2023 年 1 月	魚類	筋肉組織	1	沖縄科学技術大学院大学	研究
2023 年 1 月	魚類	液浸標本	127	Smithsonian Institute, USA	研究
2023 年 1 月	魚類	筋肉組織	2	国立科学博物館	研究
2023 年 1 月	魚類	標本画像	1	南日本新聞	記事
2023 年 2 月	魚類	筋肉組織	4	北海道大学	研究
2023 年 2 月	魚類	液浸標本	5	Pukyong National University, Korea	研究
2023 年 2 月	魚類	筋肉組織	5	Pukyong National University, Korea	研究
2023 年 2 月	魚類	標本画像	10	Pukyong National University, Korea	研究
2023 年 2 月	魚類	標本画像	38	ふくしま海洋科学館	研究
2023 年 2 月	魚類	液浸標本	5	三重大学	研究
2023 年 2 月	魚類	標本画像	11	三重大学	研究
2023 年 2 月	魚類	液浸標本	10	高知大学	研究
2023 年 2 月	魚類	筋肉組織	1	高知大学	研究
2023 年 2 月	魚類	標本画像	7	高知大学	研究
2023 年 3 月	魚類	液浸標本	2	Pukyong National University, Korea	研究
2023 年 3 月	魚類	筋肉組織	2	Pukyong National University, Korea	研究
2023 年 3 月	魚類	標本画像	8	Pukyong National University, Korea	研究
2023 年 3 月	魚類	標本画像	20	Zhejiang Ocean University, China	研究
2023 年 3 月	魚類	液浸標本	9	高知大学	研究

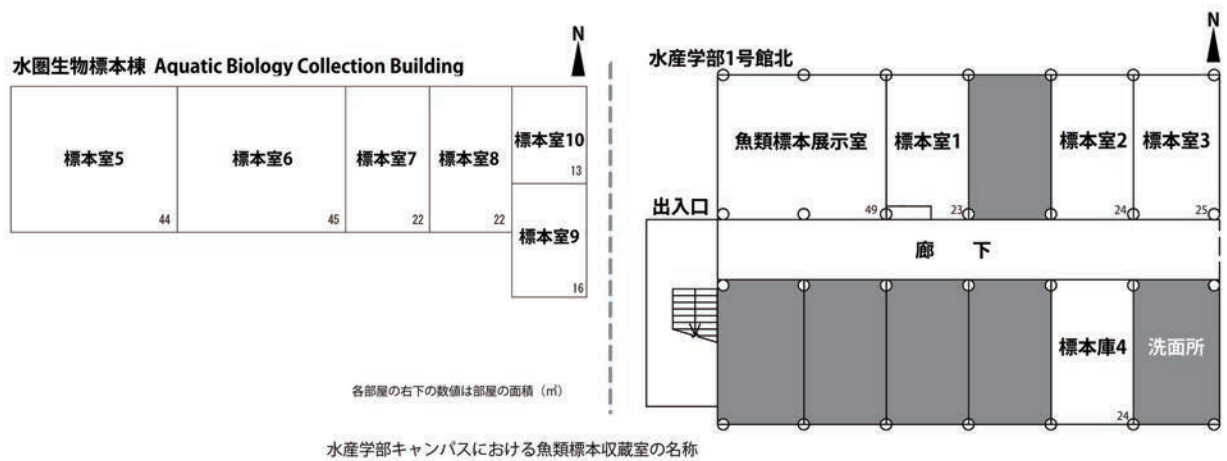
合計 108 件 5447 点

大型魚類標本の水産学部キャンパスへの移管

2022 年度末に郡元キャンパスの総合教育研究棟共同溝と共同利用棟 1F に仮保管されていた魚類標本を水産学部キャンパスの 1 号館北側標本室 1～4 と水圏生物標本棟（旧サークル棟）の標本室 5～10 に移管した。

標本室 1 ではスタウナギ科からイトウダイ科、標本室 2 ではヒウチダイ科からミハラハナダイ科、標本室 3 ではチョウセンバカマ科からタカサゴ科、標本室 4 ではマツダイ科からヒメジ科、標本室 5 ではハタンボ科からマンボウ科までの中型標本を 25 リットル標本ドラムに入れて中量棚に配架して保管している。標本室 6 では大型の硬骨魚類標本を 120～220 リットルの標本ドラムに入れて、床置きで保管、標本室 7 では軟骨魚類を同サイズのドラムに入れて保管している。標本室 8 では超大型魚類標本をジャンボックス（2 メートル×1 メートル）3 台に保管している。標本室 9 では中型の魚類タイプ標本と陸生貝類の乾燥標本、標本室 10 では液浸の無脊椎動物を保管している。

上記標本室に加え、水産学部キャンパス 1 号館北側に魚類標本展示室の基盤を整備した。今後は



標本室 1



標本室 2



標本室 3



標本室 4



標本室 5-1



標本室 5-2



標本室 6



標本室 7



標本室 9



標本室 9



標本室 9

展示物やパネルを準備し、2023 年度末に開室の予定である。

なお、小型標本は引き続き郡元キャンパス共同利用棟 1F の標本庫で保管されている。

3. その他の標本等の管理・利用

資料の登録 鹿児島高等農林学校の植物採集において、新聞には含まれたまま保管された予備標本が大量に存在しており、その標本および新聞の整理・登録を継続している。とくに新聞は稀少資料を含む可能性があるため、新聞名・年月日等の基本情報に加えて、記載記事見出しのテキストデータの登録を行っている。2022 年度は約 220 件の登録を行った。

理学部地球環境科学科（旧地学科）から移管された化石・岩石・貝類（オウムガイ）標本について、標本収蔵状態に問題があり、資料情報も不明なものが多いため、整理・再収納を継続的に行っている。22 年度はオウムガイ標本 245 点、貝類 215 点、化石約 50 点、岩石約 70 点の整理を行った。

鹿児島高等農林学校資料のデータの登録、整理を継続して行っている。

資料の受け入れ 以下の資料の寄贈があった。

増田直治墓誌：草牟田墓地内において増田家で管理されてきたが、現所有・管理者が高齢で、継承者がいないため寄贈先を探しており、この石碑の調査研究を行った永山修一氏（ラサール学園教諭）を介して、総合研究博物館に寄贈の打診があったので、寄贈を受けることとした。

当石碑は、鹿大附属図書館の貴重書「新納家文書」のほか、『稱名墓志』といった江戸時代の文献にも記載のある石碑で、薩摩藩の学問・学者にかかわる資料として歴史的価値は高い。

運搬経費は元所有者に負担していただいた。転倒防止具および解説板を当館で用意し常設展示室前に設置した。

地球儀：法文学部地理学研



草牟田墓地設置状況



草牟田墓地～総合研究博物館常設展示室前への移設



総合研究博物館常設展示室前設置工事



総合研究博物館常設展示室前設置状況

究室より地球儀2点。製造は渡辺教具製作所（東京）で、昭和24（1949）年製。昭和24年の鹿児島大学文理学部発足時に教材として購入されたものの可能性。

大型ブルボン管圧力ゲージ：工学部化学工学プログラムより、化学工学・粉体工学の研究に使用されたもの。1970年代か。

比重計：同じく工学部科学工学系の研究に使用されていた比重計の寄贈があった。

紫外可視吸収分光光度計およびパソコン：工学部化学生命工学科より、1980年代前半に購入のもの。分光器を動かしたパソコンはHITACHI MB-6891 BasicMaster Level3 Mark II。モニター、フロッピードライブともに寄贈。

また、名誉教授より火山噴煙データの寄贈に関する相談があった。ほか、教育学部附属特別支援学校事務係・個人から資料寄贈について問い合わせがあったが、2023年度に対応することとなった。

資料の利用 以下の表のとおり利用があった。

2022年度のその他標本の利用状況

利用年月	標本・資料	利用形態	点数	利用先	目的
2022年4月	オーストラリア・ボーリングコア ABDP1	観察	一式	東北大学理化学研究科	調査
2022年6月	神領10号墳盾持人埴輪写真	掲載	2点	KADOKAWA	解説
2022年9月	鴻之舞鉱山産金鉱石標本	調査	一式	鹿児島大学教育学部	調査研究
2022年10月	考古学図書	借用	1	学内	研究
2022年11月	新聞・報告書	調査	33	沖縄県教育委員会	調査研究
2022年11月	考古学図書	借用	2	学内	研究
2022年12月	ウマ骨格標本	調査	一式	帝京大学	調査研究
2023年2月	新聞	借用	6	沖縄県教育委員会	デジタルアーカイブ
2023年2月	地学データCD	借用	1	学内	研究
2023年3月	形ノ山産植物化石標本	借用	約900点	国立科学博物館	調査研究
2023年3月	形ノ山産魚類化石標本	借用	約200種	北九州市自然史・歴史博物館	展示・調査研究
2023年3月	神領10号墳出土土器	借用(継続)	5	国立歴史民俗博物館	常設展示
2023年3月	ウマ骨格標本	掲載	68	帝京大学	学会発表

ほか、七高関係写真の問い合わせ、農学部教員より与論島のリン鉱石を所蔵していないか問い合わせの対応があった。個人からの持ち込みで印刷に関わる資料に関して問い合わせ対応を行った。

熊本大学教員・学生の薩摩火山灰観察において桜ヶ丘キャンパス内埋蔵文化財調査発掘現場での観察について調整・対応を行った。

高倉の修理 9月19日に九州を縦断した台風14号の影響で、高倉の茅葺き屋根の一部が損壊した。これに対しては災害復旧経費によって2023年2月8日に修理を実施した。



台風後損壊状況



修理作業



修理完了後

20 2022 年度 専任教員の活動業績

橋本 達也 [教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育

共通教育科目「古代東アジアの王陵」担当

共通教育科目「博物館展示論」担当

共通教育科目「博物館教育論」担当

2) その他

「博物館実習」担当

教員免許状更新講習

(2) 研究活動

1) 論文等 (査読無)

橋本達也 2023.1「九州南部の前方後円墳」『季刊考古学』第 162 号 雄山閣

橋本達也 2022.12「古墳時代の甲冑・軍事組織・戦争」『古代武器研究』Vol. 17 古代武器研究会

橋本達也 2022.09「大隅・薩摩地域における古墳時代後期の集落と古墳」『集落と古墳の動態Ⅲ—古墳時代中期末—古墳時代後期—』第 23 回九州前方後円墳研究会福岡大会発表資料集 同大会実行委員会 458-467

2) 調査報告

橋本達也 (編著) 2023.4『大隅大崎 神領 10 号墳の研究 Ⅲ』鹿児島大学総合研究博物館

橋本達也 2023.3「小木原 5001 ～ 5005 号地下式横穴墓の三次元計測」『小木原地下式横穴墓群Ⅱ・古代官道跡』えびの市教育委員会 えびの市埋蔵文化財調査報告書第 62 集 pp.27-32

3) その他

橋本達也 2023.1.7 ～ 1.8「古墳時代の武器・武具は軍事組織を投影するのか—陪冢・野中古墳出土資料から考える—」科学研究費補助金・新学術領域研究・出ユーラシアの統合的人類史学・第 8 回全体会議ポスターセッション

橋本達也 2022.7「古墳時代の武装具・軍事組織・戦争の関係性」『文部科学省科学研究費助成事業 新悪逆領域研究 (研究領域提案型) 2019 年度～2023 年度 出ユーラシアの統合的人類史学—文明創出メカニズムの解明— 出ユーラシアプロジェクト第 9 集 2021 年度研究活動報告書』岡山大学文明動態学研究所

4) 学会・研究会発表・講演

橋本達也 2022 年 11 月 28 日「大隅の古墳群の 2000 年代の新しい研究成果と今後の課題」鹿児島県考古学会秋季大会基調講演 鹿児島県考古学会 東串良町総合センター・鹿児島+ハイブリッド

橋本達也 2023 年 2 月 18 日「デモンストレーションとしての古墳築造と武装具副葬—古墳時代の儀礼と戦争の間を考える—」『コミュニケーションと戦争』新学術領域研究出ユーラシアの統合的人類史学 (計画研究 A03「集団の複合化と戦争」)・岡山大学文明動態学研究所 岡山大学文明動態学研究所 + Zoom ウェビナー

橋本達也 2022 年 9 月 16 日 M・C みはらしシリーズ講座みはら学びのすすめⅡ「巨大古墳の時代を黒姫山古墳から知る」堺市立みはら歴史博物館

橋本達也 2023 年 3 月 18 日 百舌鳥・古市古墳群に魅せられて—調査研究の最前線—「『明治五年大仙陵絵図』をめぐる人々と「大仙陵」の実態」百舌鳥・古市古墳群世界遺産保存活用会議事務局

(3) 外部資金

研究分担者

基盤研究 B 2022 年度～2025 年度 陪冢と大量器物埋納の再分析に基づく巨大古墳群の構造把握と社会複雑化過程の研究 (研究代表者)

新学術領域研究 (研究領域提案型) 2021 ～ 2023 年度「集団の複合化と戦争」(研究分担者、代表: 松木武彦・国立歴史民俗博物館教授)

(4) 社会貢献

1) 学会・公的機関などの役職・委員会委員等

文化財保存全国協議会全国委員

鹿児島県考古学会幹事

九州前方後円墳研究会幹事

古代武器研究会幹事

東串良町唐仁古墳群保存活用検討委員会委員

鹿屋市岡崎古墳群検討委員会委員

2) 調査指導・協力

2023 年 3 月 13 日 鹿屋市教育委員会岡崎古墳群発掘調査指導

2022 年 10 月 21 日 都城市教育委員会相原第 2 遺跡発掘調査指導

2022 年 8 月 18-19 日 宗像大社国宝沖ノ島出土品国宝保存活用計画調査指導

2022 年 8 月 8 日 宗像市上高宮古墳出土品整理調査指導

(5) 学内委員

放射線安全管理委員会委員

学芸員資格科目委員会委員

総合研究博物館 第 40 回市民講座「江戸後期薩摩藩の学問と学者たちの交流—増田直治をめぐる—」担当

(6) 調査研究

大崎町神領 10 号墳の研究

(7) 報道関係

【寄稿】

2022 年 12 月 16 日「前方後円墳 国家誕生知る手掛かりに」オセモコ・かごしまサイエンスカフェ・ノート
南日本新聞

【コメント】

2023 年 2 月 21 日「被葬者は「盾」が大好き？ 埴輪や絵も出土 富雄丸山古墳」朝日新聞

2022 年 12 月 31 日「多様な横穴墓、22 基発見 宮崎都城の相原第 1 遺跡」朝日新聞 ほかに南日本新聞・NHK・宮崎日日新聞 2021 年 12 月 21 日

本村 浩之 [教授]

(1) 教育活動

1) 専門教育

農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学倫理特論」

農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学特別研究Ⅰ」

農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学特別研究Ⅱ」

農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学特別研究Ⅲ」

農林水産学研究科専門科目「生物環境科学特別講義」

大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別演習」(前期・後期)

大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別研究」(前期・後期)

2) その他

博物館資料論 (前期)

博物館実習 (前期)

博物館実習 (理系学部合同) 事後指導 (後期)

3) 研究教育

主査：博士課程 2 人，修士課程 8 人，学部 4 人

副査：博士課程 2 人，修士課程 1 人

(2) 研究活動

1) 研究論文 (査読付)

藤原恭司・ジョン・ビョル・伊東正英・本村浩之. 2022 (Apr.). 大隅諸島黒島初記録の魚類 3 種および同島からこれまでに確認されている魚類の総種数. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 19: 19-21. Doi: 10.34583/ichthy.19.0_19 (6 Apr. 2022).

赤池貴大・本村浩之. 2022 (Apr.). 石垣島初記録のテッポウウオ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 19: 22-25. Doi: 10.34583/ichthy.19.0_22 (11 Apr. 2022).

中村潤平・本村浩之. 2022 (Apr.). ハタ科 Serranidae とされていた日本産各種の帰属，および高次分類群に適用する標準和名の検討. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 19: 26-43. Doi: 10.34583/ichthy.19.0_26 (16 Apr. 2022).

出羽優風・荒木萌里・山田守彦・本村浩之. 2022 (Apr.). 鹿児島県から得られたヨウジウオ科の稀種ダイダイヨウジ：伊豆半島西岸と相模湾以外からの初めての記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 19: 44-48. Doi: 10.34583/ichthy.19.0_44 (19 Apr. 2022).

是枝伶旺・本村浩之. 2022 (May). 宮崎県から得られたコマハゼとクロコマハゼ南限記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 20: 13-25. Doi: 10.34583/ichthy.20.0_13 (16 May 2022).

Koreeda, R. and H. Motomura. 2022 (May). *Luciogobius punctilineatus* n. sp., a new earthworm goby from southern Japan. *Zootaxa*, 5138 (2): 137-151. Doi: 10.11646/zootaxa.5138.2.2 (17 May 2022).

Misawa, R., R. P. Babaran and H. Motomura. 2022 (May). *Okamejei panayensis* sp. nov., a new skate (Rajiformes: Rajidae) from the Philippines. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-022-00874-1 (16 pp.; 19 May 2022)

Araki, M. and H. Motomura. 2022 (May). Review of the Indo-West Pacific pipefish genus *Urocampus* (Syngnathidae), with descriptions of two new species. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-022-00872-3 (24 May 2022), 70 (1): 1-20 (Jan. 2023).

Ho, H.-C., H. Motomura, H. Hata and W.-C. Chiang. 2022 (May). *Epinnula rex* nom. nov., a replacement name for *Epinnula pacifica* Ho, Motomura, Hata & Jiang, 2017 (Teleostei: Gempylidae). *Zootaxa*, 5141 (2): 199-200. Doi: 10.11646/zootaxa.5141.2.8 (25 May 2022).

Iino, T. and H. Motomura. 2022 (May). *Pteragogus turdus*, a new species of wrasse (Perciformes: Labridae) from the Indo-West Pacific Ocean. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-022-00875-0 (30 May 2022), 70 (2): 207-214 (27 Apr. 2023).

望月健太郎・伊東正英・本村浩之. 2022 (June). 大隅諸島黒島沖から得られた日本初記録のアナゴ科 *Congrus maldivensis* ナンヨウオキアナゴ (新称) の葉形仔魚. 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.22-009 (3 June 2022), 69 (2): 145-151 (5 Nov. 2022)

中村潤平・小枝圭太・本村浩之. 2022 (June). 奄美群島喜界島から得られた分布北限記録のキビレハタンポ. 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.22-004 (3 June 2022), 69 (2): 219-223 (5 Nov. 2022)

飯野友香・前川隆則・本村浩之. 2022 (June). 奄美群島喜界島沖と沖縄諸島硫黄島島沖から得られたツルギエチオピアの初記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 21: 8-12. Doi: 10.34583/ichthy.21.0_8 (13 June 2022).

出羽優風・伊東正英・本村浩之. 2022 (June). 鹿児島県から得られた日本初記録のウツボ科魚類 *Gymnothorax pseudoprolatus* チャイロウツボ (新称). 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.22-008 (24 June 2022), 69 (2): 153-158 (5 Nov. 2022)

Dewa, Y. and H. Motomura. 2022 (June). Redescription of *Enneapterygius erythrosoma* Shen 1994

- and a synopsis of *Enneapterygius similis* Fricke 1997, with comments on the taxonomic status of *Enneapterygius rubicauda* Shen 1994 (Perciformes: Tripterygiidae). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-022-00871-4 (19 pp.; 28 June 2022)
- ジョン・ビョル・本村浩之. 2022 (June). ブダイ科魚類アカブダイの奄美大島から得られた雄の標本に基づく記録, および水中写真に基づく屋久島からの初記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 21: 80-83. Doi: 10.34583/ichthy.21.0_80 (30 June 2022).
- 畑瑛之郎・中村潤平・吉田明彦・本村浩之. 2022 (July). 薩摩半島南岸から得られた九州初記録のムツエラエイ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 22: 1-4. Doi: 10.34583/ichthy.22.0_1 (1 July 2022).
- 樋口聡文・久木田直斗・本村浩之. 2022 (July). 九州初記録のスズメダイ科魚類ルリスズメダイ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 22: 5-8. Doi: 10.34583/ichthy.22.0_5 (7 July 2022).
- 宮本 圭・和田英敏・長坂忠之助・高野はるか・本村浩之・瀬能 宏. 2022 (July). 沖縄島および屋久島から得られた日本初記録の *Antennarius biocellatus* ビエロカエルアンコウ (新称). Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 22: 9-13. Doi: 10.34583/ichthy.22.0_9 (8 July 2022).
- 古橋龍星・本村浩之. 2022 (July). 南日本各地におけるツケアゲエソの標本に基づく記録, および国内における本種の分布記録の整理. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 22: 14-20. Doi: 10.34583/ichthy.22.0_14 (8 July 2022).
- Koreeda, R., H.-C. Ho and H. Motomura. 2022 (July). Records of the eel-goby, *Taenioides snyderi* (Actinopterygii: Gobiiformes: Gobiidae), from Taiwan. Acta Ichthyologica et Piscatoria, 52 (2): 167-172. Doi: 10.3897/aiep.52.85646 (8 July 2022)
- 吉田卓史・桜井 雄・三木涼平・本村浩之. 2022 (July). 九州南東部と琉球列島から得られた国内 2 例目のキツネアカアジ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 22: 29-32. Doi: 10.34583/ichthy.22.0_29 (27 July 2022).
- 古橋龍星・本村浩之. 2022 (Aug.). トカラ列島の無人島, 臥蛇島と小臥蛇島における魚類 57 種の記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 23: 7-18. Doi: 10.34583/ichthy.23.0_7 (16 Aug. 2022).
- 望月健太郎・是枝伶旺・佐藤智水・本村浩之. 2022 (Aug.). 大隅諸島竹島から得られた北限更新記録を含む同島初記録の魚類 43 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 23: 19-31. Doi: 10.34583/ichthy.23.0_19 (21 Aug. 2022).
- 出羽優風・本村浩之. 2022 (Aug.). 東シナ海と土佐湾から得られた国内 2 例目のベラ科魚類モンイトベラ. タクサ, 53: 48-52. Doi: 10.19004/taxa.53.0_48 (31 Aug. 2022)
- 松本達也・藤井琢磨・本村浩之. 2022 (Sept.). 奄美群島加計呂麻島から得られた薩南諸島初記録のツノカサゴ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 24: 1-5. Doi: 10.34583/ichthy.24.0_1 (2 Sept. 2022).
- 和田英敏・松井英司・松井謙弥・本村浩之. 2022 (Sept.). 熊本県菊池川から得られた絶滅危惧種アリアケシラウオの確かな記録. 熊本野生生物研究会誌, 11: 1-4 (8 Sept. 2022).
- 和田英敏・前川隆則・甲斐嘉晃・本村浩之. 2022 (Sept.). 山形県飛鳥, 鹿児島湾および奄美大島からのアズマハナダイ (ハナダイ科) の新たな分布記録, および本種の地理的分布と生息水深・水温の関連性. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 24: 24-32. Doi: 10.34583/ichthy.24.0_24 (9 Sept. 2022).
- Hata, H., S. Lavoué and H. Motomura. 2022 (Sept.). Description of three new species previously identified as *Stolephorus bengalensis* (Dutt & Babu Rao, 1959) or *Stolephorus insularis* Hardenberg, 1933, and a re-description of *S. bengalensis* (Chordata, Osteichthyes, Clupeiformes, Engraulidae). ZooKeys, 1121: 145-173. Doi: 10.3897/zookeys.1121.84171 (15 Sept. 2022)
- 是枝伶旺・望月健太郎・清水直人・本村浩之. 2022 (Sept.). 奄美群島から得られた薩南諸島初記録ならびに北限記録のギンボハゼ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 24: 41-45. Doi: 10.34583/ichthy.24.0_41 (20 Sept. 2022).
- Hata, H., S. Lavoué and H. Motomura. 2022 (Sept.). Redescriptions of *Dussumieria elopsoides* Bleeker, 1849 and related nominal species led to the revalidation of *Dussumieria hasseltii* Bleeker, 1851 and *Dussumieria productissima* Chabanaud, 1933 (Clupeiformes: Dussumieriidae). European Zoological Journal, 89 (1): 1129-1158. Doi: 10.1080/24750263.2022.2115566 (22 Sept. 2022)
- 橋本慎太郎・前川隆則・本村浩之. 2022 (Sept.). 奄美大島初記録の魚類 3 種 (カスザメ・クロダラ・シマガツオ) およびカスザメの性的二型に関する形態学的知見. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 24: 50-55. Doi: 10.34583/ichthy.24.0_50 (28 Sept. 2022).
- 藤原恭司・笹木大地・本村浩之. 2022 (Oct.). 奄美群島喜界島から得られた薩南諸島初記録および北限記録のトウゴロウイワシ科トガリイソイワシ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 25: 1-3. Doi: 10.34583/ichthy.25.0_1 (11 Oct. 2022).
- 古橋龍星・本村浩之. 2022 (Oct.). 奄美大島から得られた琉球列島初記録のマエソ, ならびに本種のユーラシア大陸東部と東南アジアの個体群にみられる形態と色彩の地理的変異. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 25: 4-12. Doi: 10.34583/ichthy.25.0_4 (12 Oct. 2022).
- 是枝伶旺・古橋龍星・山下龍之丞・本村浩之. 2022 (Oct.). 九州南部と屋久島から採集された分布南限を更新するナガミズハゼ種群未同定種 2 *Luciogobius* sp. 16 sensu Shibukawa et al. (2019) の記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 25: 13-26. Doi: 10.34583/ichthy.25.0_13 (17 Oct. 2022).
- Furuhashi, R., B. C. Russell and H. Motomura. 2022 (Oct.). *Saurida fortis*, a new species of lizardfish (Aulopiformes: Synodontidae) from the northwestern Pacific Ocean. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-022-00894-x (16 pp.; 20 Oct. 2022)
- 是枝伶旺・本村浩之. 2022 (Nov.). 薩摩半島から得られた北限記録となる熱帯・亜熱帯性ハゼ科魚類 3 種 (トサカハゼ, スダレウロハゼ, イワハゼ). Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 26: 4-17. Doi: 10.34583/ichthy.26.0_4 (8 Nov. 2022).
- 岡本 誠・柳下直己・窪田考伸・前田達郎・大富 潤・本村浩之. 2022 (Nov.). 日本産スミクイウオ科ヒメスミクイウオ属 3 種の九州からの追加標本. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 26: 18-25. Doi: 10.34583/ichthy.26.0_18 (10 Nov. 2022).
- 古橋龍星・本村浩之. 2022 (Nov.). 種子島から得られた分布北限ならびに日本 2 例目のモノロユカタハゼ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 26: 26-29. Doi: 10.34583/ichthy.26.0_26 (20 Nov. 2022).
- Fujiwara, K., T. Suzuki and H. Motomura. 2022 (Nov.). First Japanese record of the rare goby *Trimma panemorum* Winterbottom and Pyle, 2022 from Okinawa Island, Ryukyu Islands, southern Japan (Teleostei, Gobiidae). Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A, 48 (4): 229-233.

- Doi: 10.50826/bnmnszool.48.4_229 (22 Nov. 2022).
- Hata, H., S. Lavoué and H. Motomura. 2022 (Nov.). A new species of *Stolephorus* from the eastern Indian Ocean and redescription of *Stolephorus dubiosus* Wongratana, 1983, with comments on the evolution of prepelvic scute numbers within Stolephorus (Clupeiformes: Engraulidae). Zoological Studies, 61: 58, doi: 10.6620/ZS.2022.61-58 (16 pp.; 25 Nov. 2022).
- 中村潤平・松浦圭太・向井千晴・本村浩之. 2022 (Nov.). 大隅諸島種子島から得られた標本に基づく南西諸島初記録のスズキ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 26: 34-37. Doi: 10.34583/ichthy.26.0_34 (29 Nov. 2022).
- 出羽優風・望月健太郎・松岡 翠・中村潤平・石原祥太郎・橋本慎太郎・佐藤智水・畠中柚葉・本村浩之. 2022 (Dec.). 大隅諸島黒島から得られた初記録の魚類 86 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 27: 15-31. Doi: 10.34583/ichthy.27.0_15 (8 Dec. 2022).
- 佐藤智水・本村浩之. 2022 (Dec.). 薩摩半島から得られた九州沿岸初記録のコバンハゼ属魚類 3 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 27: 32-39. Doi: 10.34583/ichthy.27.0_32 (8 Dec. 2022).
- 畑瑛之郎・大富 潤・岩本 航・本村浩之. 2022 (Dec.). 薩摩半島沖から得られた国内 2 例目のタイワンコロザメ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 27: 40-44. Doi: 10.34583/ichthy.27.0_40 (12 Dec. 2022).
- 吉田卓史・木村清志・三木涼平・本村浩之. 2022 (Dec.). 宮崎県から得られたアジ科魚類の稀種コガネアジ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 27: 57-60. Doi: 10.34583/ichthy.27.0_57 (16 Dec. 2022).
- 中島田正希・本村浩之. 2022 (Dec.). 東シナ海より得られた長崎県初記録のミハラハナダイ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 27: 61-65. Doi: 10.34583/ichthy.27.0_61 (17 Dec. 2022).
- 望月健太郎・ジョン ビョル・佐藤智水・山田守彦・松岡 翠・本村浩之. 2022 (Dec.). 鹿児島県南さつま市沿岸から得られた九州初記録種を含む薩摩半島初記録の魚類 8 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 27: 66-73. Doi: 10.34583/ichthy.27.0_66 (22 Dec. 2022).
- 松本達也・中村潤平・本村浩之. 2022 (Dec.). 薩摩半島南岸から得られた九州初記録となるハナダイ科ハナダイ亜科魚類 4 種 (バラハナダイ・イッテンサクラダイ・キオビズハナダイ・フジナハナダイ). Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 27: 74-86. Doi: 10.34583/ichthy.27.0_74 (23 Dec. 2022).
- Hata, H. and H. Motomura. 2022 (Dec.). *Stolephorus lotus*, a new anchovy (Teleostei: Clupeiformes: Engraulidae) from the Northern Territory, Australia. Zoological Studies, 61: 87, doi: 10.6620/ZS.2022.61-87 (11 pp.; 26 Dec. 2022).
- Cabebe-Barnuevo, R. A., E. S. Delloro Jr., D. F. A. Penuela, M. C. D. Malay, H. Motomura and R. P. Babaran. 2022. New record of anthiadine fish, *Plectranthias yamakawai* (Actinopterygii: Perciformes: Serranidae), from the Philippines. Acta Ichthyologica et Piscatoria, 52 (4): 299-307. Doi: 10.3897/aiep.52.96112 (30 Dec. 2022).
- Matsunuma, M., T. Matsumoto, H. Motomura, Y. G. Seah and T. N. A. M. Jaafar. 2023 (Jan.). *Coradion calendula*, a new butterflyfish from Australia (Teleostei: Chaetodontidae). Journal of the Ocean Science Foundation, 40: 1-28. Doi: 10.5281/zenodo.7504828 (6 Jan. 2023).
- 佐藤智水・山田守彦・ジョン ビョル・望月健太郎・松岡 翠・本村浩之. 2023 (Jan.). 薩摩半島から得られた九州あるいは鹿児島県本土初記録のハゼ亜目魚類 13 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 28: 12-21. Doi: 10.34583/ichthy.28.0_12 (15 Jan. 2023).
- 是枝伶旺・本村浩之. 2023 (Jan.). 沖縄県初記録のコブケイウツボとホシケイウツボ, および潮間帯の礫中から得られるウツボ科魚類の記録. Fauna Ryukyuna, 66: 15-27 (23 Jan. 2023).
- 本田康介・和田英敏・山田和彦・長谷川大樹・瀬能 宏・本村浩之. 2023 (Jan.). カボチャフサカサゴの分布と成長に伴う形態変化に関する新知見. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 28: 49-57. Doi: 10.34583/ichthy.28.0_49 (27 Jan. 2023).
- 橋本慎太郎・是枝伶旺・古橋龍星・本村浩之. 2023 (Feb.). 種子島と奄美大島から得られた薩南諸島初記録のヨウジウオ科タニヨウジ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 29: 9-13. Doi: 10.34583/ichthy.29.0_9 (7 Feb. 2023).
- 古橋龍星・是枝伶旺・本村浩之. 2023 (Feb.). 大隅諸島の種子島と屋久島から得られた淡水・汽水性魚類 15 種の記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 29: 20-33. Doi: 10.34583/ichthy.29.0_20 (18 Feb. 2023).
- 望月健太郎・大山滉将・久米 元・本村浩之. 2023 (Feb.). ネットイフサカサゴ属 2 種 (トゲイッテンフサカサゴとイッテンフサカサゴ) の国内における分布記録の整理と両種の性的二型に関する色彩・形態学的知見. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 29: 39-57. Doi: 10.34583/ichthy.29.0_39 (27 Feb. 2023).
- Reinecke, T., F. H. Mollen, J. C. Seitz, H. Motomura, D. Hovestadt and K. Hoedemakers. 2023 (Mar.). Iconography of jaws and representative teeth of extant rhinoprismiform and dasyatoid batoids (Chondrichthyes, Elasmobranchii) for comparison with fossil batoid material. Palaeontos, 34: 1-158.
- ジョン ビョル・大富 潤・本村浩之. 2023 (Mar.). 鹿児島県大隅諸島から得られた北西太平洋初記録のフエダイ科魚類 *Etelis boweni* オオアカムツ (新称). 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.22-018 (8 Mar. 2023).. 70 (1): 95-102 (25 Apr. 2023).
- 松本達也・星野和夫・本村浩之. 2023 (Mar.). 土佐湾と日向灘北部から得られた分布北限かつ国内 2 例目のヤブサメカサゴ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 30: 6-10. Doi: 10.34583/ichthy.30.0_6 (12 Mar. 2023).
- 中村潤平・永吉健志郎・本村浩之. 2023 (Mar.). 九州南岸から得られた分布北限のマホロバハタ, および本種と日本産類似種 (ホウセキハタとオオモンハタ) との識別形質. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 30: 11-16. Doi: 10.34583/ichthy.30.0_11 (14 Mar. 2023).
- 是枝伶旺・福地伊美映・本村浩之. 2023 (Mar.). 薩摩半島から得られた九州沿岸初記録のボラ科魚類 2 種 (カマヒレボラとモンナシボラ). Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 30: 17-30. Doi: 10.34583/ichthy.30.0_17 (16 Mar. 2023).
- 2) 研究論文 (査読なし)
- 中村潤平・是枝伶旺・北本憲吾・本村浩之. 2022 (July). 奄美群島徳之島から得られたヒラスズキ. Nature of Kagoshima, 49: 53-55 (12 July 2022).
- ジョン ビョル・山田守彦・本村浩之. 2022 (Aug.). 大隅諸島種子島から得られたゴンベ科魚類ウイゴンベの幼魚. Nature of Kagoshima, 49: 57-60 (1 Aug. 2022).
- 出羽尚子・中村潤平・藤井琢磨・是枝伶旺・渡部泰斗・本村浩之. 2022 (Dec.). 鹿児島県薩摩半島から得られ

たヒメツバメウオ. Nature of Kagoshima, 49: 149-152 (27 Dec. 2022).
是枝伶旺・橋本慎太郎・清水直人・本村浩之. 2023 (Mar.). 鹿児島湾北西部の白浜海岸から得られた絶滅危惧種イドミミズハゼ. Nature of Kagoshima, 49: 227-230 (25 Mar. 2023).

3) 書籍

本村浩之 (編). 2022 (Apr.). くらべてわかる! 水の生物. 教科書に出てくる 身のまわりの生物 3 理論社, 東京. 48 pp. (8 Apr. 2022)
本村浩之 (編). 2022 (July). 学研の図鑑 LIVE・危険生物. 魚類. 改訂版. 学研プラス, 東京. 234 pp. (5 July 2022)
武田正倫・本村浩之 (監). 2022 (July). 学研の図鑑 LIVE ポケット 深海生物. 学研プラス, 東京. 201 pp.
Motomura, H. 2022 (Sept.). Family Polynemidae. Threadfins, pp. 86-92, pls. 23-24. In Heemstra, P. C., E. Heemstra, D. A. Ebert, W. Holleman and J. E. Randall (eds.) Coastal fishes of the western Indian Ocean. Vol. 4. SAIAB, Makhanda. (29 Sept. 2022)
Poss, S. G. and H. Motomura. 2022 (Sept.). Family Scorpaenidae. Scorpionfishes and lionfishes, pp. 506-549, pls. 101-103. In Heemstra, P. C., E. Heemstra, D. A. Ebert, W. Holleman and J. E. Randall (eds.) Coastal fishes of the western Indian Ocean. Vol. 2. SAIAB, Makhanda. (29 Sept. 2022)
本村浩之. 2022 (Oct.). 魚介類. 平 宏和・田島 眞・安井明美・安井 健(編). 新版 日本食品大事典 第二版. 医歯薬出版株式会社, 東京. xxi + 969 pp. (10 Oct. 2022)
樋之口蓉子・田島奏一朗・是枝伶旺・本村浩之 (編). 2023 (Mar.). 錦江湾奥 干潟の生き物図鑑. 特定非営利活動法人くすの木自然館, 始良. 100 pp. (25 Mar. 2023)

4) その他の出版物

本村浩之. 2022 (June). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 25 タチガミフエフキ. さくらじまの海, 26 (1): 8.
本村浩之. 2022 (Aug.). 『和泊町の歩み』執筆者リレーメッセージ. しまの魚の多様性を解き明かす. 歩み編さんだより, 8:1.
本村浩之. 2022 (Sept.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 26 ナンヨウオキアナゴ. さくらじまの海, 26 (2): 8.
本村浩之. 2022 (Dec.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 27 ピエロカエルアンコウ. さくらじまの海, 26 (3): 8.
本村浩之 (監). 2023 (Jan.). Nature view 恐ろしい魚. Newton 2023 年 3 月号. 122-133.
本村浩之. 2023 (Feb.). 鹿児島大学総合研究博物館—魚類コレクション—. 食品衛生学雑誌, 64 (1): J13-J14 (25 Feb. 2023).
本村浩之. 2023 (Mar.). 魚の宝庫・種子島. 西之表市史編さんだより, 12: 1 (27 Mar. 2023).
本村浩之. 2023 (Mar.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 28 ドロゾメエソ. さくらじまの海, 26 (4): 8.

5) 学会・シンポジウム等発表

本村浩之. 2022 (28 Aug.). 黒潮が育む薩南諸島の魚たち. 魚の会 2022 年度第 2 回講演会. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.
本村浩之. 2022 (17 Sept.). 薩南諸島のサンゴ礁の魚たちと分布特性. 喜界島サンゴ礁科学研究所サンゴ塾. 鹿児島大学大学院連合農学研究科, 鹿児島市.
望月健太郎・本村浩之. 2022 (18 Sept.). フサカサゴ科ネツタイフサカサゴ属 *Parascorpaena* の分類学的再検討 (予報). 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学, 大阪. Poster
是枝伶旺・前田 健・本村浩之. 2022 (18-19 Sept.). 河口域の伏流水中に生息するナガミミズハゼ種群の 4 未記載種の形態と分布状況. 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学, 大阪. Poster
古橋龍星・本村浩之. 2022 (18-19 Sept.). 日本産マエソ属とアカエソ属 (エソ科) の分類学的再検討. 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学, 大阪. Poster
樋口聡文・松沼瑞樹・本村浩之. 2022 (18-19 Sept.). アラビア海から得られたハチ属の 1 未記載種. 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学, 大阪. Poster
松沼瑞樹・松本達也・本村浩之. 2022 (18-19 Sept.). オーストラリアから得られたチョウチョウオ科タキゲンクロダイ属の 1 未記載種. 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学, 大阪. Poster
橋本慎太郎・本村浩之. 2022 (18-19 Sept.). オーストラリア東岸から得られたキントキダイ属の 1 未記載種. 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学, 大阪. Poster
ジョン ビョル・大富 潤・本村浩之. 2022 (18-19 Sept.). 北西太平洋初記録のフエダイ科魚類 *Etelis boweni*. 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学, 大阪. Poster
出羽優風・本村浩之. 2022 (18-19 Sept.). 琉球列島と台湾から得られたヘビギンボ属の 1 未記載種. 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学, 大阪. Poster
吉田卓史・本村浩之. 2022 (18-19 Sept.). 日本の島嶼域に生息するシマアジ属の 1 未記載種. 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学, 大阪. Poster
畑瑛之郎・本村浩之. 2022 (18-19 Sept.). 日本産ヤッコエイの分類学的再検討. 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学, 大阪. Poster
松本達也・武藤望生・本村浩之. 2022 (18-19 Sept.). マツバラカサゴ属 5 種の分類学的再検討およびインド・西太平洋から得られた 1 未記載種. 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学, 大阪. Poster
佐藤智水・本村浩之. 2022 (18-19 Sept.). 日本産フタイロサンゴハゼの分類学的再検討. 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学, 大阪. Poster
石原祥太郎・Barry C. Russell・本村浩之. 2022 (18-19 Sept.). 西太平洋より得られたヨコシマタマガシラ属の 1 未記載種. 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学, 大阪. Poster
畑 晴陵・Sebastien Lavoue・本村浩之. 2022 (18-19 Sept.). インドアイノコイワシ属 *Stolephorus bengalensis* 類似種群の分類学的再検討. 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学, 大阪. Poster
中村潤平・本村浩之. 2022 (18-19 Sept.). 草垣群島の魚類相. 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学, 大阪. Poster
藤原恭司・遠藤広光・渋谷浩一・本村浩之. 2022 (19 Sept.). 日本産メギス科タナバタメギス属魚類の分類学的再検討. 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学, 大阪. Oral
和田英敏・瀬能 宏・本村浩之・甲斐嘉晃. 2022 (19 Sept.). 南西太平洋タスマン海から得られたシロカサゴ科クロカサゴ属の 1 未記載種. 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学, 大阪. Oral

本村浩之. 2022 (18 Dec.). 日本産魚類全種目録の作成とデジタルデータの共有. 21 世紀の生物多様性研究ワークショップ「生物の種名目録を作り共有する」. 日本生物多様性情報イニシアチブ. オンライン
是枝伶旺・本村浩之. 2023 (4 Feb.). キマイラミミズハゼとオチヨコナガミミズハゼの生息する“高さ”. ゴリ研究会. Oral
望月健太郎・本村浩之. 2023 (11 Mar.). 鹿児島県指宿市における小型外来魚類の生息状況とグッピー属 3 種の同定. 魚類自然史研究会. 自然環境研究センター, 東京. Oral

(3) 外部資金

日本学術振興会 科研費基盤研究(A)「鹿児島湾海底火山活動によって放出される水銀及びセレンの環境動態」(分担)
日本学術振興会 科研費基盤研究(B)「渡瀬線に代わる海洋生物における新たな生物地理境界線「大隅線」の検証」(代表)
日本学術振興会 科研費基盤研究(B)「島嶼海岸生物の地理的分布に分散ネットワークが果たす役割: 温暖化に伴う北上は容易か」(分担)
日本学術振興会 研究拠点形成事業-B. アジア・アフリカ学術基盤形成型-「持続的な東南アジア海洋生態系利用のための研究教育プロジェクト」(分担)
文部科学省 特別経費-地域貢献機能の充実-「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」(分担)
2022 年度船の科学館「海の学び ミュージアムサポート」プログラム 2「海の博物館活動サポート」A コース博物館「地域の干潟をテーマにした学習プログラムの開発、実施事業」(分担)

(4) 社会貢献・学外活動

マレーシア・トレンガヌ大学 教授/准教授昇進外部人事評価委員
オーストラリア博物館 客員研究員
Philippine Journal of Systematic Biology 誌 編集顧問
Taxonomy 誌 編集顧問
国際自然保護連合 種の保存委員
日本魚類学会 標準和名検討委員会 委員
日本魚類学会 ABS 対策チーム 委員
日本動物分類学会 学会賞および奨励賞受賞候補者選考委員会 委員長
日本動物分類学会 Species Diversity Editorial Board
日本生物地理学会 評議員
日本博物科学会 理事
かごしま水族館 評議員
鹿児島県自然環境保全協会 幹事
桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会 委員
出水ツルの越冬地生物多様性協議会 副会長
西之表市史自然部会 委員
和泊町の歩み編さん委員会 委員
放送大学 非常勤講師
名古屋市立大学 非常勤講師 (2022 年 11 月 5 ~ 11 日)
令和 4 年度鹿児島県高等学校生徒理科研究発表大会 助言指導・審査員
令和 4 年度九州高等学校生徒理科研究発表大会鹿児島大会 審査員
出前授業「カンボジアの自然」. 勇志国際高等学校・熊本学習センター (2022 年 9 月 2 日)
出前授業「鹿児島の魚」鹿児島大学体験講座. 志学館中高等部, 鹿児島市 (2022 年 11 月 11 日)

(5) 学内委員等

総合研究博物館 館長
総合研究博物館 Ichthy, Natural History of Fishes of Japan 編集委員長
ABS 推進室 委員
企画・評価委員会 委員
グローバルセンター 兼務教員
国際島嶼教育研究センター 兼務教員
大学院農林水産学研究科 入試委員会 委員
大学院連合農学研究科 入試委員会 委員
大学院連合農学研究科 学位論文審査委員会 委員

(6) 報道関係

20 年以上「名無し」のハゼ 新種ハゼだった 奄美で採集. 朝日新聞デジタル, 2022 年 4 月 1 日
沸騰ワード 10. 日本テレビ, 2022 年 5 月 20 日, 19:59-20:54
新種のミミズハゼ発見 鹿大研究チーム 奄美大島などの海岸に生息. 南海日日新聞, 2022 年 5 月 25 日
奄美で新種ミミズハゼ 鹿児島大、四国まで分布. 共同通信, 2022 年 6 月 1 日
蟹気楼のような…新種「シラスイミミズハゼ」確認 鹿児島県本土や奄美に生息. 南日本新聞, 2022 年 6 月 1 日, オンライン版
新種ミミズハゼ確認 鹿大チーム 県本土や奄美などに生息. 南日本新聞, 2022 年 6 月 2 日
世界一受けたい授業. 日本テレビ, 2022 年 6 月 4 日, 19:56-21:54
オハグロベラ属の新種また発見 21 年に命名した「キツネオハグロベラ」に似ている…鹿児島大チームが名前を考えた. 南日本新聞オンライン版, 2022 年 6 月 10 日
オハグロベラ属新種発見. 鹿大研究チーム. 「タヌキオハグロベラ」と命名. 南日本新聞, 2022 年 6 月 10 日
2 泊 3 日パラオパーフェクトツアー. 世界さまぁ〜リゾート. TBS, 2022 年 6 月 11 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
新種の「シラスイミミズハゼ」を発見 鹿児島大学の研究チーム. NHK 鹿児島. 2022 年 6 月 21 日, 12:15-
パラオ絶景スポット BEST 5. 世界さまぁ〜リゾート. TBS, 2022 年 6 月 18 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)

アイ・アム・冒険少年. TBS, 2022 年 6 月 27 日, 19:00-22:00
 初確認オキアナゴ属に和名 鹿大・望月さん. 南日本新聞, 2022 年 7 月 2 日
 「チャイロウツボ」と命名 13 年前に国内初発見のウツボ. NHK 鹿児島, 2022 年 7 月 5 日, 18:00-
 命名「チャイロウツボ」 鹿大など国内初確認. 南日本新聞, 2022 年 7 月 6 日
 重富海岸の生物調査. かごしま 4. MBC 南日本放送, 2022 年 7 月 6 日, 15:45-16:50
 東大王. TBS, 2022 年 7 月 20 日, 19:00-
 日南市目井津港で水揚げされた魚 国内 2 例目となる「キツネアカアジ」と確認. Check. MRT 宮崎放送, 2022 年 7 月 29 日, 16:50-17:50
 沖縄 石垣島 2 泊 3 日パーフェクトツアー. 世界さまぁ〜リゾート. TBS, 2022 年 7 月 30 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 フロリダ・キーウェスト 王道 SP. 世界さまぁ〜リゾート. TBS, 2022 年 12 月 10 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 超無敵クラス. 日本テレビ, 2022 年 8 月 6 日, 23:59-24:54
 フロリダ・キーズ横断! キーホッピングツアー. 世界さまぁ〜リゾート. TBS, 2022 年 12 月 17 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 ベトナム ダナン・ホイアン 2 泊 3 日アクティブツアー. 世界さまぁ〜リゾート. TBS, 2022 年 8 月 6 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 アメリカグアムリアル現状調査 SP. 世界さまぁ〜リゾート. TBS, 2023 年 1 月 14 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 手足のようなひれで「歩く魚」 ビエロカエルアンコウ 沖縄美ら海水族館が日本で初確認. 沖縄タイムス, 2022 年 8 月 10 日
 サipan 直行便再開 SP. 世界さまぁ〜リゾート. TBS, 2023 年 1 月 21 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 ギョギョッと サカナ★スター. NHK E テレ, 2022 年 8 月 12 日, 19:25-19:55
 人工交雑魚 鹿児島湾に クエとタカマイの掛け合わせ 養殖から逃げた? 生態系への影響懸念. 南日本新聞, 2023 年 1 月 31 日
 ベトナム クイニョン おすすめスポット Best 7. 世界さまぁ〜リゾート. TBS, 2022 年 8 月 13 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 クック諸島 ラロトンガ島 徹底攻略 SP. 世界さまぁ〜リゾート. TBS, 2023 年 2 月 4 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 情熱大陸. 毎日放送, 2022 年 8 月 21 日, 23:00-
 クック諸島 アイタツキ島 徹底攻略 SP. 世界さまぁ〜リゾート. TBS, 2023 年 2 月 11 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 シリーズ「命きらめく夏の手」第 6 回「浅瀬で卵を守るカエルウオ」. NHK 鹿児島, 2022 年 9 月 5 日
 やばり「別の魚」だった! インド・西太平洋にいる魚、日本で初確認 和名は「オオアカムツ」. 南日本新聞 Web 番, 2023 年 3 月 8 日
 シリーズ「命きらめく夏の手」第 7 回「ウニの放精と精子を狙うイトヒキビラ 自然の厳しさ」. NHK 鹿児島, 2022 年 9 月 6 日
 フェダイ科魚類 日本初確認 大隅諸島で鹿大チーム 命名「オオアカムツ」. 南日本新聞, 2023 年 3 月 9 日
 2 年前の台風で被害を受けたサンゴの今. てげビビ!. NHK 宮崎, 2022 年 9 月 7 日, 18:10-19:00
 新種 [sic: 新顔?] の魚「オオアカムツ」と命名 以前から漁獲でも近縁と混同. 毎日新聞, 2023 年 3 月 9 日
 トルコ 王道リゾート・ボドルム 王道スポット徹底攻略 SP. 世界さまぁ〜リゾート. TBS, 2022 年 10 月 15 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 タイ ブーケット現地調査 SP. 世界さまぁ〜リゾート. TBS, 2023 年 3 月 11 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 神奈川 真鶴半島の海. さわやか自然百景. NHK 総合, 2023 年 3 月 12 日, 7:45-7:59
 日本人が知らない! 未開のリゾート トルコ・チェシュメ 徹底攻略 SP. 世界さまぁ〜リゾート. TBS, 2022 年 10 月 22 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 湾奥干潟 生き物図鑑完成 225 種収録. 南日本新聞, 2023 年 3 月 31 日
 大島紬のように美しい・・・? 奄美で見つけた新種のエソ、「ドロゾメエソ」と命名. 南日本新聞 web news, 2022 年 11 月 3 日
 干潟生き物図鑑作成へ 来春完成 6 日の調査員募集. 南日本新聞, 2022 年 11 月 3 日
 エソ科の新種 奄美で発見. 大島紬にちなみ「ドロゾメエソ」. 南日本新聞, 2022 年 11 月 3 日
 奄美の海で新種の魚「ドロゾメエソ」発見 大島紬にちなみ命名. MBC 南日本放送, 2022 年 11 月 3 日
 島いゆグルメフェスタ. 大島支庁林務水産課. 2022 年 11 月 11-12 月 18
 マルタ島のリアル現状調査 SP. 世界さまぁ〜リゾート. TBS, 2022 年 11 月 12 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
 沸騰ワード 10. 日本テレビ, 2022 年 11 月 18 日, 19:00-21:00
 タビオカウツボ. 南日本新聞, 2022 年 12 月 1 日

大西 佳子 [助教]

田金 秀一郎 [特任助教]

(1) 教育活動

1) 全学共通教育

集中講義「屋久島の環境文化Ⅰー植生ー」(後期)

2) その他

博物館資料論 (前期)

博物館実習事前事後指導 (前期)

理学部地域自然環境実習 (前期)

理学部多様性生物学基礎 (後期)

生物科学特別講義Ⅱ (東京大学・後期)

生物科学セミナーⅣ (東京大学・後期)

(2) 研究活動

1) 研究論文 (査読付)

- Yamamoto, T., Yonekura K., Abe A., Amano M., Toyama H., Shitara T., Tagane S., Hasegawa A., Kashima M., Kajita T., Soejima A., Naiki A. New or additional distribution records of several vascular plant species from Iriomote Island, Japan. *Journal of Japanese Botany*, in press.
- Tagane S., Souladeth P., Tanaka N., Phengmala K., Yahara T. 2023. Two new species and a new record of *Lasianthus* (Rubiaceae) in Laos. *Phytotaxa* 585: 145-153.
- Tagane S., Souladeth P., Tamura M. 2023. *Smilax bolavenensis*, a new species of Smilacaceae from southern Laos. *Phytotaxa* 585: 55-60.
- Fujiwara T., Quang B.H., Tagane S., Murakami N., Oguri E. 2023. *Leptochilus ornithopus* (Polypodiaceae), a new hemiepiphytic fern species from southern Vietnam. *Phytotaxa* 584: 149-160.
- Tanaka N., Honag V., Kieu V.T.T., Khanh T.T.N., Tagane S., Funakoshi H., Souladeth P. 2022. A new species of *Alpinia* (Zingiberaceae: subgenus *Alpinia* subsect. *Catimbiun*) from Laos and Vietnam. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science Series B (Botany)* 49: 25-32.
- Ibaragi Y., Tagane S., Souladeth P. 2022. *Eremochloa ciliatifolia* Hack. (Poaceae), a new record for the flora of Laos. *Journal of Japanese Botany* 98: 45-48.
- Toyama H., Tagane S., Aiba S., Ugawa S., Suzuki E., Yamazaki K., Fuse K., Takashima A., Kadoya T., Takeuchi Y. 2023. High plant diversity and characteristic plant community structure in broad-leaved evergreen forests on Amami-Oshima and Tokunoshima Islands, Japan's newest natural World Heritage Site. *Ecological Research* 2023: 1-17.
- Komada N., Tagane S., Itioka T., Shimizu-kaya U., Meleng P., Nakanishi A., Pungga R.S., Kanzaki M. 2022. Charactersitics of vascular epiphyte flora in a Bornean lowland tropical forest: comarison of species diversity among 11 sites over three biogeographic regions. *Selbyana* 33(5): 63-71.
- Tagane S., Souvannakhommane K., Souladeth P. 2022. *Croton nagoi*, a new species of Euphorbiaceae from southern Laos. *Phytotaxa* 570: 102-108.
- Souladeth P., Tagane S., Souvannakhommane K., Kongxaisavath D. Three new species records of Apocynaceae for the Flora of Laos. *Thai Forest Bulletin, Botany* 50: 146-152.
- Tagane S., Fujii S., Hirota S.K., Naiki A., Yahara T. 2022. *Hydrangea marunoi* (Hydrangeaceae), a new species from Osumi Peninsula, southern Japan. *PhytoKeys* 211: 33-44.
- Ngoc V.N., Son, H.T., Binh H.T., Tagane S., Suyama Y., Yahara T. 2022. A new species of *Lithocarpus* (Fagaceae) from Ca Dam Mountain of Quang Ngai Province, Vietnam. *Systematic Botany* 47(3): 729-737.
- Komada N., Tagane S., Matsuo A., Ngoc N.V., Binh H.T., Nagahama A., Cuong T.Q., Yahara T. 2022. *Beilschmiedia bidoupensis* (Lauraceae), a new species from Bidoup-Nui Ba National Park, southern highland of Vietnam. *Phytotaxa* 559: 285-292.
- Toyama H., Totsu K., Tagane S., Aiba S., Ugawa S., Suzuki E., Yamazaki K., Fuse K., Takashima A., Toyama N., Kadoya T., Takeuchi Y. 2022. A dataset for vascular plant diversity monitoring for the natural World Heritage Site on Amami-Oshima Island, Tokunoshima Island, and the northern Okinawa Island. *Ecological Research* 2022: 676-682.
- Shirai M., Takano A., Kurosawa T., Inoue M., Tagane S., Tanimoto T., Koganeyama T., Sato H., Terasawa T., Horie T., Mandai I., Akihiro T. 2022. Development of a system for the automated identification of herbarium specimens with high accuracy. *Scientific Reports* 12: 8066 (2022).
- Yooprasert S., Culham A., Tagane S., Yahara T., Nguyen V. D., Nguyen K. S. & Utteridge T. M. A. 2022. New species and new status of *Urophyllum* Wall. (Rubiaceae) from Cambodia and Viêtnam. *Adansonia*, sér. 3, 44 (11): 91-114.
- Komada N., Itioka T., Nakanishi A., Tagane S., Shimizu-kaya U., Nakagawa M., Meleng P., Pungga R.A.S., Kanzaki M. 2022. Effects of host tree size on the species richness and abundance of epiphyte assemblages in a Bornean lowland tropical forest. *Tropics* 30(4): 53-61.

2) 研究論文 (査読無)

- 鈴木英治・田金秀一郎・久保紘史郎. 鹿児島県の維管束植物分布図集補遺 II. 鹿児島植物研究会誌 12: 18-21.
- 田金秀一郎. 2022. 鹿児島県の外来植物 XIV: 奄美大島におけるクルマバヒメクグの帰化. *Nature of Kagoshima* 49: 113-115.
- 田金秀一郎・田中珠樹・田中睦美・鈴木英治. 2022. 鹿児島県の維管束植物分布図種補遺 I: アオイスマレ, オトメスマレ, アカフタチツボスマレ. 鹿児島植物研究会誌 12: 1-3.

3) 書籍

- 田金秀一郎. 2023. 第7章 新種, また新種. いつになったら終わるのか?—東南アジアの植物の新種 140 種超. 島野智之・脇司(編) 新種発見物語. 足元から深海まで 11 人の研究者が行く! (岩波ジュニア新書). 岩波書店, 東京.
- 川原勝征(著)・田金秀一郎(監修). 2022. 九州のシダ植物検索図鑑. 南方新社, 鹿児島.
- 田金秀一郎(分担執筆), ホライゾン編集室(編). 2022. 改訂版 生命めぐる島・奄美 森と海と人と. 南日本新聞社, 鹿児島.

4) 学会・シンポジウム等発表

- 本宮万愛・高橋大樹・田金秀一郎・渡邊謙太・内貴章世・陶山佳久. 琉球列島における照葉樹林構成種の遺伝的多様性の分布. 第 70 回日本生態学会大会. 2023 年 3 月 17-21 日. Online. Poster.
- 新宅 和 憲・Sawita Yooprasert・Sukontip Sirimongkol・Manop Poopath・Rachun Pooma・Yang Yong-Ping・Pu Fading・田金秀一郎・矢原徹一・高橋晃太郎・布施静香・田村実. ジャノヒゲ属(クサスギカズラ科)の系統と栄養器官の進化. 第 22 回日本植物分類学会. 2023 年 3 月 1-5 日. 千葉大学 + Online. Poster.
- 原田泰地・藤井伸二・山城考・田金秀一郎・松尾歩・陶山佳久・伊藤拓朗・牧雅之. ため池減水裸地に優占するカヤツリグサ属植物に関する分子系統解析. 第 22 回日本植物分類学会. 2023 年 3 月 1-5 日. 千葉大学 + Online. Poster.
- 後藤祐奈・伊藤拓朗・藤井伸二・加藤英寿・井上正隆・柿島聡・堀江佐知子・村上将希・田金秀一郎・牧雅之. 隔離分布種ハクサンボクにおける分子系統地理的解析. 第 22 回日本植物分類学会. 2023 年 3 月 1-5 日.

千葉大学 + Online. Poster.
 鈴木英治・田金秀一郎・鶴川信・奥山正樹. 奄美大島の世界自然遺産地域内外の外来種. 第22回日本植物分類学会. 2023年3月1-5日. 千葉大学 + Online. Oral.
 永濱藍・田金秀一郎・陶山佳久・矢原徹一. 東・東南アジアにおける樹木の展葉・開花・結実フェノロジーの緯度勾配. 第22回日本植物分類学会. 2023年3月1-5日. 千葉大学 + Online. Poster.
 Mana Motomiya, Daisuke Takahashi, Shuichiro Tagane, Akiyo Naiki, Kentaro Watanabe, Takuro Ito, Yoshihisa Suyama. Distribution of genetic diversity in evergreen broadleaved forests in the Ryukyu Islands. CAPES-JSPS Molecular Ecology Workshop. December 5-9, 2022, Instituto Alto Montana da Serra Fina - Itamonte, Minas Gerais, Brazil. Oral.
 Hiroya Taguchi, Daisuke Takahashi, Takuro Ito, Shuichiro Tagane, Royta Sugawara, Emiko Oguri, Harue Abe, Yoshihisa Suyama. Phylogeography of *Juniperus taxifolia* var. *lutchuensis* (Cupressaceae) with a disjunct distribution in the island areas of Japan. CAPES-JSPS Molecular Ecology Workshop. December 5-9, 2022, Instituto Alto Montana da Serra Fina - Itamonte, Minas Gerais, Brazil. Oral.
 田金秀一郎. 熱帯アジアの植物多様性パターンと新種率. 第1405回生物科学セミナー. 2022年11月30日. 東京大学. Oral (招待講演).
 本宮万愛, 高橋大樹, 田金秀一郎, 内貴章世, 渡邊謙太, 伊藤拓朗, 陶山佳久. 地史および人為によって形成された琉球列島におけるリュウキュウチク節分類群の遺伝的集団構造. 第54回種生物学会. 2022年11月26日, 12月3-4日. つくば + Online. Poster.
 田口裕哉, 高橋大樹, 伊東拓朗, 田金秀一郎, 菅原峻太, 小栗恵美子, 阿部晴恵, 陶山佳久. オキナワハイネズを中心とした国内ビャクシン属種群の分子系統地理学的解析. 第54回種生物学会. 2022年11月26日, 12月3-4日. つくば + Online.
 永濱藍, 田金秀一郎, 陶山佳久, 矢原徹一. 南ベトナムの熱帯山地林における樹木の展葉・開花・結実フェノロジー. 第54回種生物学会. 2022年11月26日, 12月3-4日. つくば + Online. Poster.
 Hiroya Taguchi, Daisuke Takahashi, Takuro Ito, Shuichiro Tagane, Royta Sugawara, Emiko Oguri, Harue Abe, Yoshihisa Suyama. Phylogeography of *Juniperus* species (Cupressaceae) with a disjunct distribution in the island areas of Japan. The 20th International Symposium on Integrated Field Science "Biodiversity and Phylogeography" November 23, 2022, Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University, Sendai, Japan. Oral.
 Mana Motomiya, Daisuke Takahashi, Shuichiro Tagane, Akiyo Naiki, Kentaro Watanabe, Takuro Ito, Yoshihisa Suyama. Population genetic structure of a bamboo taxon, *Pleioblastus* Sect. *Pleioblastus*, in the Ryukyu Islands formed by geohistory and human activity. The 20th International Symposium on Integrated Field Science "Biodiversity and Phylogeography" November 23, 2022, Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University, Sendai, Japan. Oral.
 田金秀一郎. 網羅的な植物調査から見えてきた東南アジアにおける植物の多様性パターンと新種率. 第32回日本熱帯生態学会年次大会 (JASTE32). 2022年6月19日. 名古屋 + Online. Oral (招待講演).
 田金秀一郎. 鹿児島から東南アジアにかけての植物の多様性. 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター第219回研究会. 2022年5月30日. 鹿児島 + Online. Oral.

(3) 外部資金

環境研究総合推進費 「次世代 DNA バーコードによる絶滅危惧植物の種同定技術の開発と分類学的改訂 (4-2001)」(分担)
 日本学術振興会 科研費基盤研究 (C) 「鹿児島県の植物相解明に向けた維管束植物標本のデータベース整備と活用」(代表)
 日本学術振興会 科研費基盤研究 (C) 「次世代シーケンサー導入による植物相調査の迅速化〜ベトナム中部高原地帯を事例として」(分担)
 日本学術振興会 科研費基盤研究 (A) 「マダガスカル固有の進化適応から熱帯樹種の乾燥への適応戦略の本質を理解する」(分担)
 日本学術振興会 国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B)) (分担) 「熱帯の植物多様性の総点検: 生物学の種概念に基づいてタイ産単子葉植物の種を捉え直す」
 一般財団法人沖縄美ら島財団 共同研究 「西表島植物誌編纂に係る植物標本データベースの作成」
 長尾自然環境財団 研究者育成支援プログラム (CGF) 「Species diversity and conservation status assessment of the dye-yielding plants used by the indigenous people in Lam Dong Province, Vietnam」(プロジェクトコーディネーター)
 独立行政法人国立科学博物館 「自然史系博物館所有の生物多様性情報」に関わるデータ提供

(4) 社会貢献・学外活動

日本植物分類学会 標本問題対応委員会 委員
 日本植物分類学会 普及推進委員会委員 委員
 鹿児島植物研究会 会誌編集委員
 鹿児島自然環境保全協会 Nature of Kagoshima 編集理事
 環境省 霧島錦江湾国立公園指定植物検討委員
 首都大学東京 客員研究員
 東京大学 非常勤講師
 Thai Forest Bulletin, Botany 編集委員

(5) 学内委員等

鹿児島大学理学部地球環境学科 非常勤講師
 総合研究博物館 第23回自然観察ツアー「冠岳の植物」企画・担当
 総合研究博物館 第5回バックヤードツアー「植物標本室」企画・担当

(6) 主な調査研究 (学会や会議は除く)

2023年2月18-24日 ベトナム: Bidoup Nui Ba National Park

2023 年 2 月 10 日 -3 月 6 日 マダガスカル：Ankarafantsika National Park
 2023 年 2 月 4-5 日 鹿児島県：奄美大島
 2023 年 1 月 22-29 日 沖縄県：沖縄島やんばる
 2023 年 1 月 4-9 日 鹿児島県：奄美大島
 2022 年 12 月 10-23 日 ベトナム：Kon Chu Rang Nature Reserve, Kon Ka Kin National Park
 2022 年 11 月 16-21 日 沖縄県：西表島
 2022 年 10 月 23-24 日 鹿児島県：奄美大島
 2022 年 10 月 22 日 鹿児島県：いちき串木野市
 2022 年 10 月 14-16 日 鹿児島県：種子島
 2022 年 10 月 12 日 鹿児島県：南さつま市
 2022 年 9 月 21-24 日 熊本県：阿蘇, 大分県：久住
 2022 年 9 月 8-12 日 鹿児島県：奄美大島
 2022 年 8 月 13-26 日 マレーシア：サラワク州 Santubong National Park
 2022 年 7 月 27-29 日 福島県, 山形県, 新潟県
 2022 年 7 月 17 日 鹿児島県：志布志市
 2022 年 6 月 27 日 -7 月 1 日 沖縄県：西表島
 2022 年 6 月 10 日 鹿児島県：肝付町
 2022 年 6 月 7 日 鹿児島県：南さつま市, 日置市
 2022 年 6 月 2-3 日 東京大学博物館植物標本室 (TI)
 2022 年 5 月 22 日 鹿児島県：さつま町
 2022 年 5 月 19-21 日 鹿児島県：下甕島
 2022 年 5 月 3-5 日 鹿児島県：紫尾山, 大隅半島
 2022 年 4 月 16 日 鹿児島県：紫尾山
 2022 年 4 月 2 日 鹿児島県：枕崎市

(7) 報道関係

正答率 96.4% AI で植物の種名判定 標本画像取り込み→候補名 1 ～ 5 位 瞬時に表示 鹿児島大・田金特任
 助教ら開発, 南日本新聞, 2022 年 6 月 24 日
 小人のしわざ? ゆらゆらと自ら揺れるイチゴの苗の謎 専門家も「想像つかない」, 南日本放送, 2022 年 10
 月 12 日.

21 2022年度 ポスター

特別公開 新種
キモツクサアジサイ
Hydrangea marunoi



2022年10月、大隅半島の肝属山地に生育するクサアジサイの仲間が当館に収蔵されている標本を基に新種『キモツクサアジサイ』として記載されました。その標本を特別に公開し、キモツクサアジサイの特徴について解説いたします

鹿児島大学総合研究博物館 常設展示室2階(入館無料)
 2022年10月20日～11月30日(休館:日・月曜日)10:00～16:30
 ※臨時開館・休館を行う場合があります。当館ホームページやブログ、Twitter等でご確認の上、お越しください
 Tel 099-285-7259 Website <https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

鹿児島大学総合研究博物館
 第40回 市民講座



江戸後期薩摩藩の
 学問と学者たちの交流
 —増田直治をめぐって—

2022年12月17日(土) 13:30～15:00

講師: 永山修一
 (ラ・サール学園、鹿児島大学非常勤講師)

場所: オンライン・Zoomにて開催
 参加無料(13:00から接続できます)

申し込み: 下記URLかQRコードからアクセス
<https://onl.la/g583prt>



・メールアドレス等の届け不要です。
 ・接続可能人数: 300人まで(接続順)
 ・Zoomの使用法の案内・説明は各々で行いません。
 ・お一人ずつアンケートに答え、Zoom情報は転載しないようお願いします。

鹿児島大学総合研究博物館
 099-285-8141 <https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

鹿児島大学総合研究博物館 2022年度イベント
 自然体験ツアー&バックヤードツアー

1) 第22回自然体験ツアー
冠岳の植物
 日時: 2022年10月22日(土) 9:00～12:00
 場所: いちき串木野市/薩摩川内市 冠岳
 ※現地集合・解散
 案内者: 田金秀一郎(鹿児島大学総合研究博物館)
 参加費: 無料
 持参物: 飲み物、観察道具(ルーペなど)
 ※小雨決行、大雨の場合は中止
 ※ハイキングのできる服装でご参加ください
 約4kmの登山を楽しみながら冠岳周辺に生育する植物を観察します(初級～中級者向け)

2) 第4回バックヤードツアー
植物標本庫
 日時: 2022年12月10日(土) 10:00～12:00
 場所: 鹿児島大学総合研究博物館 共同利用棟2階 植物標本室
 案内者: 田金秀一郎(鹿児島大学総合研究博物館)
 参加費: 無料
 持参物: 基本的にありませんが、マスク着用等、コロナ対策にご協力をお願いします



植物標本庫はどんなところ? 何のために存在するの?
 普段入ることのできない鹿児島大学総合研究博物館の植物標本室にて、「研究資料」としての植物標本の意義や、身近な植物の名前の調べ方、博物館での収蔵管理や利用について解説します

申込方法: 次の事項をハガキ、FAX、またはemailに明記し、下記までお送りください。個人情報はこの企画の目的以外には使用致しません。参加決定者には後日詳しいプログラムをお送りします。

- ① 参加を希望するイベント名
- ② 参加希望者全員の氏名・年齢
- ③ 住所
- ④ 電話番号、FAXまたはemailアドレス

応募締切: 1)自然体験ツアー 2022年10月12日(水) 16:00必着
 2)バックヤードツアー 2022年12月2日(金) 16:00必着

定員: 各7名(どちらも希望者が定員を超えた場合は抽選となります)

応募先: 鹿児島大学総合研究博物館
 〒890-0065 鹿児島市都元1-21-30
 Tel: 099-285-8141 Fax: 099-285-7267 email: info@kaum.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学総合研究博物館年報

Annual Report of the Kagoshima University Museum

No. 20

2021・2022

2023. 08. 31

鹿児島大学総合研究博物館 The Kagoshima University Museum
890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan
Printed in Japan